

**在宅介護実態調査  
報告書**

令和2年3月

**関川村**

# 目 次

<b>1 調査概要</b> .....	<b>1</b>
<b>2 調査結果</b> .....	<b>2</b>
調査対象者本人について .....	2
<b>(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討</b> .....	<b>5</b>
1. 家族等による介護の状況 .....	5
2. 施設等検討の状況 .....	7
3. 介護者が不安に感じる介護.....	8
4. サービス利用の状況 .....	10
5. サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況の関係.....	14
6. サービス利用の組み合わせと主な介護者が不安に感じる介護の関係.....	16
7. サービス利用の回数と施設等検討の状況の関係 .....	19
8. サービス利用の回数と主な介護者が不安に感じる介護の関係 .....	21
<b>(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討</b> .....	<b>27</b>
1. 主な介護者の就労状況 .....	27
2. 主な介護者が行っている介護と就労継続見込み .....	29
3. サービスの利用状況・不安に感じる介護と就労継続見込みの関係.....	32
4. サービス利用の組み合わせと就労継続見込みの関係 .....	35
5. 就労状況・保険外の支援・サービスの利用状況と施設等検討の状況の関係 .....	36
6. 介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援について.....	38
<b>(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討</b> .....	<b>41</b>
1. 保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス.....	41
2. 世帯類型×要介護度別の保険外の支援・サービスの利用状況.....	44
3. 世帯類型×要介護度別の必要と感じる支援・サービス .....	48
<b>(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討</b> .....	<b>52</b>
1. 要介護度と世帯類型 .....	52
2. 要介護度×世帯類型別の家族等による介護の頻度 .....	53
3. 要介護度・認知症自立度×世帯類型別のサービス利用の組み合わせ .....	54
4. 要介護度・認知症自立度×世帯類型別の施設等検討の状況.....	56
<b>(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討</b> ....	<b>58</b>
1. 要介護度・世帯類型別の主な介護者が行っている介護.....	59
2. 訪問診療の利用割合 .....	61
3. 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ.....	62
4. 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無 .....	63
<b>(6) 抱えている疾病など</b> .....	<b>64</b>
1. 要介護度・訪問診療の利用の有無別の抱えている疾病.....	64
2. 認知症自立度・世帯類型別の必要と感じる支援・サービス .....	66

# 1 調査概要

## 1. 調査目的

第8期介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）を策定するにあたり、介護保険サービスの利用状況や家族等介護者の就労状況を把握し、在宅生活の継続や介護者等の就労継続の実現に向けた介護サービス基盤の充実を図ることを目的として実施しました。

## 2. 調査方法

- 調査対象者：在宅で生活している要支援、要介護認定者（施設入所者等を除く）
- 調査期間：令和元年12月～令和2年2月実施
- 調査方法：アンケート調査（介護支援専門員による聞き取り）

## 3. 回収結果

- 調査対象者数：211人
- 回収数（回収率）：211件（100.0%）
- 有効回答数：208件

## 4. 報告書の見方

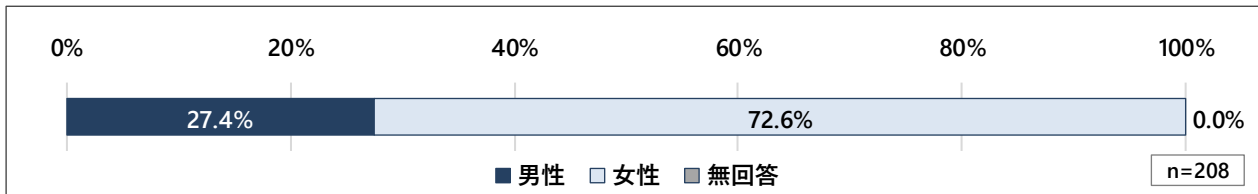
- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
  - ② 回答の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。
  - ③ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が100.0%を超えることがあります。
  - ④ 年齢など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致しない場合があります。
- ※ クロスグラフの回答者数「n」が少数の場合は、その傾向に注意が必要です。
- ※ 世帯類型の「その他」については、グラフ内に「その他」がある場合、区別しやすいよう「その他世帯」と表記しています。

## 2 調査結果

### 調査対象者本人について

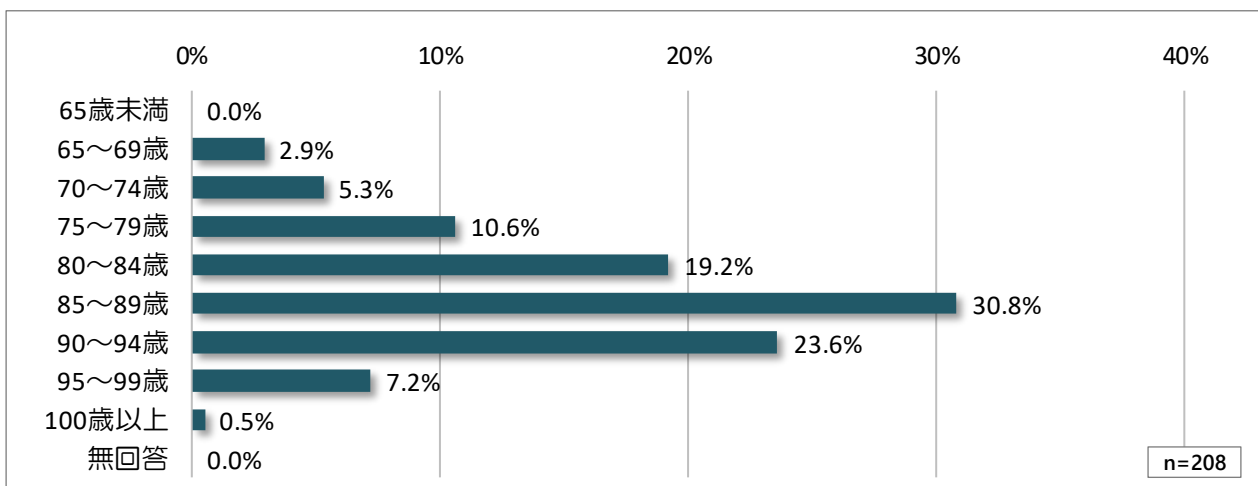
#### ●性別

「男性」が27.4%、「女性」が72.6%となっています。



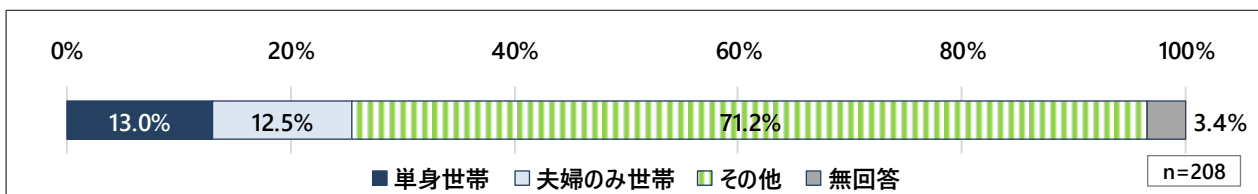
#### ●年齢

74歳以下は8.2%、75歳以上の後期高齢者が91.9%となっています。



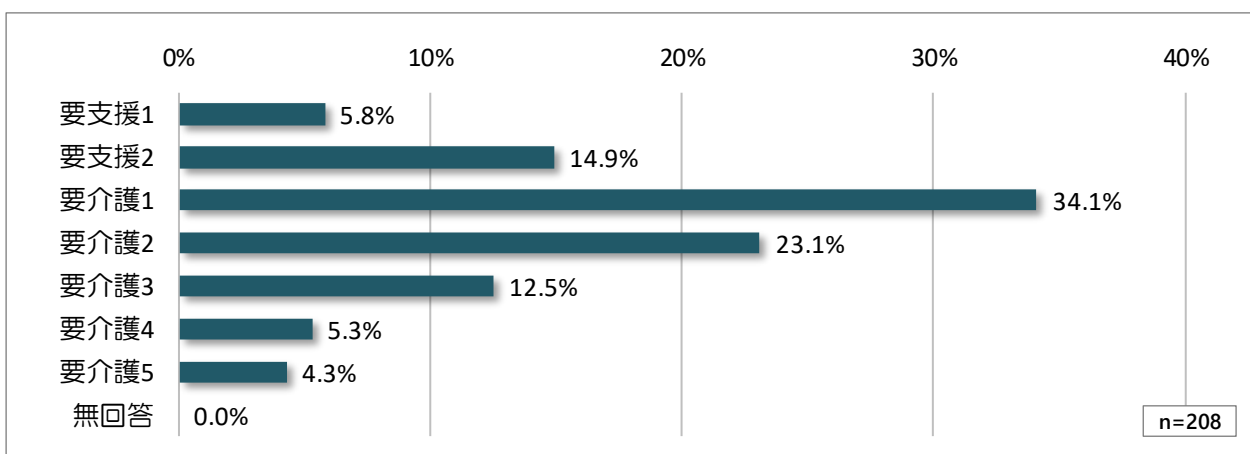
#### ●世帯類型

「単身世帯」が13.0%、「夫婦のみ世帯」が12.5%、「その他世帯」が71.2%となっています。



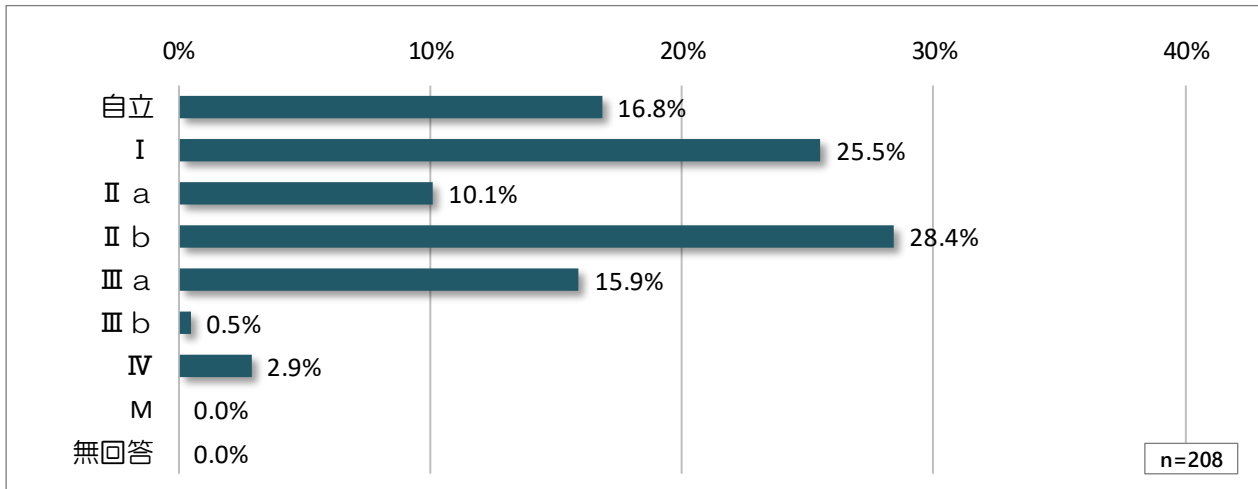
### ●認定区分（二次判定結果）

要支援1・2が20.7%、要介護1・2が57.2%で、要介護3以上は22.1%となっています。



## ● 認知症日常生活自立度

認知症日常生活自立度は「Ⅱb」が28.4%、「Ⅱa」が10.1%で、「Ⅱ」が38.5%となっています。「Ⅲ」は16.4%、「Ⅳ」は2.9%となっています。



### 【参考】 認知症高齢者の日常生活自立度判断基準

レベル	判定基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している状態
Ⅱ a	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭外でみられても、誰かが注意していれば自立できる状態
Ⅱ b	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが家庭内でみられても、誰かが注意していれば自立できる状態
Ⅲ a	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが日中を中心にみられ、介護を必要とする状態
Ⅲ b	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが夜間を中心にみられ、介護を必要とする状態
Ⅳ	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁にみられ、常に介護を必要とする状態
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする状態

## (1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行いました。

### 1. 家族等による介護の状況

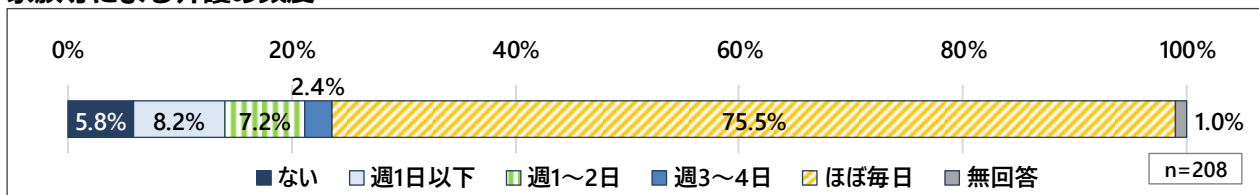
家族等による介護の頻度は「ほぼ毎日」が75.5%となっています。

主な介護者と本人との関係は、「子」が42.3%と最も高く、次いで「配偶者」が31.1%、「子の配偶者」が19.9%などとなっています。

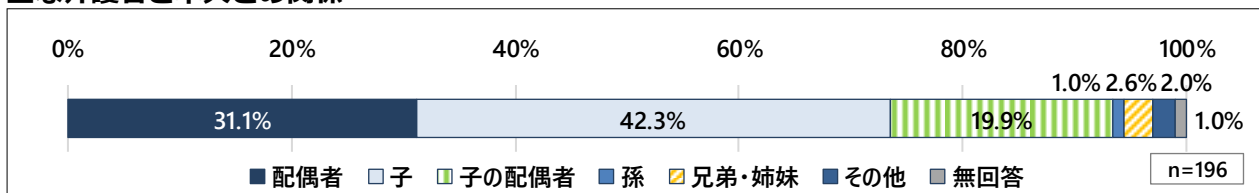
主な介護者の性別は「男性」が35.2%、「女性」が63.8%となっています。

主な介護者の年齢は、「60歳台」が33.7%と最も高く、次いで「70歳台」が23.5%、「50歳台」が21.4%などとなっています。

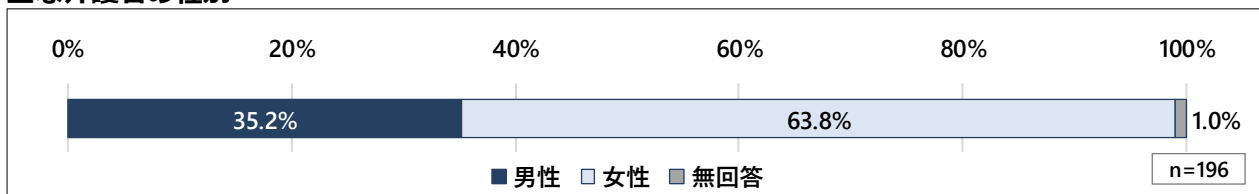
#### 家族等による介護の頻度



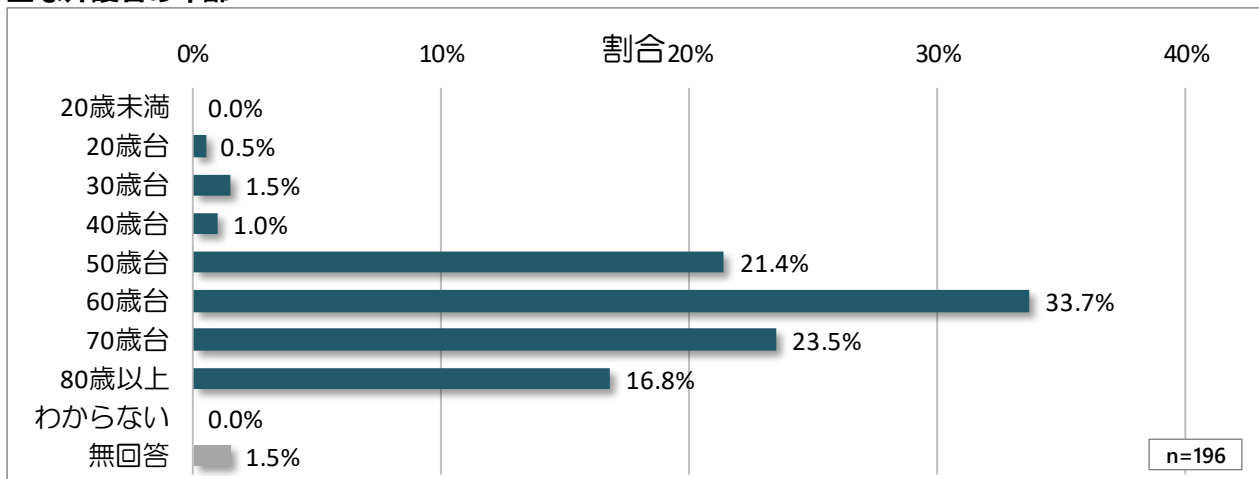
#### 主な介護者と本人との関係



#### 主な介護者の性別



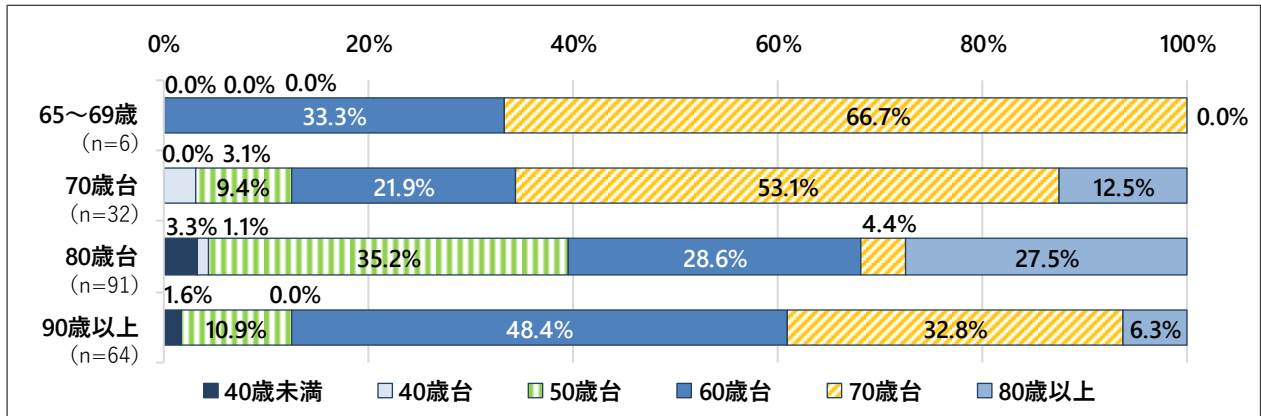
#### 主な介護者の年齢



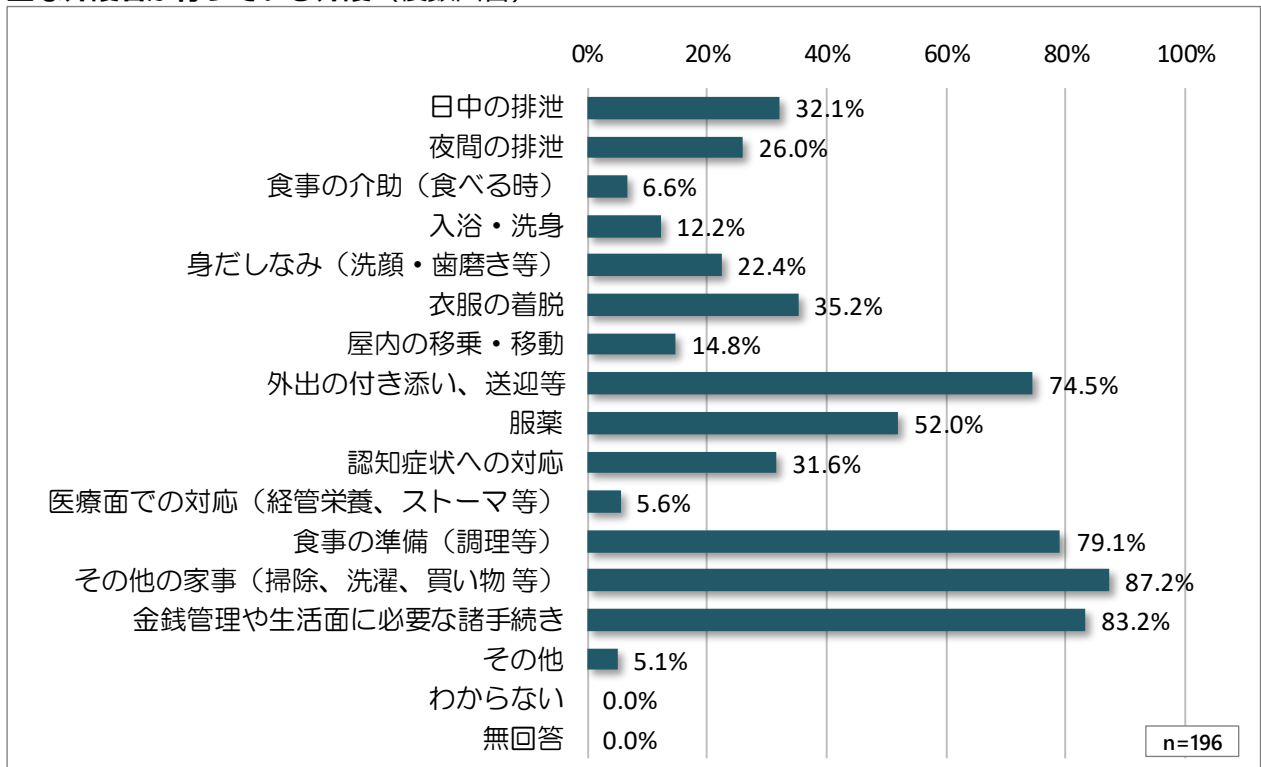
本人の年齢別に主な介護者の年齢をみると、本人が80歳未満の場合は「70歳台」の割合が高くなっていますが、本人が80歳台では「50歳台」、本人が90歳以上では「60歳台」の割合が高くなっています。

主な介護者が行っている介護をみると、「(食事の準備以外の)家事」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「食事の準備」、「外出の付き添い、送迎等」の割合が高くなっています。

### 本人の年齢別 主な介護者の年齢



### 主な介護者が行っている介護 (複数回答)

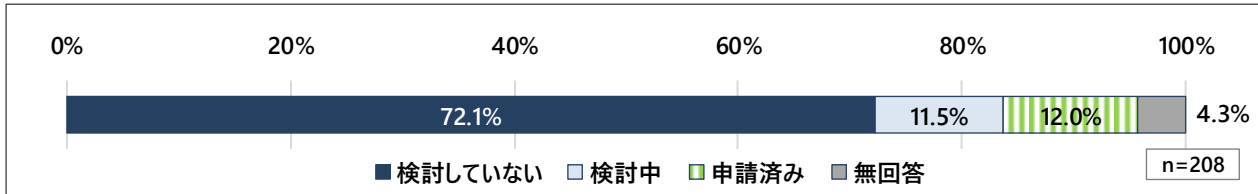




## 2. 施設等検討の状況

現時点での、施設等への入所・入居の検討状況については、「検討していない」が72.1%、「検討中」が11.5%で、「申請済み」は12.0%となっています。

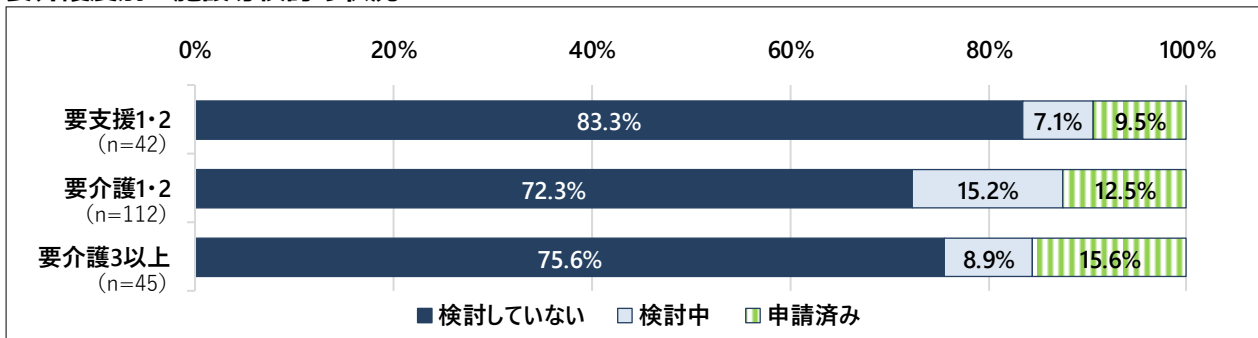
### 施設等検討の状況



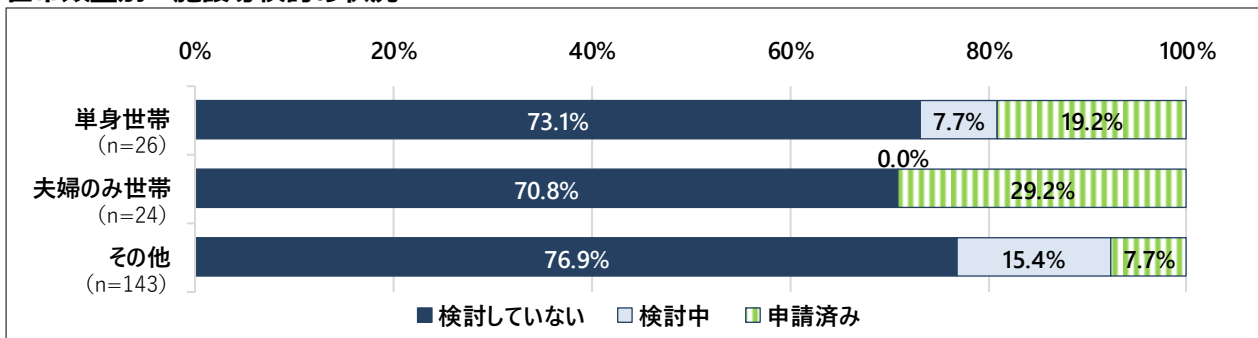
要介護度別に施設等検討の状況を見ると、要支援1・2で「検討していない」割合が最も高く、重度化に伴い「申請済み」の割合が高くなっています。

世帯類型別にみると、「検討していない」割合が最も高いのはその他世帯で76.9%、最も低いのは夫婦のみ世帯で「検討していない」が70.8%、「申請済み」が29.2%となっています。

### 要介護度別・施設等検討の状況



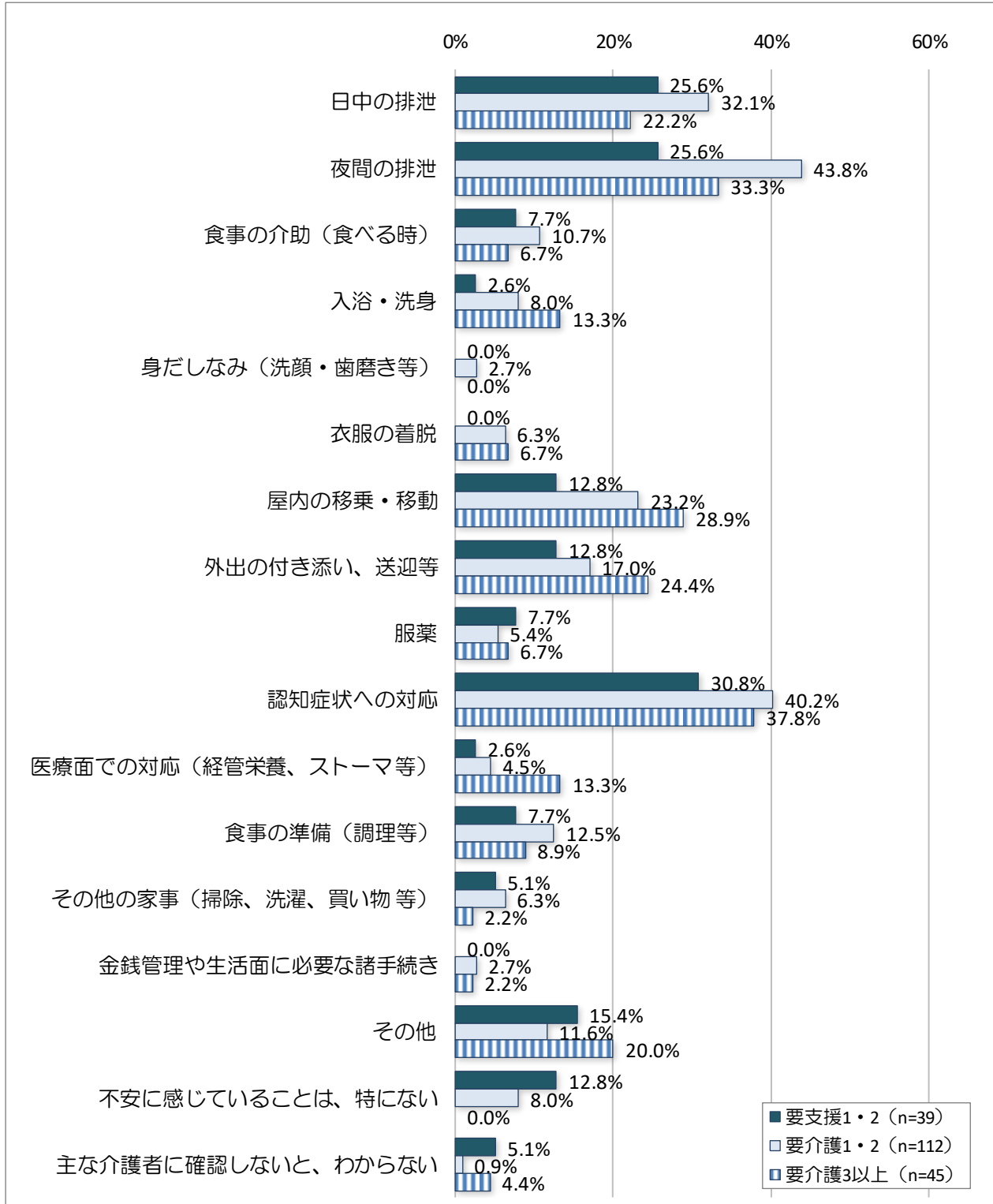
### 世帯類型別・施設等検討の状況



### 3. 介護者が不安に感じる介護

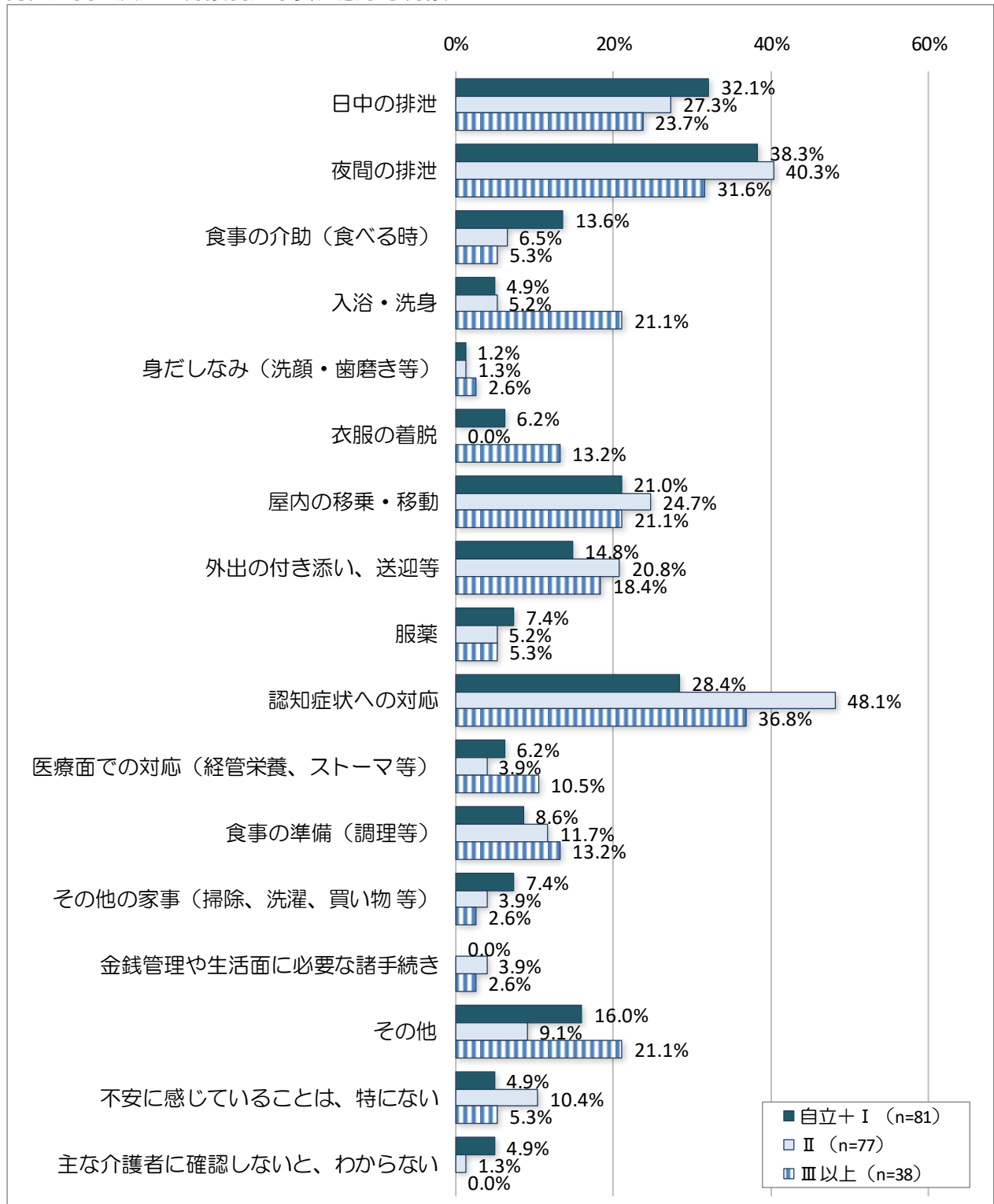
現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護について要介護度別にみると、「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「日中の排泄」の割合が高くなっています。重度化に伴い割合が高くなっているのは「外出の付き添い、送迎等」、「屋内の移乗・移動」、「入浴・洗身」、「医療面での対応」となっています。

要介護度別・介護者が不安に感じる介護



認知症自立度別にみても「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「日中の排泄」の割合が高くなっています。重度化に伴い割合が高くなっているのは「入浴・洗身」、「食事の準備」、「身だしなみ」となっています。

**認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護**



#### 4. サービス利用の状況

介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しました。介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

##### サービス利用の分析に用いた用語の定義

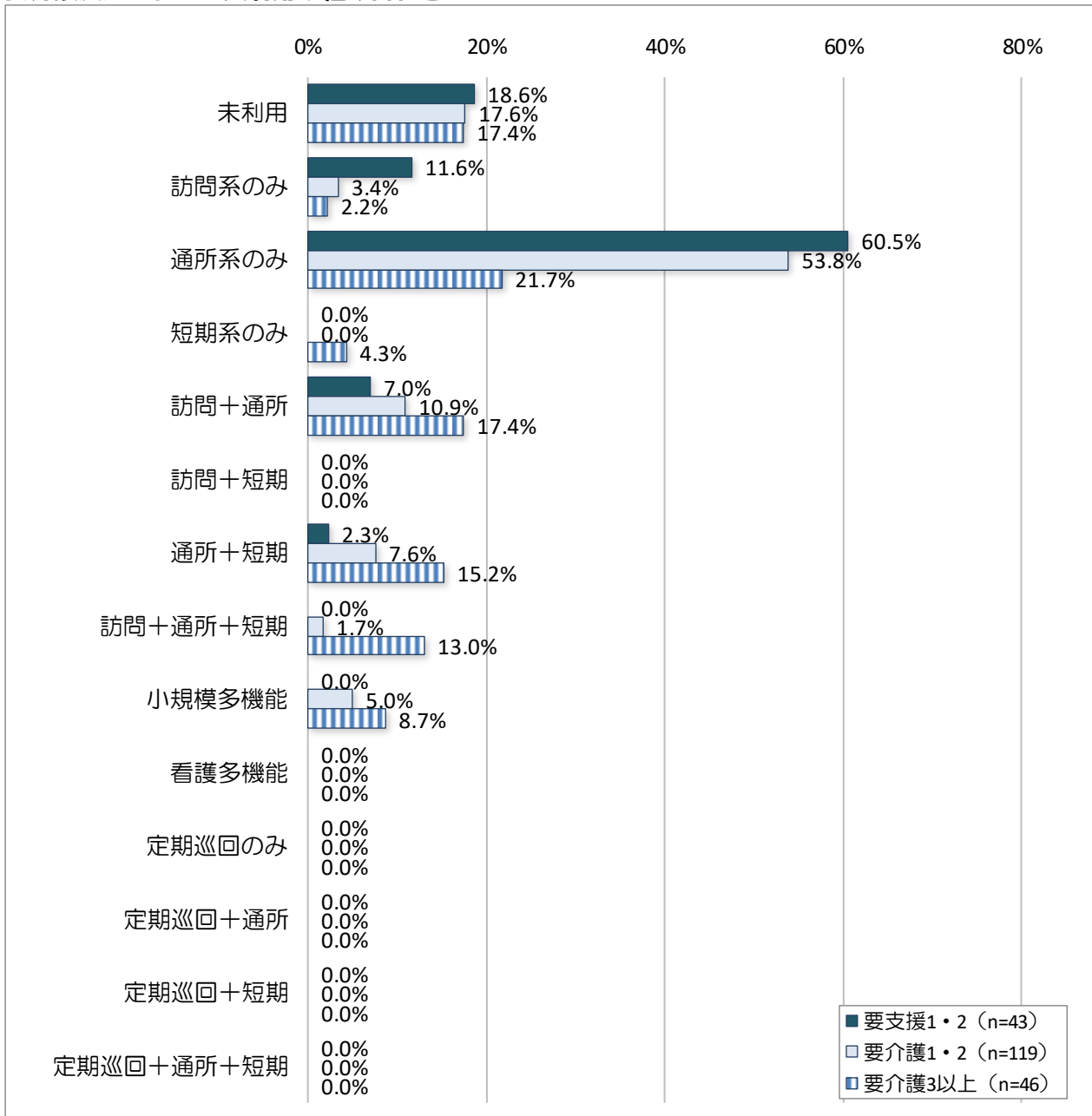
用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

##### サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語	定義
未利用	・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系のみ	・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計しています。

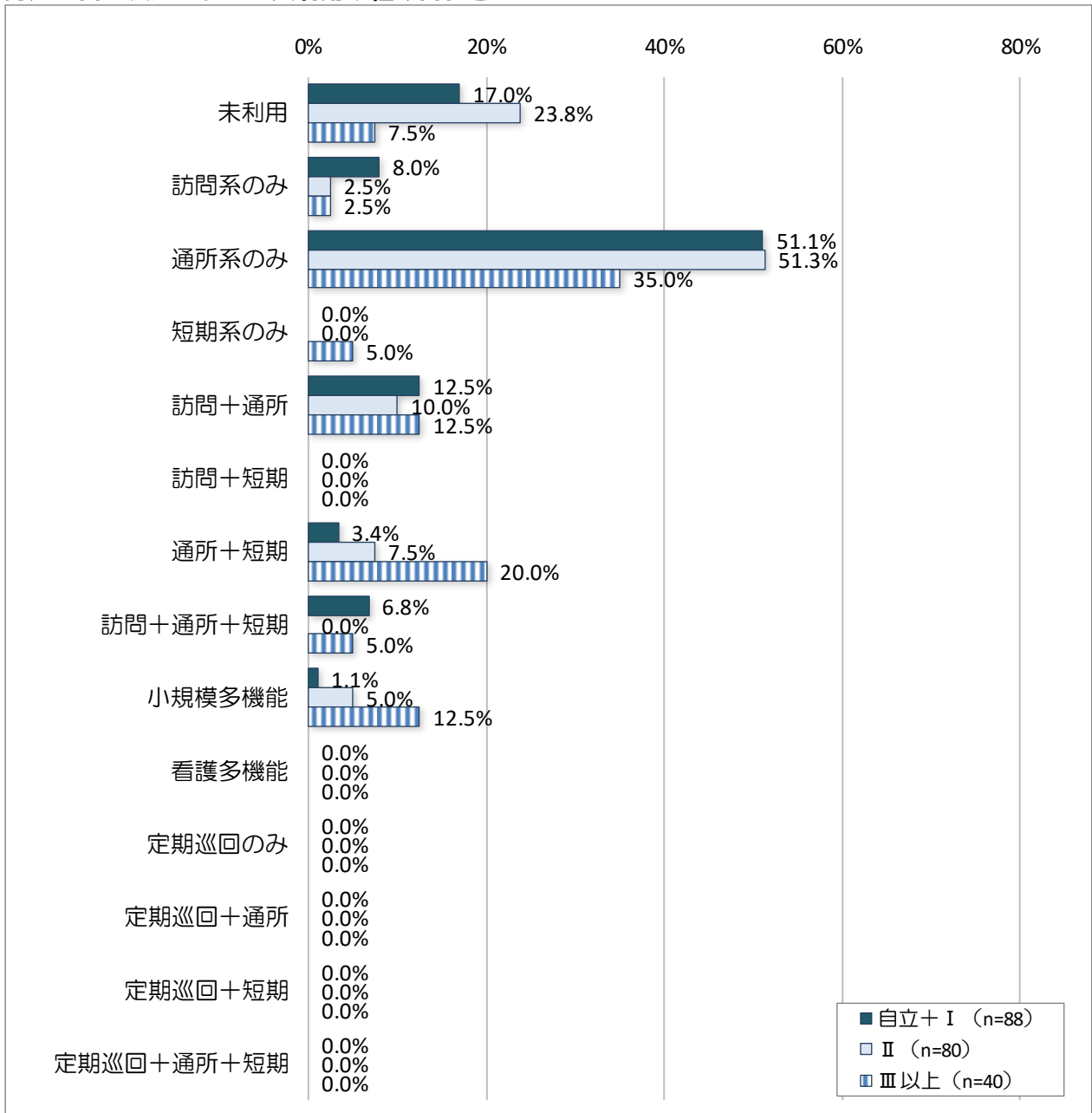
サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、重度化に伴い「訪問＋通所」、「通所＋短期」、「訪問＋通所＋短期」といった組み合わせの利用の割合が高くなっています。

### 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



認知症自立度別にみると、重度化に伴い「通所＋短期」、「小規模多機能」の割合が高くなっています。

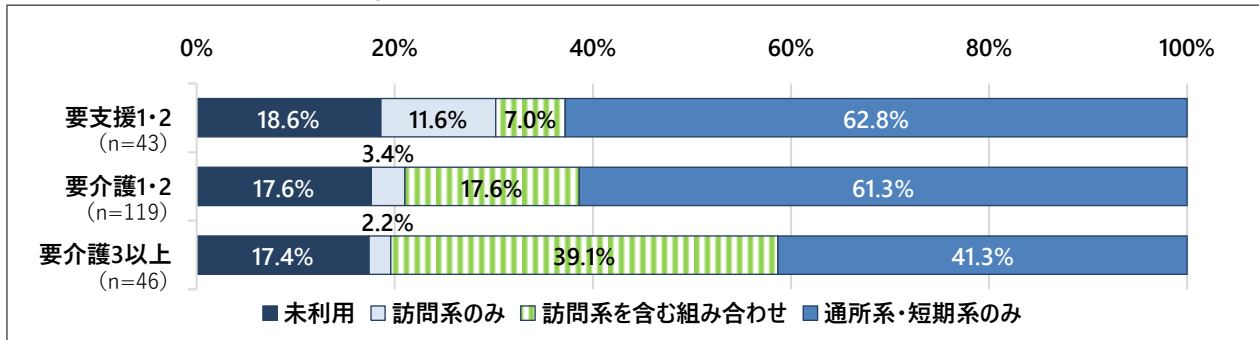
**認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ**



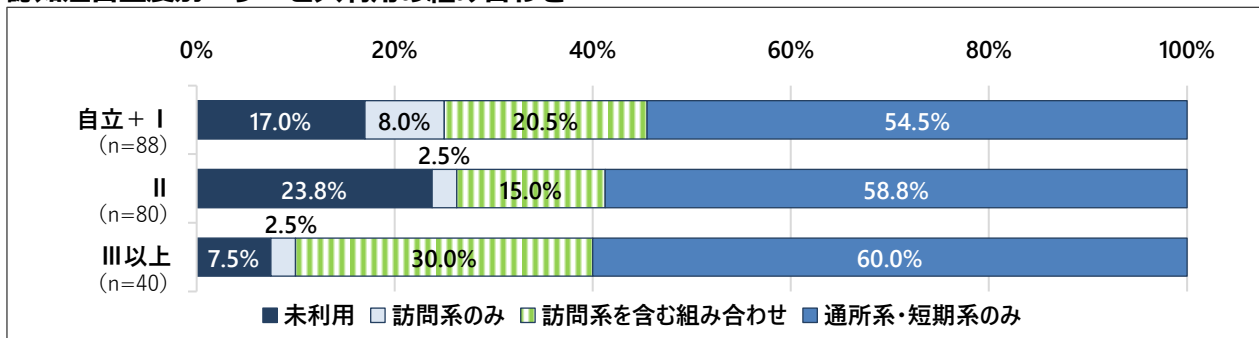
サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらに訪問系と他のサービスを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類し、要介護度別にみると、重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が増加しています。

認知症自立度別にみると、重度化に伴い、「訪問系を含む組み合わせ」と「通所系・短期系のみ」の割合が増加していく傾向にあります。

#### 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



#### 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



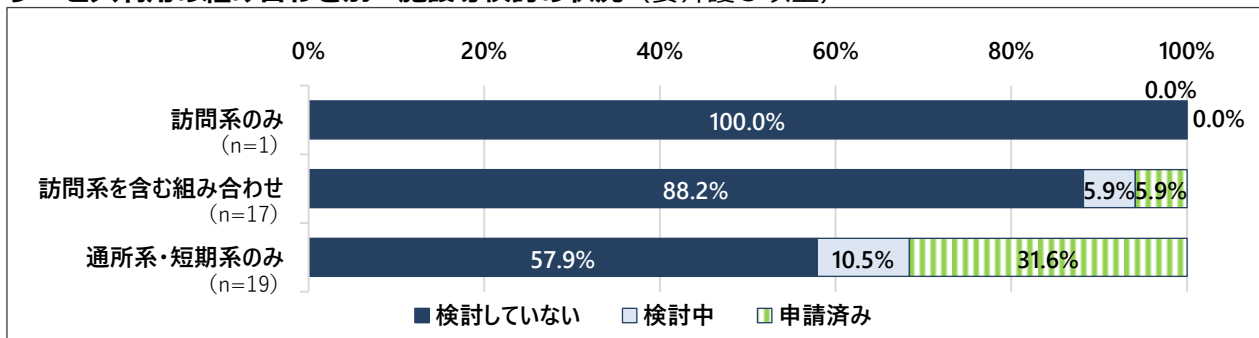
## 5. サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況の関係

「サービス利用の組み合わせ」別の「施設等検討の状況」について、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析しました。

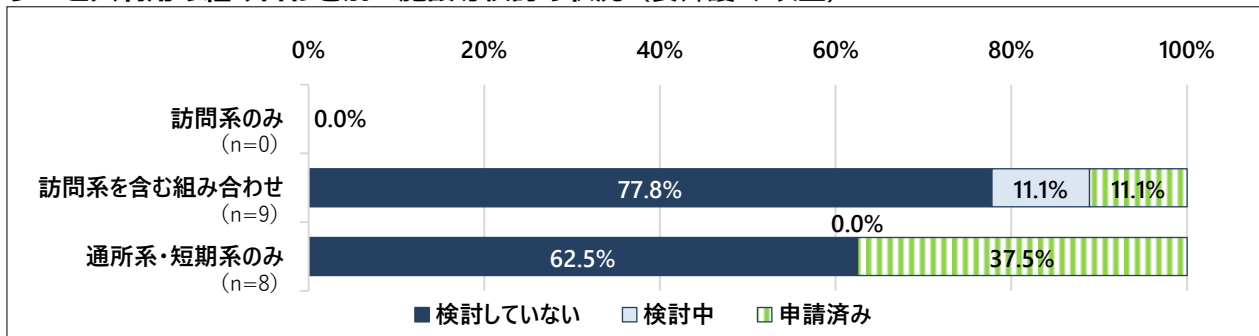
要介護度別にみると、該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、要介護3以上、要介護以上ともに「通所系・短期系のみ」で施設等への入所を「検討していない」割合が低く、「申請済み」の割合が高くなっています。

認知症自立度Ⅲ以上では、訪問系のサービスを利用している該当者（「訪問系のみ」および「訪問系を含む組み合わせ」）では「検討していない」が100.0%となっています。

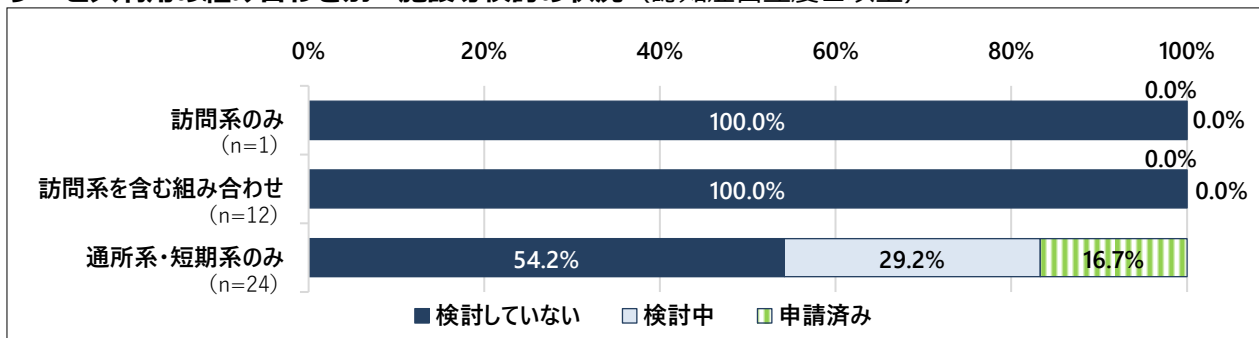
サービス利用の組み合わせ別・施設等検討の状況（要介護3以上）



サービス利用の組み合わせ別・施設等検討の状況（要介護4以上）



サービス利用の組み合わせ別・施設等検討の状況（認知症自立度Ⅲ以上）



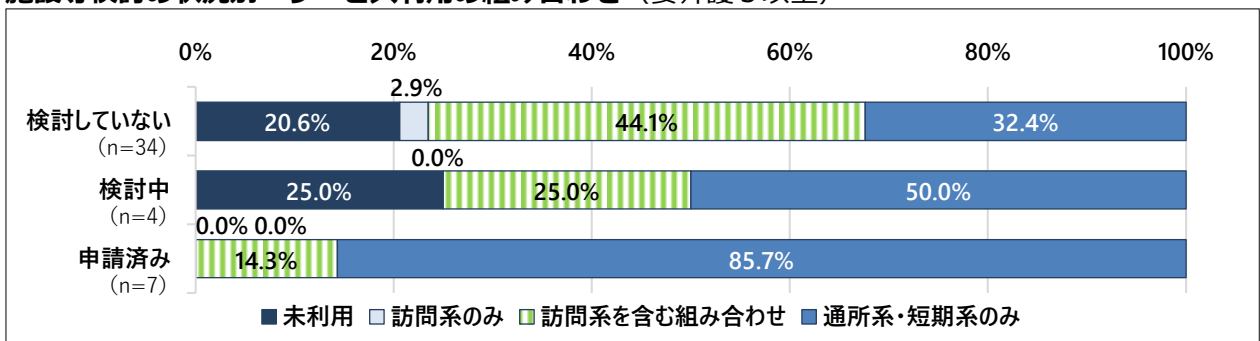


また、「施設等検討の状況」別に「サービス利用の組み合わせ」の割合を要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析しました。

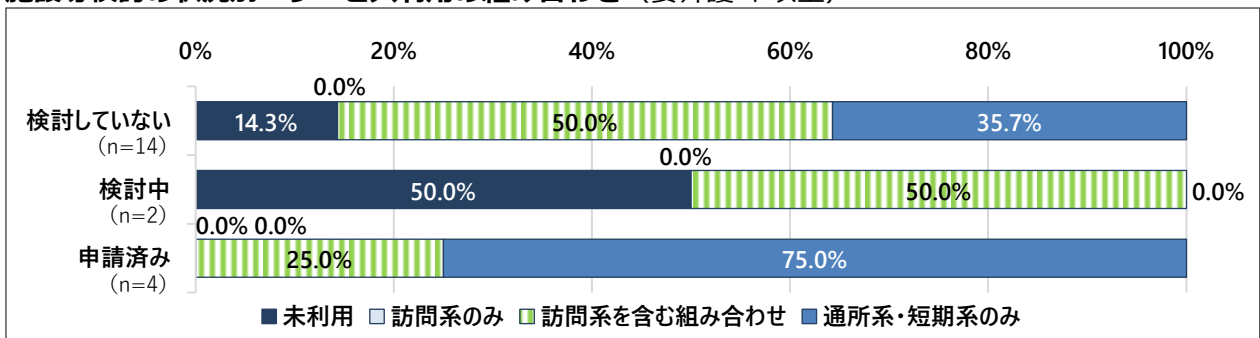
「施設等検討の状況」と「サービス利用の組み合わせ」の関係を見ると、「検討中」と「申請済み」の該当者数（n値）が少ないため、傾向を判断することは難しいですが、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。「検討中」でサービスを「未利用」の割合が高い傾向にある一方で、「申請済み」では「未利用」は0.0%となっています。

施設に入所する必要があるような、より介護者の負担が大きいケースでは、「通所系・短期系のみ」の利用が多くなっている、または「通所系・短期系のみ」の利用では、介護者の負担が大きく施設に入所する必要があると考えられます。

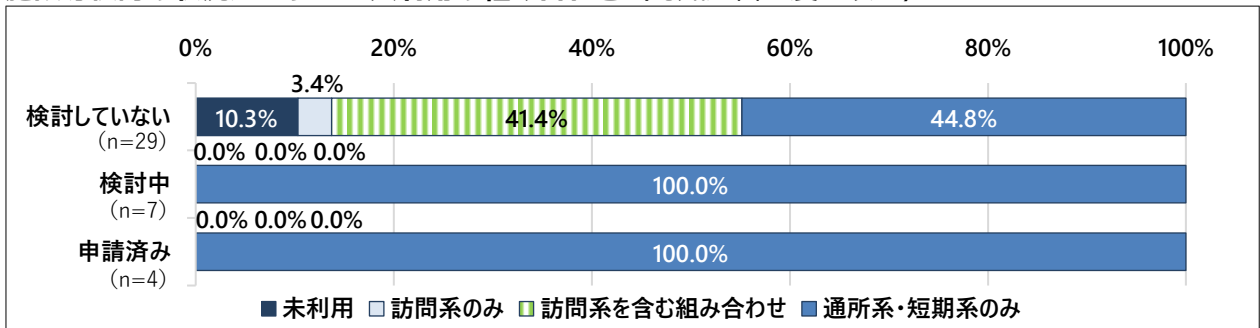
施設等検討の状況別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）



施設等検討の状況別・サービス利用の組み合わせ（要介護4以上）



施設等検討の状況別・サービス利用の組み合わせ（認知症自立度Ⅲ以上）



## 6. サービス利用の組み合わせと主な介護者が不安に感じる介護の関係

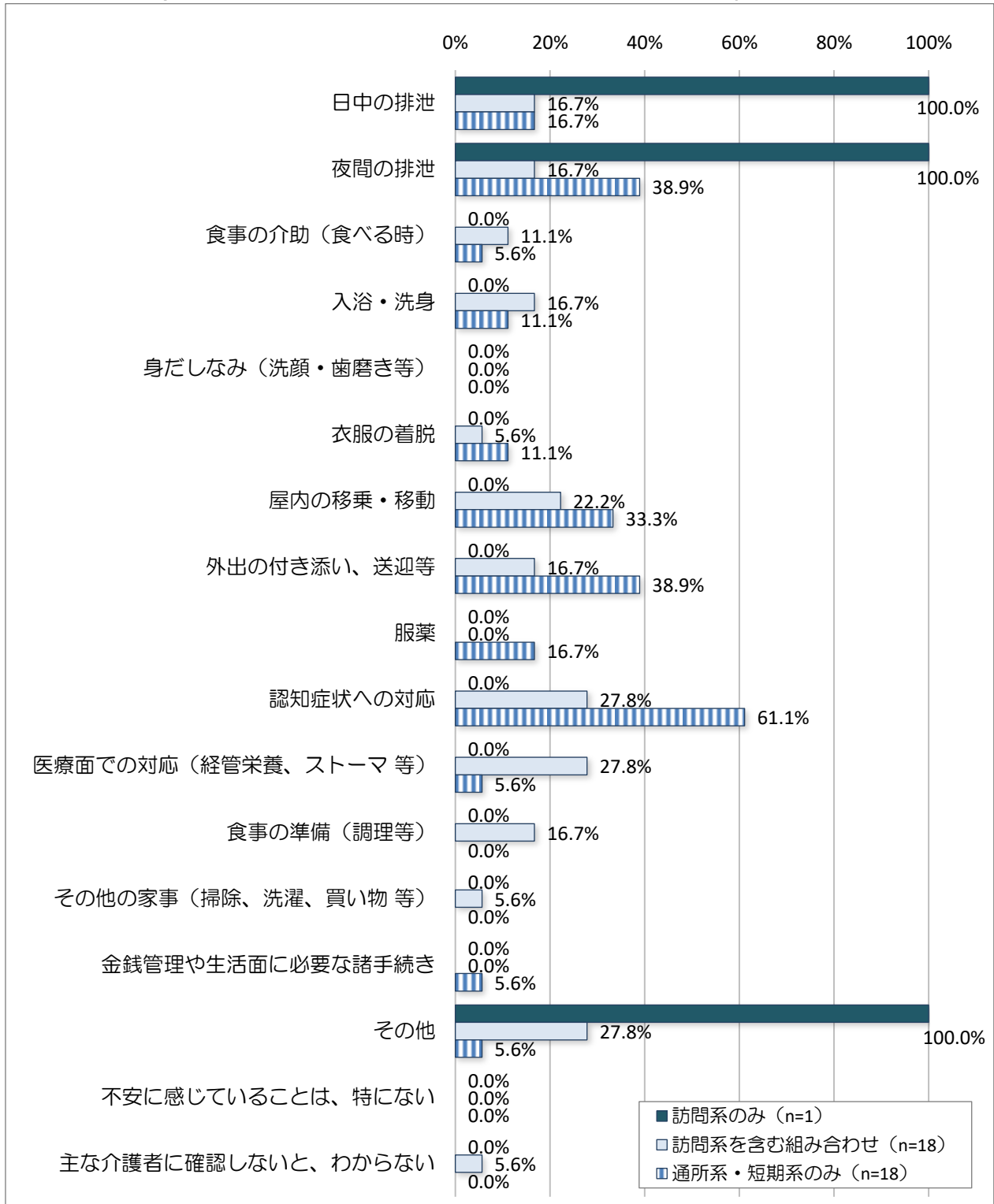
「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析しました。

「訪問系のみ」は該当者数(n値)が少ないため、傾向を判断することは難しいですが、主な介護者が不安に感じる介護として割合が高かった、「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「日中の排泄」について、要介護3以上、認知症自立度Ⅲ以上ともに「訪問系を含む組み合わせ」では割合が低くなっています。

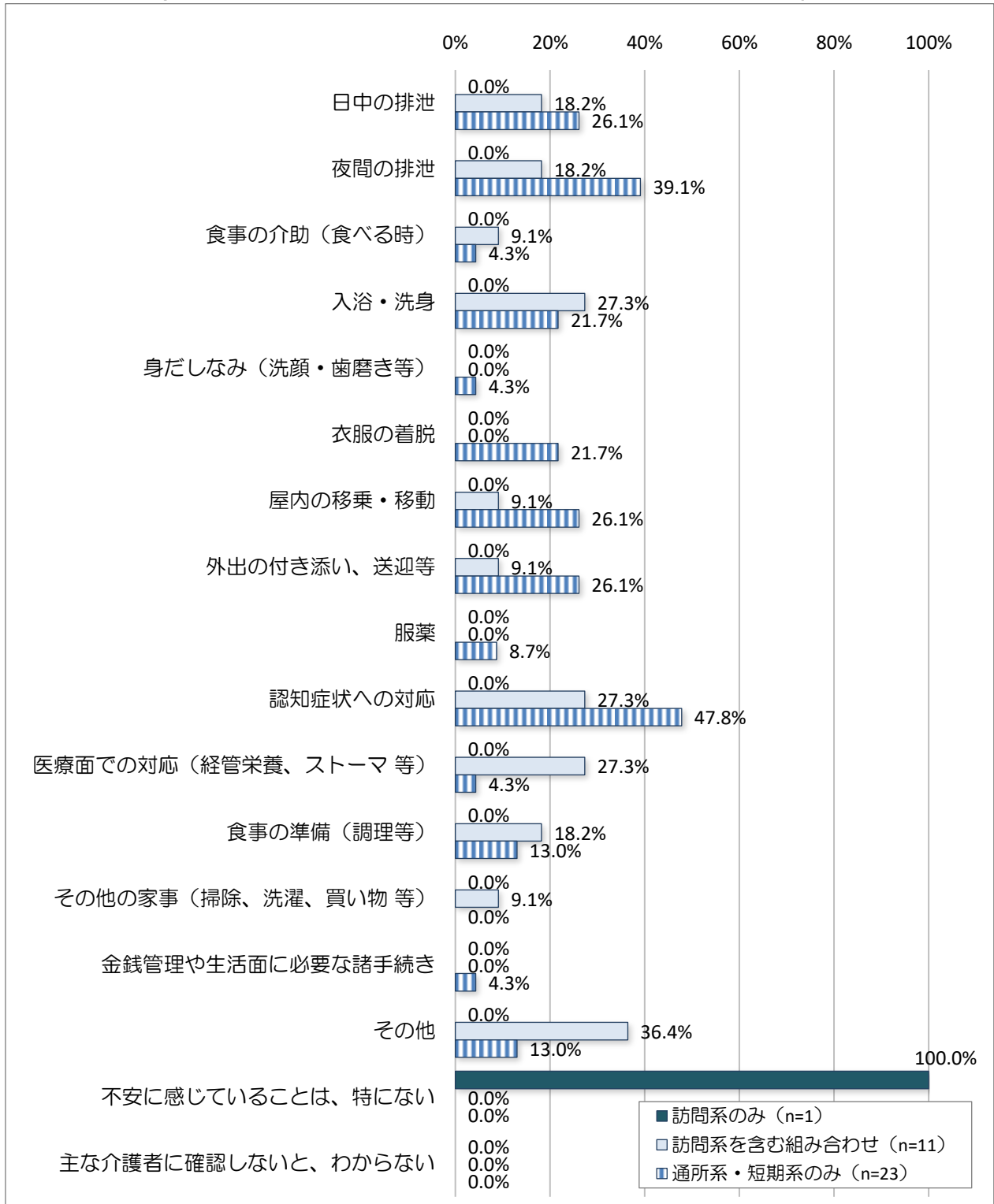
「通所系・短期系のみ」では、「食事の準備」、「入浴・洗身」で割合が低くなっています。レスパイト機能のあるサービスを利用することで、介護者が家事に専念することができるため、また、デイサービスなどで入浴させているためと考えられます。また、「医療面での対応」でも割合が低くなっていますが、訪問系のサービスを利用していない家庭では、実際に行われている割合が低いと考えられます。

これらのことから、現在はレスパイト中心のサービス利用であるケースについても、必要に応じて「訪問系を含む組み合わせ」利用を推進していくことで、介護者の不安を軽減し、在宅限界点の向上につなげていくことも可能であると考えられます。

サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症自立度Ⅲ以上）



## 7. サービス利用の回数と施設等検討の状況の関係

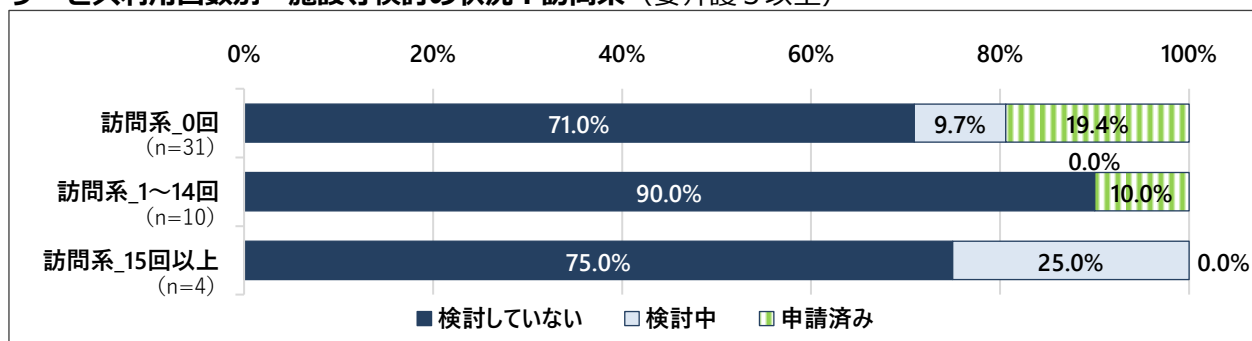
訪問系・通所系・短期系それぞれについて、「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係について、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析しました。

訪問系サービスの利用回数別では、該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、訪問系サービスを利用している方が、施設等への入所を「検討していない」割合が高くなっています。

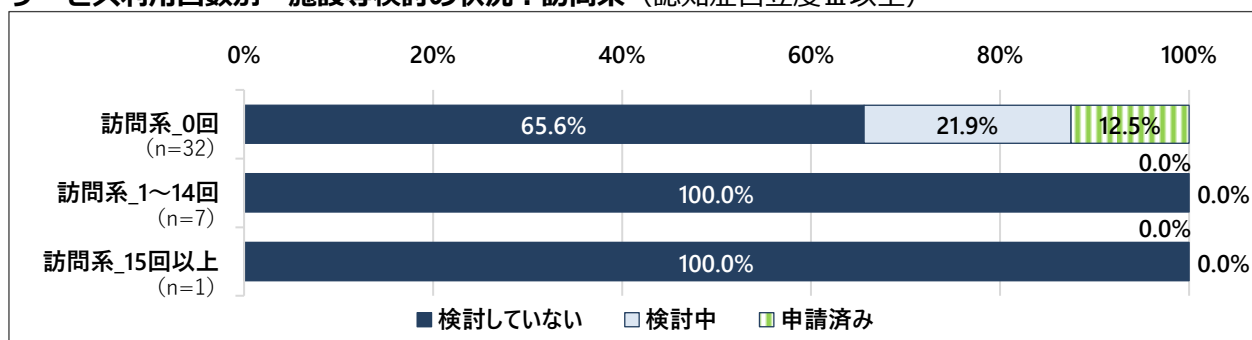
通所系サービスの利用回数別では、「15回以上」の該当者数（n値）が少ないですが、通所系サービスを利用している方が、施設等への入所を「検討していない」割合が低くなっています。

短期系サービスの利用回数別では、該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、短期系サービスを利用している方が、施設等への入所を「検討していない」割合が低くなっています。

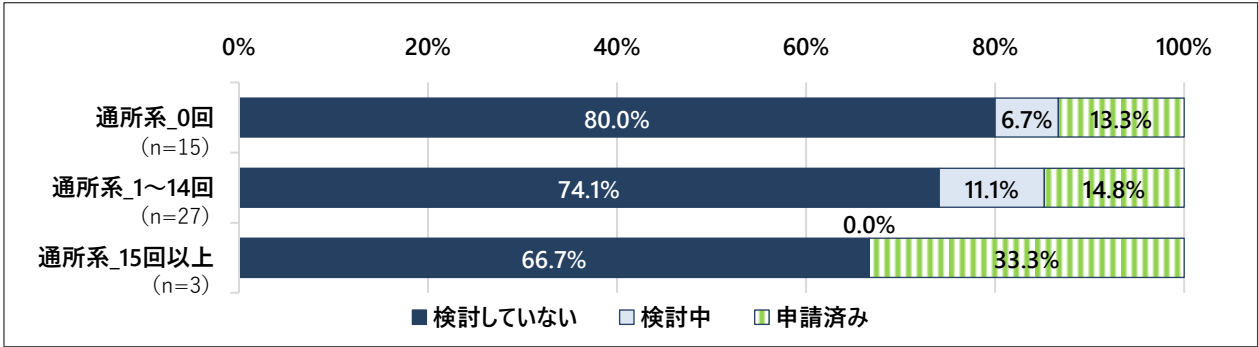
### サービス利用回数別・施設等検討の状況：訪問系（要介護3以上）



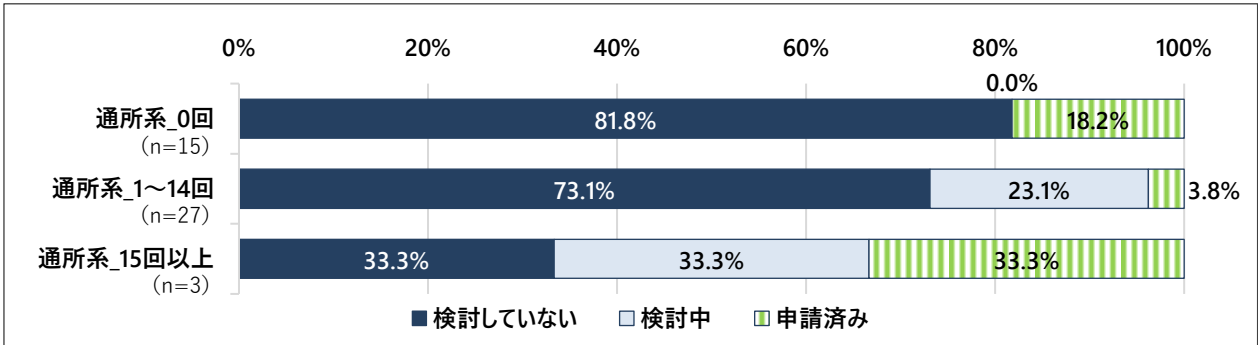
### サービス利用回数別・施設等検討の状況：訪問系（認知症自立度Ⅲ以上）



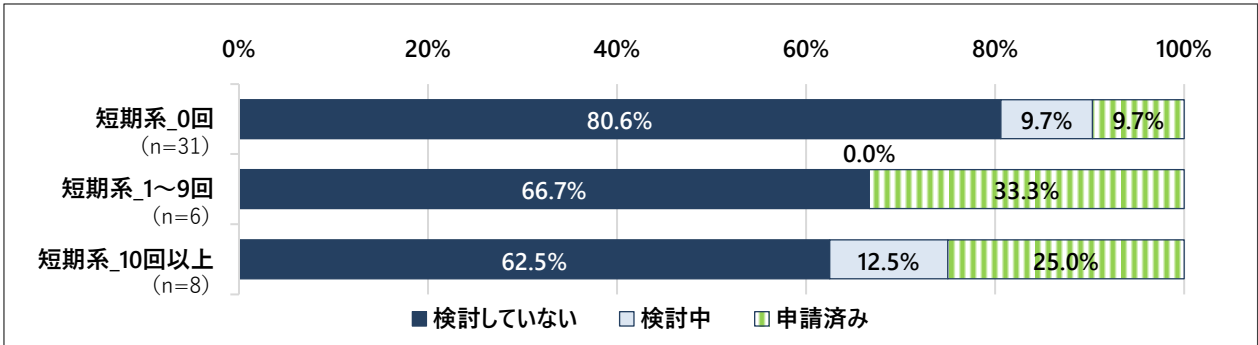
サービス利用回数別・施設等検討の状況：通所系（要介護3以上）



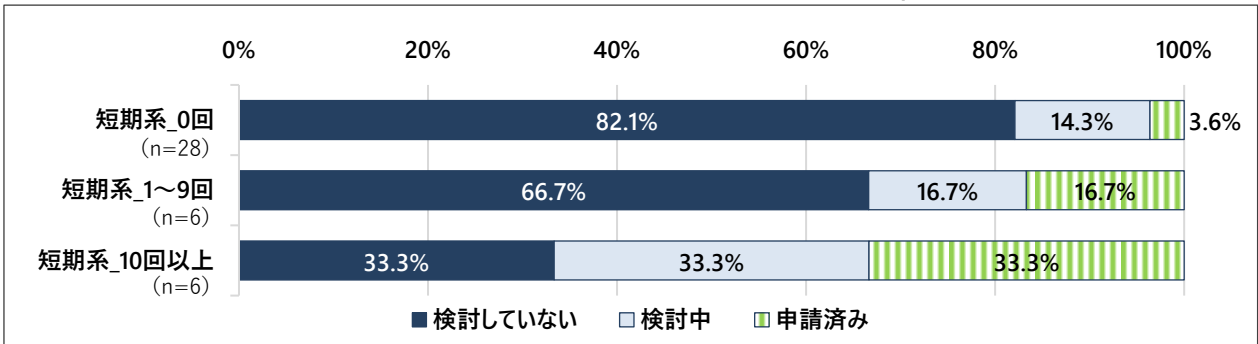
サービス利用回数別・施設等検討の状況：通所系（認知症自立度Ⅲ以上）



サービス利用回数別・施設等検討の状況：短期系（要介護3以上）



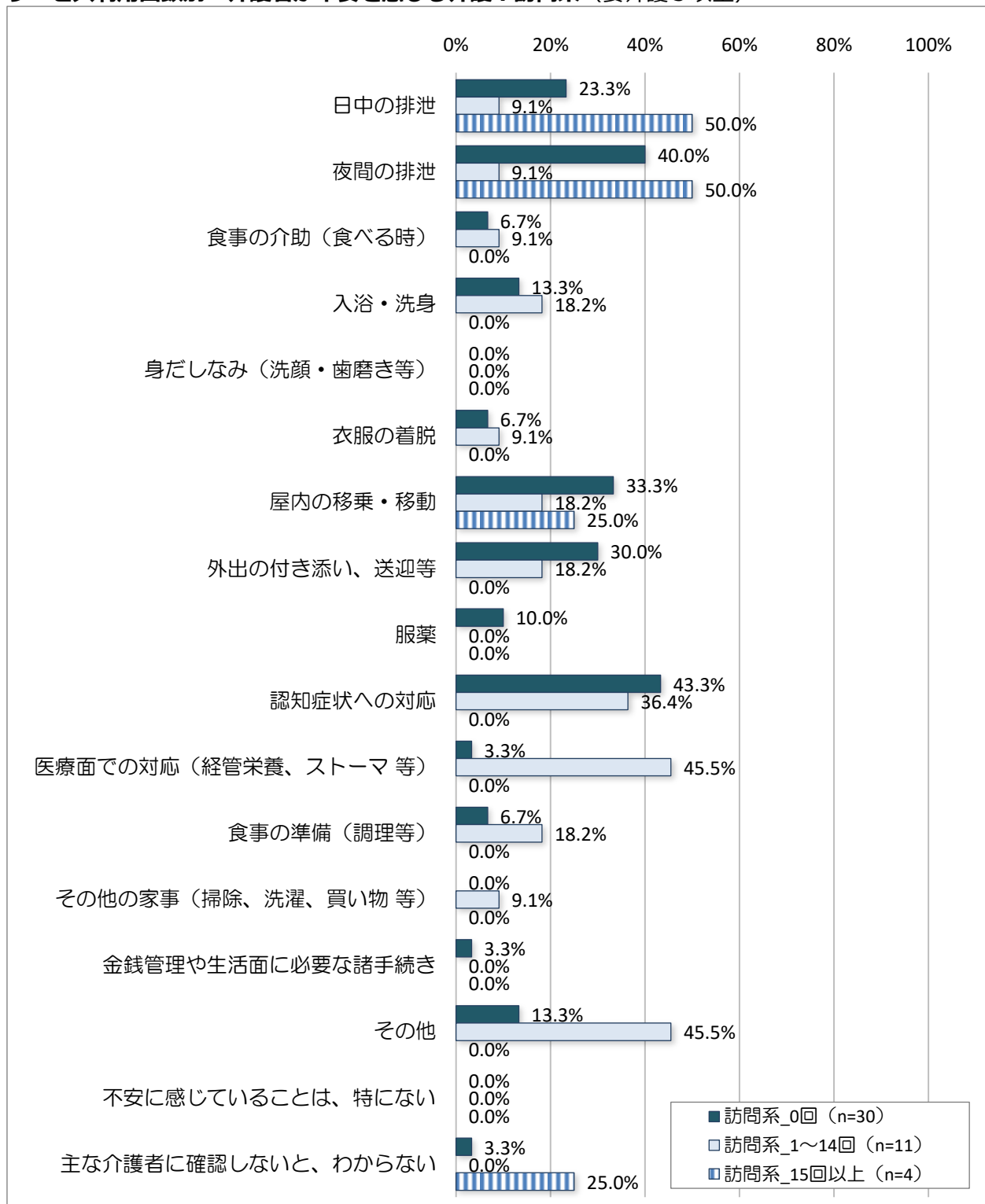
サービス利用回数別・施設等検討の状況：短期系（認知症自立度Ⅲ以上）



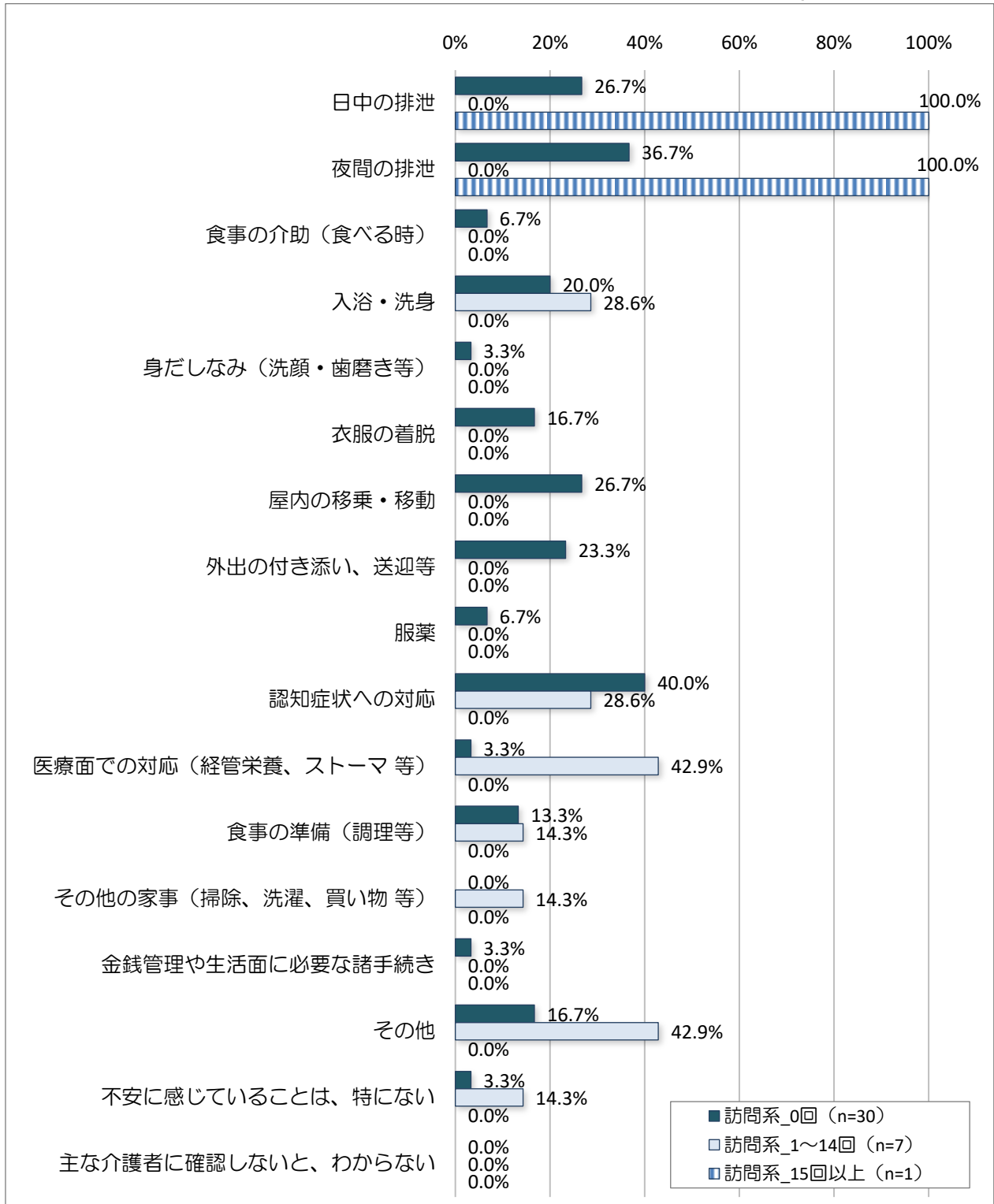
## 8. サービス利用の回数と主な介護者が不安を感じる介護の関係

訪問系サービスの利用回数別では、「15回以上」の該当者数（n値）が少ないため割合にはばらつきがみられますが、訪問系サービスを利用している方が、主な介護者が不安を感じる介護として割合が高かった、「認知症状への対応」、「夜間の排泄」、「日中の排泄」の割合が低い傾向にあります。

サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護：訪問系（要介護3以上）



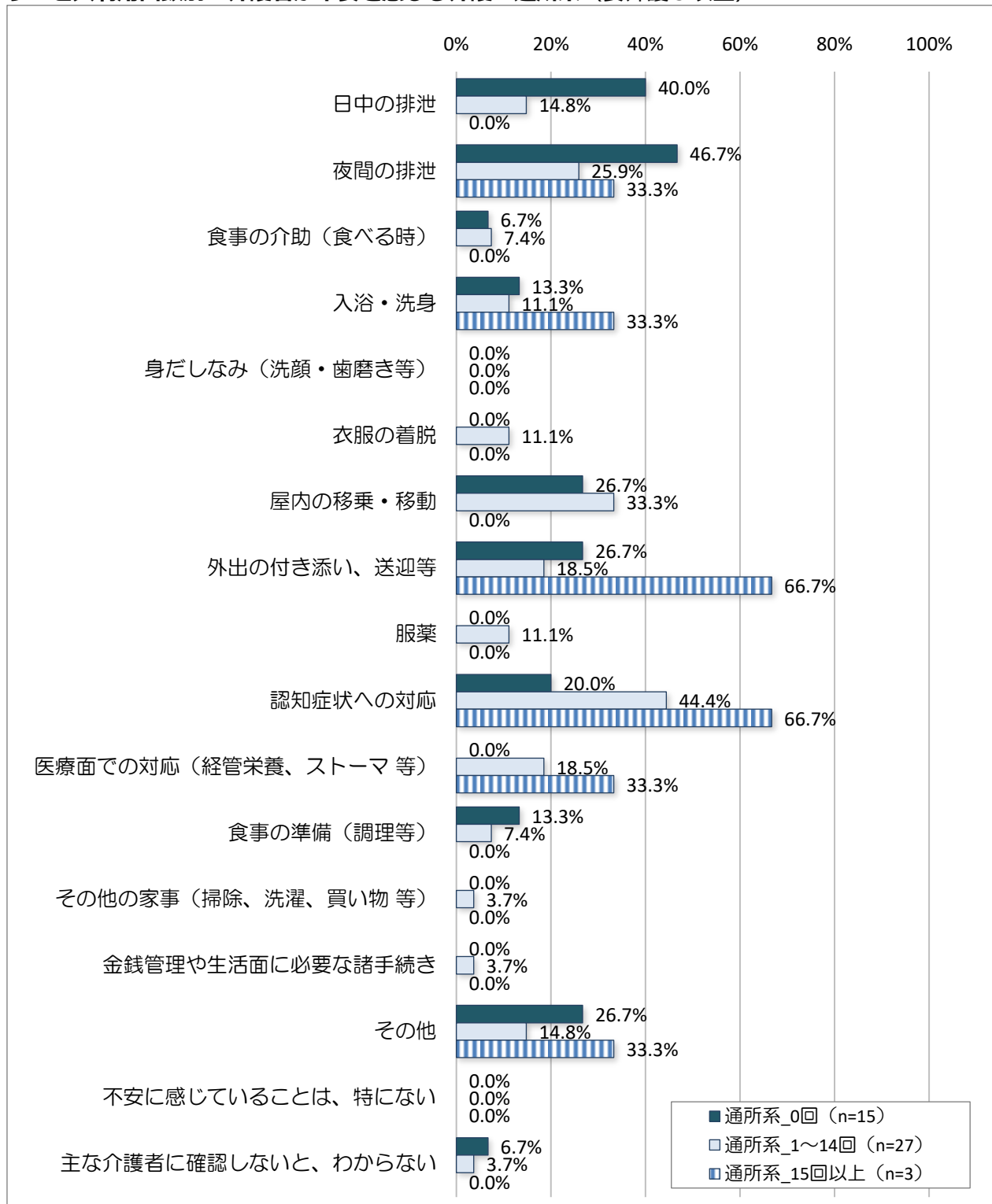
サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護：訪問系（認知症自立度Ⅲ以上）



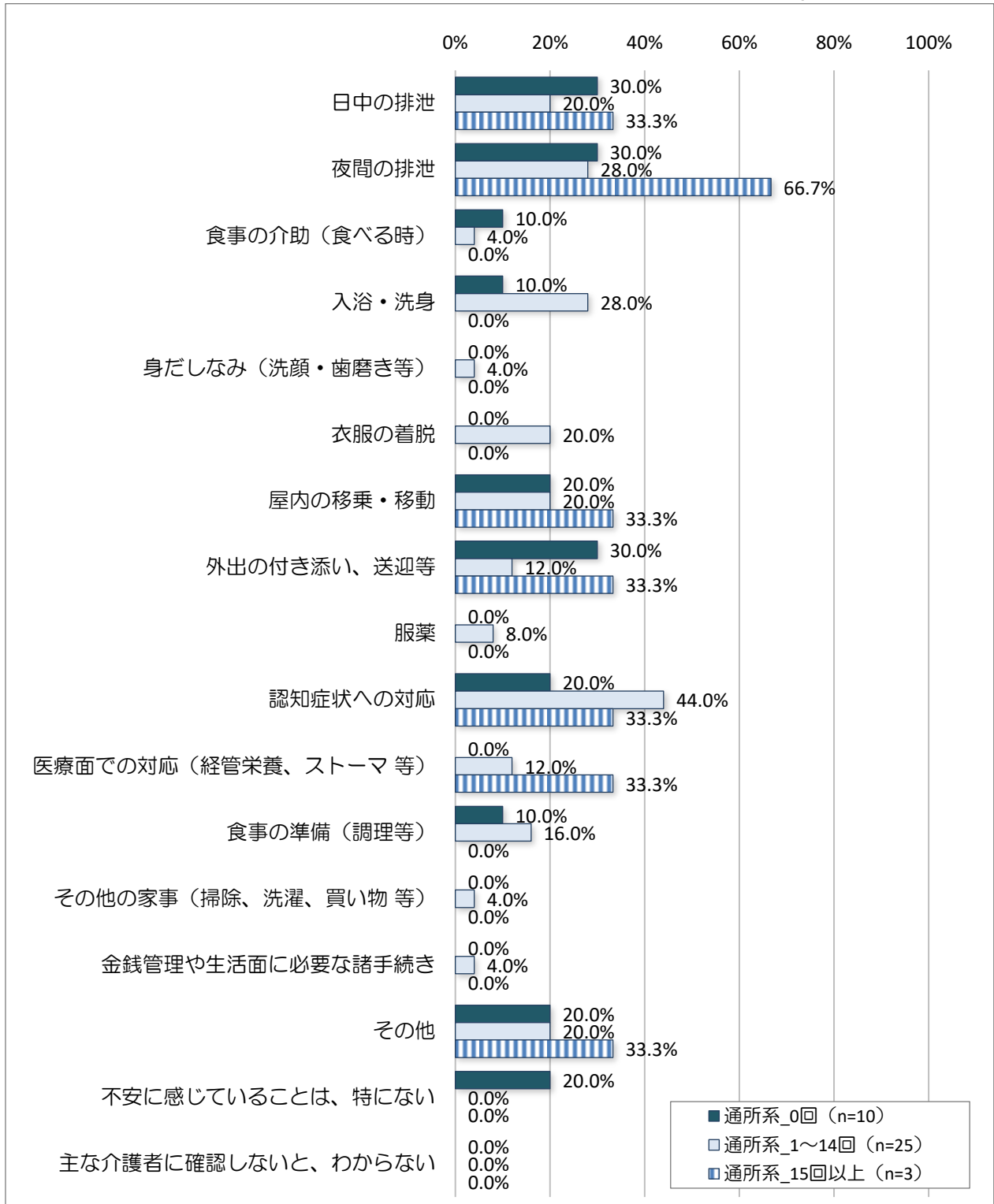


通所系サービスの利用回数別にみると、「15回以上」の該当者数（n値）が少ないため割合にばらつきがみられますが、「夜間の排泄」、「日中の排泄」については、通所系サービスを利用している方が割合が低くなっている一方で、「認知症状への対応」については割合が高くなっています。

**サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護：通所系（要介護3以上）**

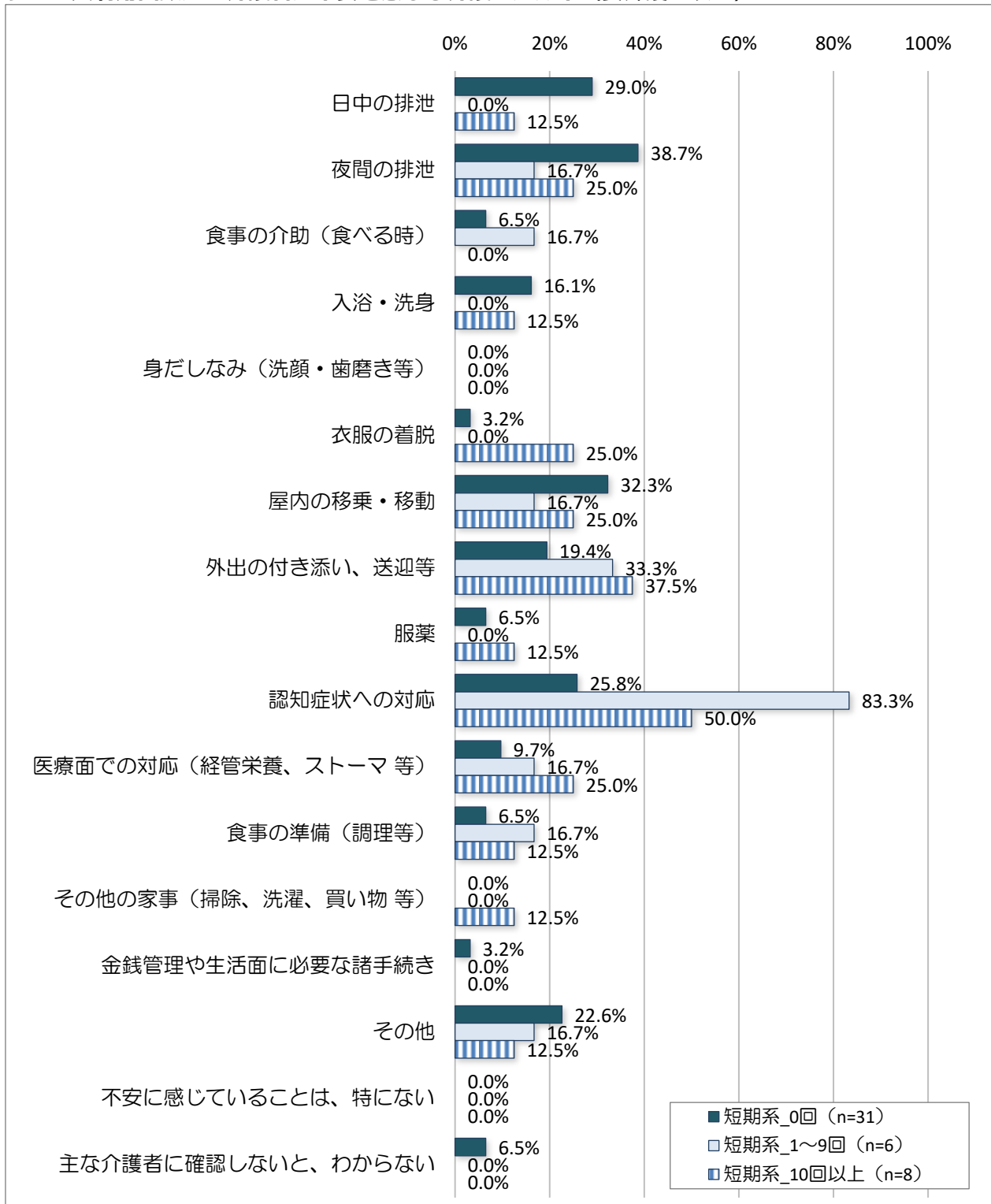


サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護：通所系（認知症自立度Ⅲ以上）

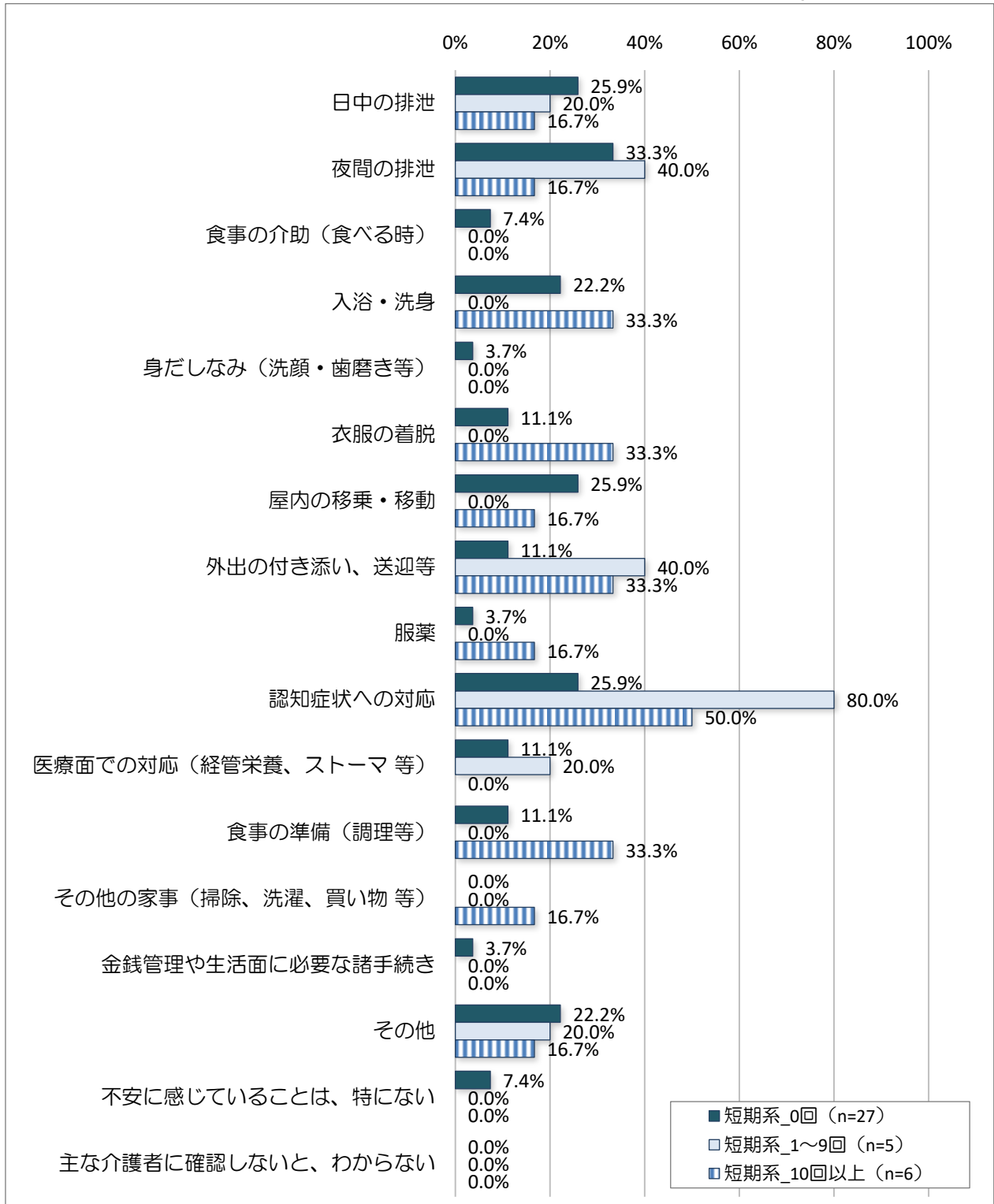


短期系サービスの利用回数別では、該当者数（n値）が少ないこともあり、傾向を判断することはできませんでした。

**サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護：短期系（要介護3以上）**



サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護：短期系（認知症自立度Ⅲ以上）



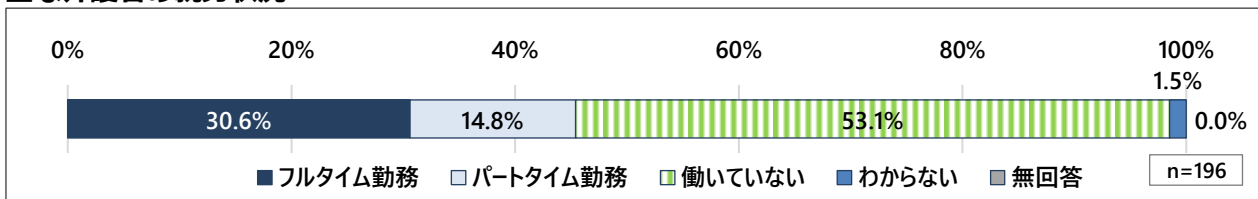
## (2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行いました。

### 1. 主な介護者の就労状況

主な介護者の就労状況は、「働いていない」が53.1%と最も高くなっています。「フルタイム勤務」は30.6%、「パートタイム勤務」は14.8%となっています。

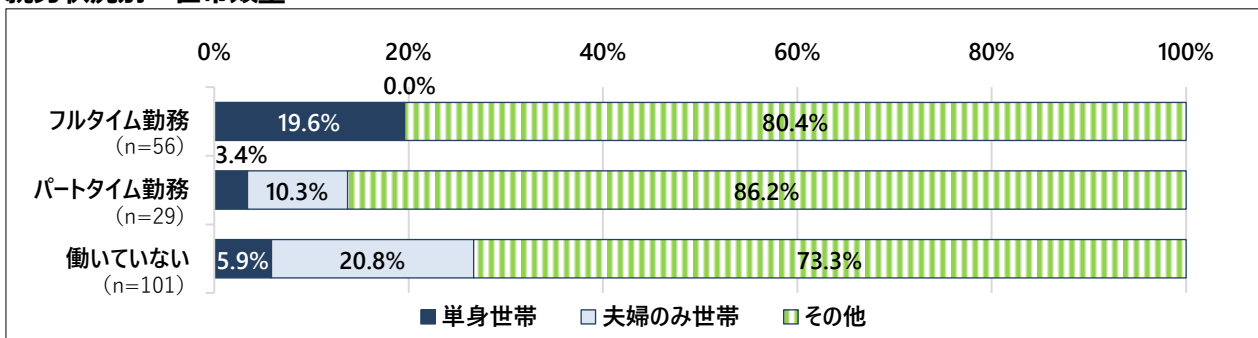
#### 主な介護者の就労状況



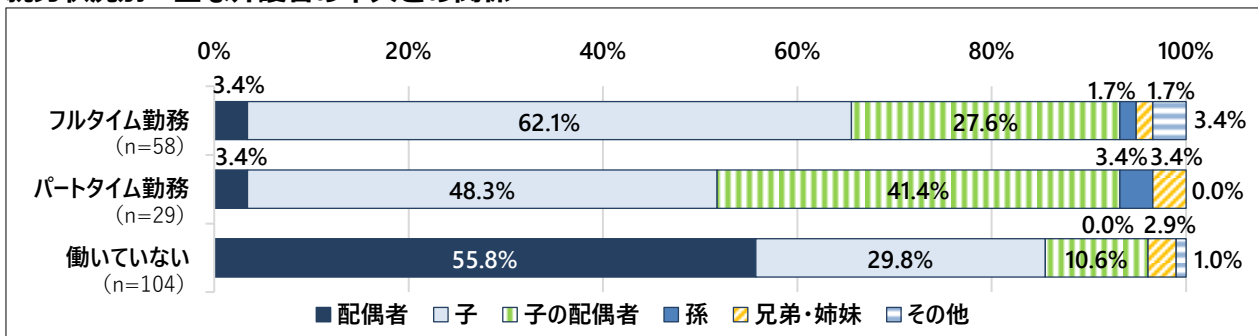
就労状況別に世帯類型をみると、フルタイム勤務で「単身世帯」の割合が高くなっており、介護者が働いていない場合は「その他世帯」の割合が高くなっています。

就労状況別に主な介護者と本人との関係をみると、フルタイム勤務は「子」の割合が高く、パートタイム勤務は「子」、「子の配偶者」の割合が高い傾向にあります。働いていない介護者は「配偶者」の割合が高く55.8%となっています。

#### 就労状況別・世帯類型



#### 就労状況別・主な介護者の本人との関係

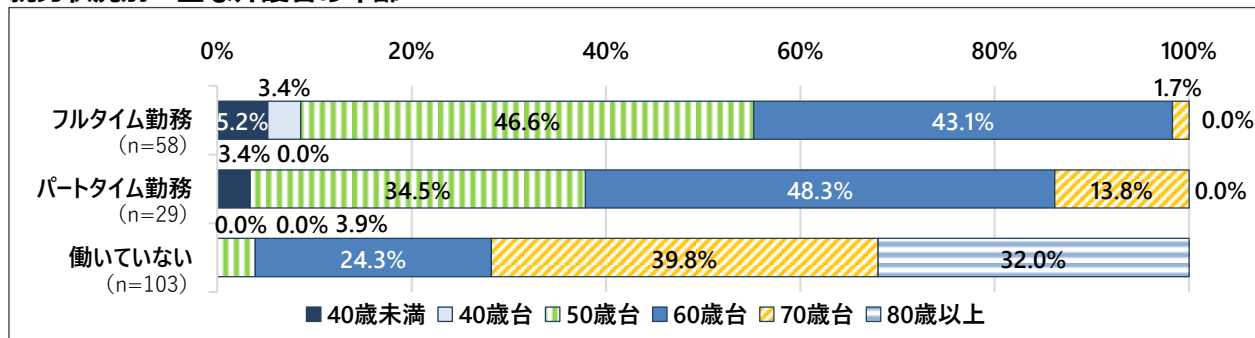


主な介護者の年齢は、働いていない介護者で70歳以上の割合が高くなっています。

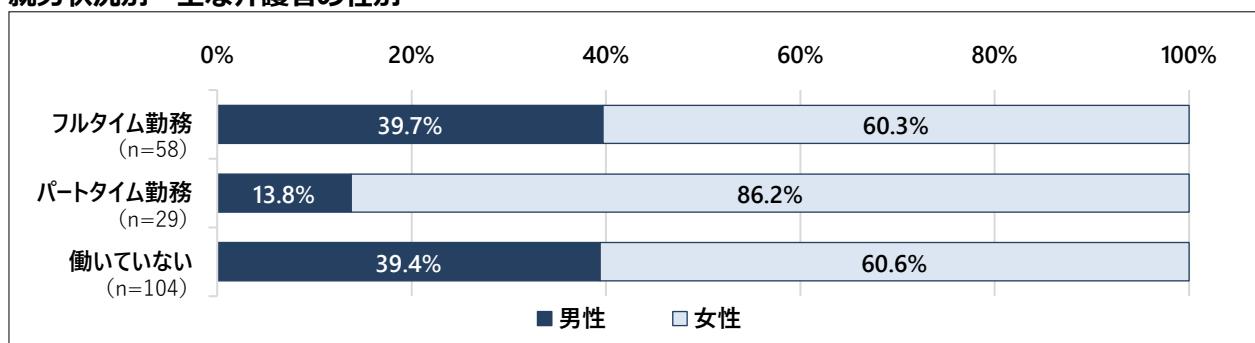
性別をみると、パートタイム勤務で「女性」の割合が高くなっています。

就労状況別に要介護度、認知症自立度をみると、大きな差はみられませんでした。パートタイム勤務では「要支援1・2」、「自立+I」の割合が低い一方で、「要介護3以上」、「認知症自立度Ⅲ以上」の割合も低くなっています。

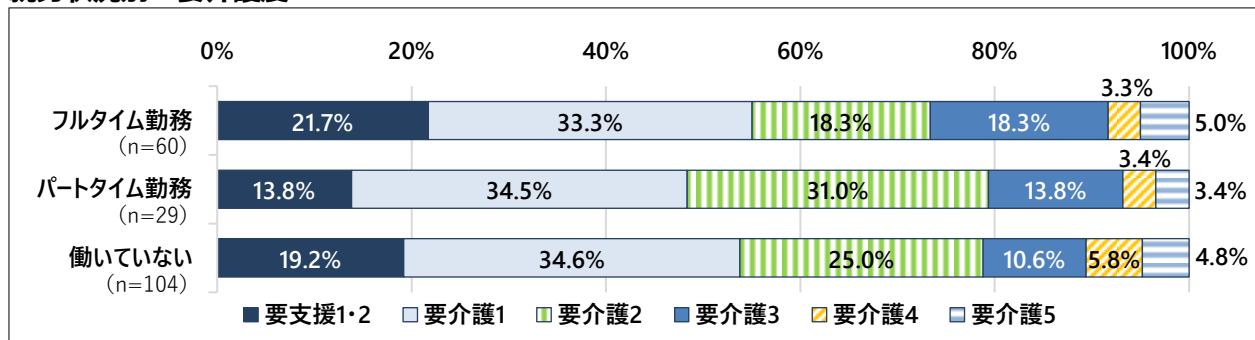
### 就労状況別・主な介護者の年齢



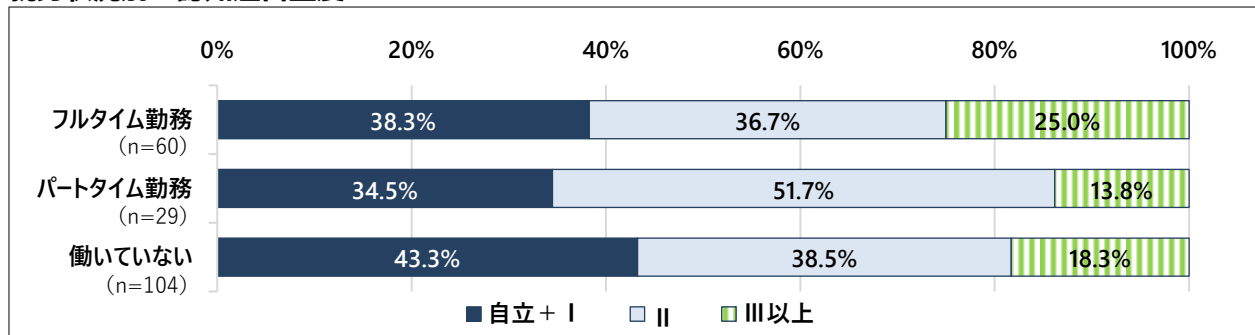
### 就労状況別・主な介護者の性別



### 就労状況別・要介護度



### 就労状況別・認知症自立度



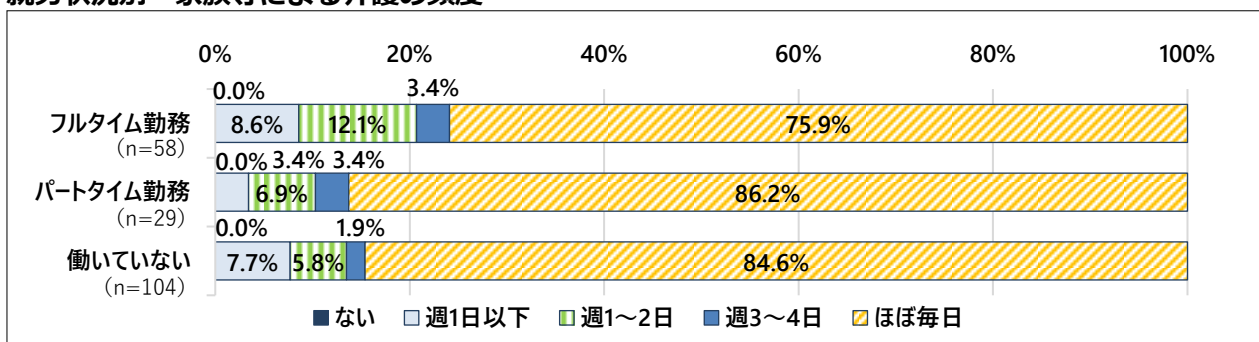
## 2. 主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

家族等による介護の頻度は、「ほぼ毎日」が最も高く、パートタイム勤務では86.2%、働いていない介護者では84.6%、フルタイム勤務では75.9%となっています。フルタイム勤務では、「週1日以下」、「週1～2日」の割合がやや高くなっています。

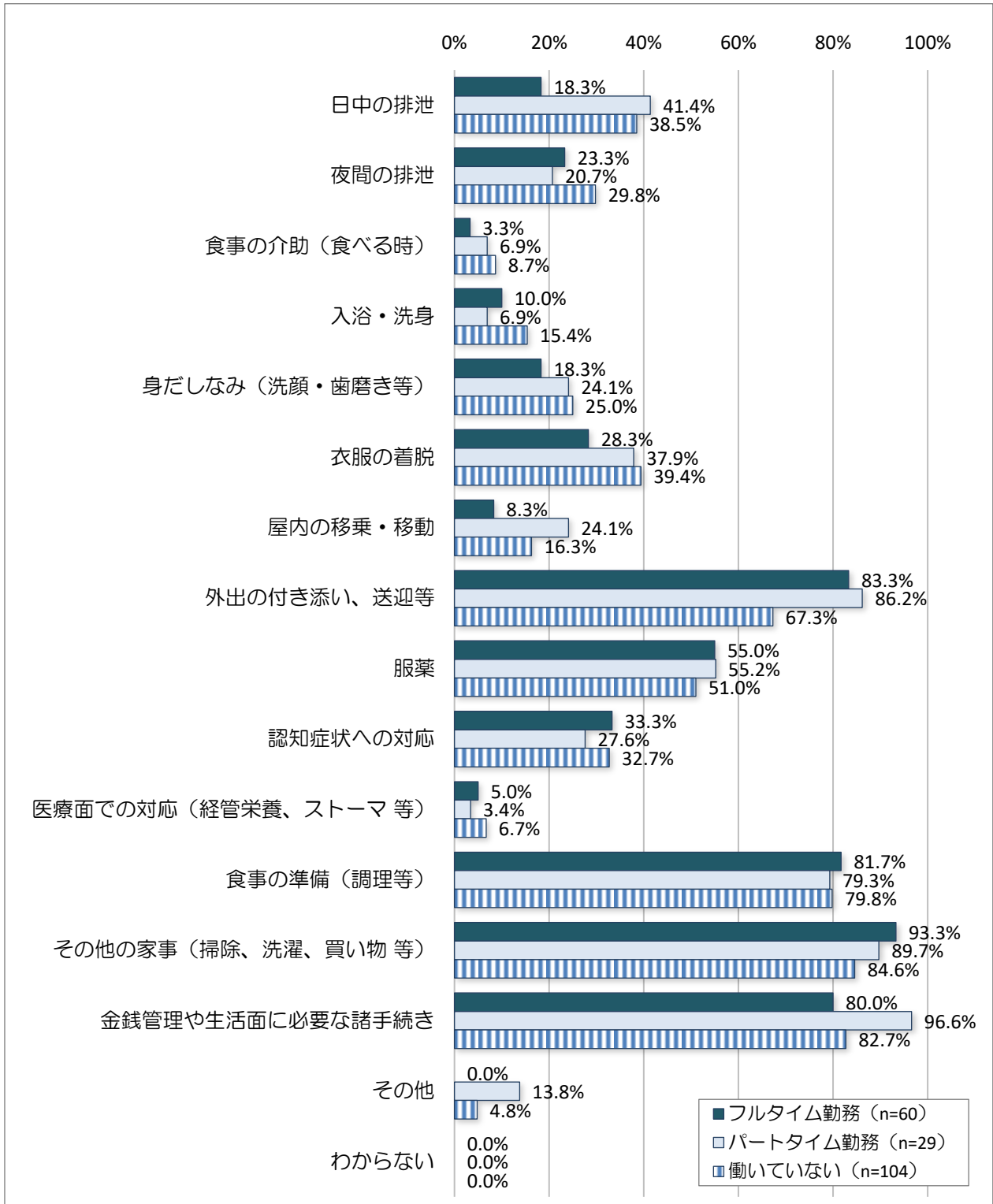
主な介護者が行っている介護については、フルタイム勤務の割合が最も高いのは「(食事の準備以外の)家事」、「食事の準備」となっており、パートタイム勤務の割合が最も高いのは「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「服薬」、「日中の排泄」などとなっています。

主な介護者の就労の程度(働いていない<パートタイム勤務<フルタイム勤務)に応じて、介護者が行っている割合が低くなる介護は、「衣服の着脱」、「身だしなみ」、「食事の介助」となっています。こうした介護については、要介護者がそのような介護を必要としていないことも考えられますが、要介護者の日常生活に長時間付き添っていないとできない等の理由により、就労の程度に応じて介護者が行っている割合が低くなっていて、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としている可能性が考えられます。

就労状況別・家族等による介護の頻度



就労状況別・主な介護者が行っている介護

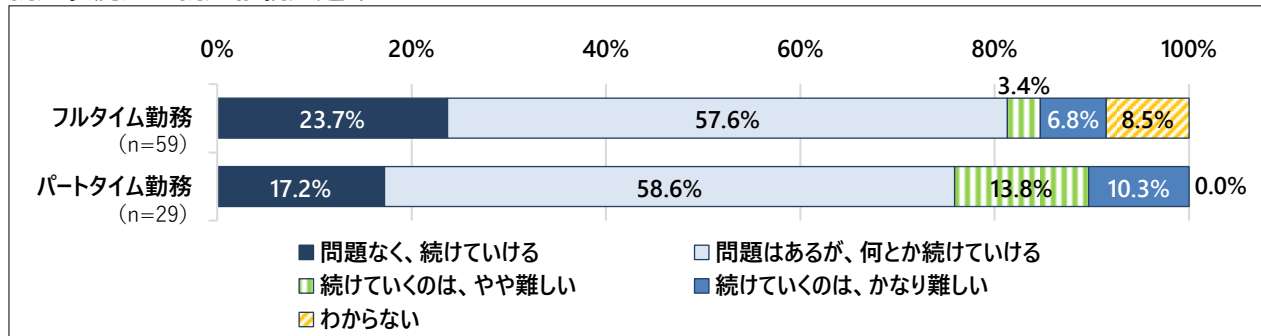




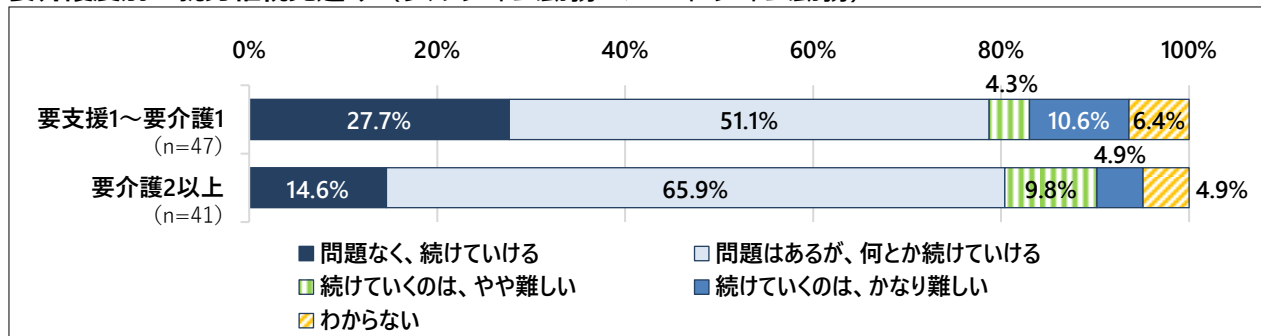
就労している介護者の今後の就労継続見込みをみると、「問題なく、続けていける」割合はフルタイム勤務の方が高く、パートタイム勤務の方が「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」割合が高くなっています。

要介護度別、認知症自立度別に就労継続見込みをみると、「要支援1～要介護1」、「自立+I」の方が「問題なく、続けていける」割合が高くなっていますが、「問題はあるが、何とか続けていける」割合と合わせた「続けていける」割合は、「要介護2以上」、「認知症自立度II以上」の方が高くなっています。

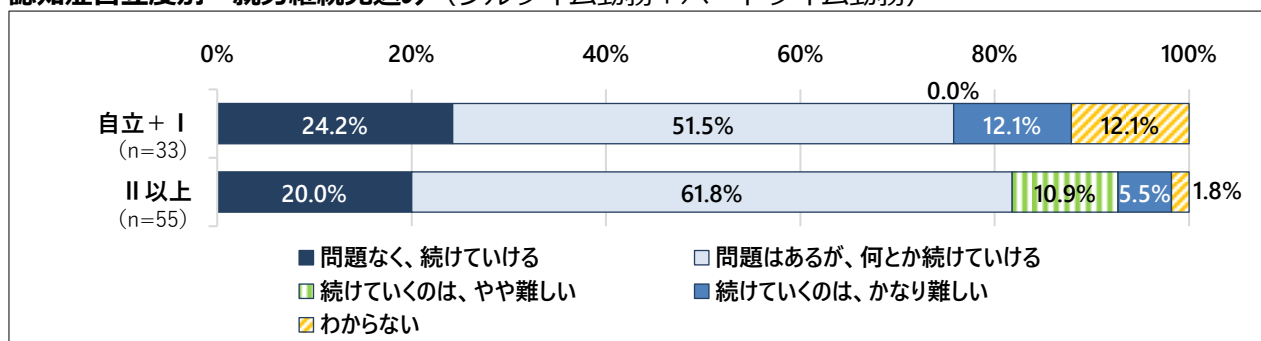
### 就労状況別・就労継続見込み



### 要介護度別・就労継続見込み (フルタイム勤務+パートタイム勤務)



### 認知症自立度別・就労継続見込み (フルタイム勤務+パートタイム勤務)

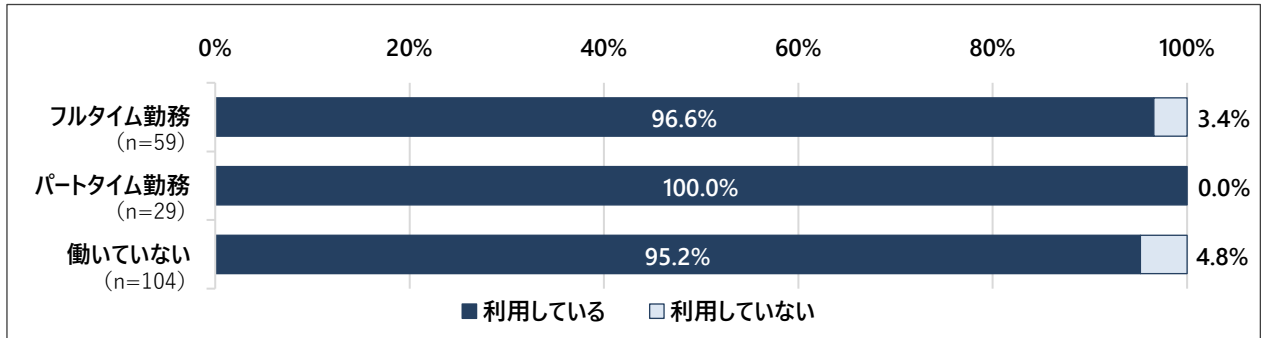


### 3. サービスの利用状況・不安を感じる介護と就労継続見込みの関係

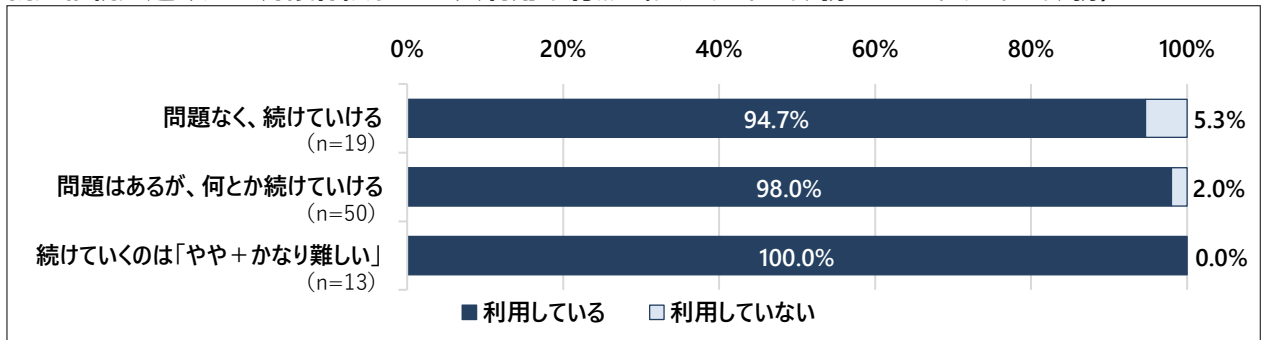
就労状況別に介護保険サービスの利用状況を見ると、パートタイム勤務では「利用している」が100.0%となっています。

就労継続見込み別にみると、就労の継続が困難と考えている介護者では「利用している」が100.0%となっています。

就労状況別・介護保険サービス利用の有無



就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無 (フルタイム勤務+パートタイム勤務)

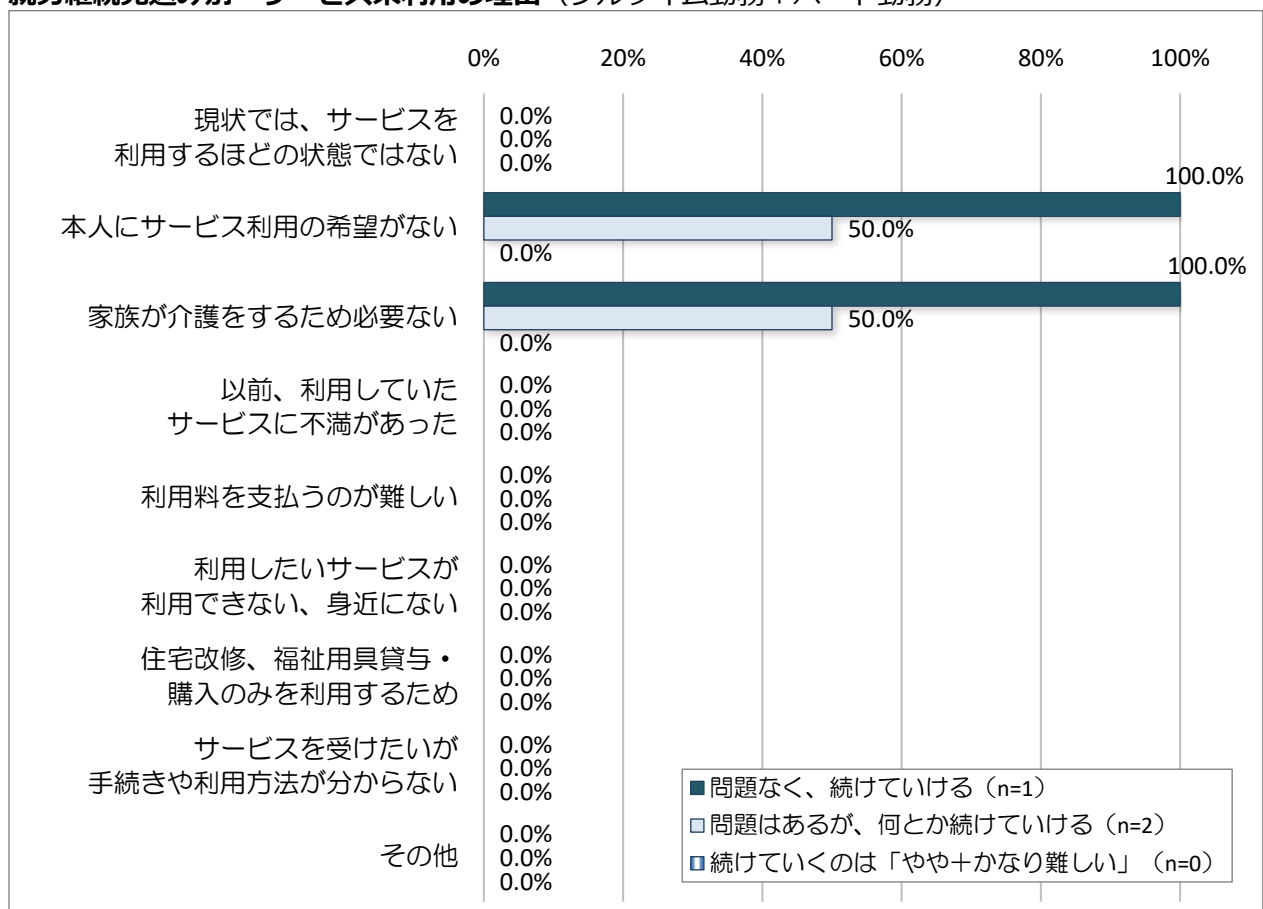


就労継続見込み別にサービス未利用の理由を集計しましたが、該当者がフルタイム勤務の3名（n=3）のみだったため、傾向を判断することはできませんでした。

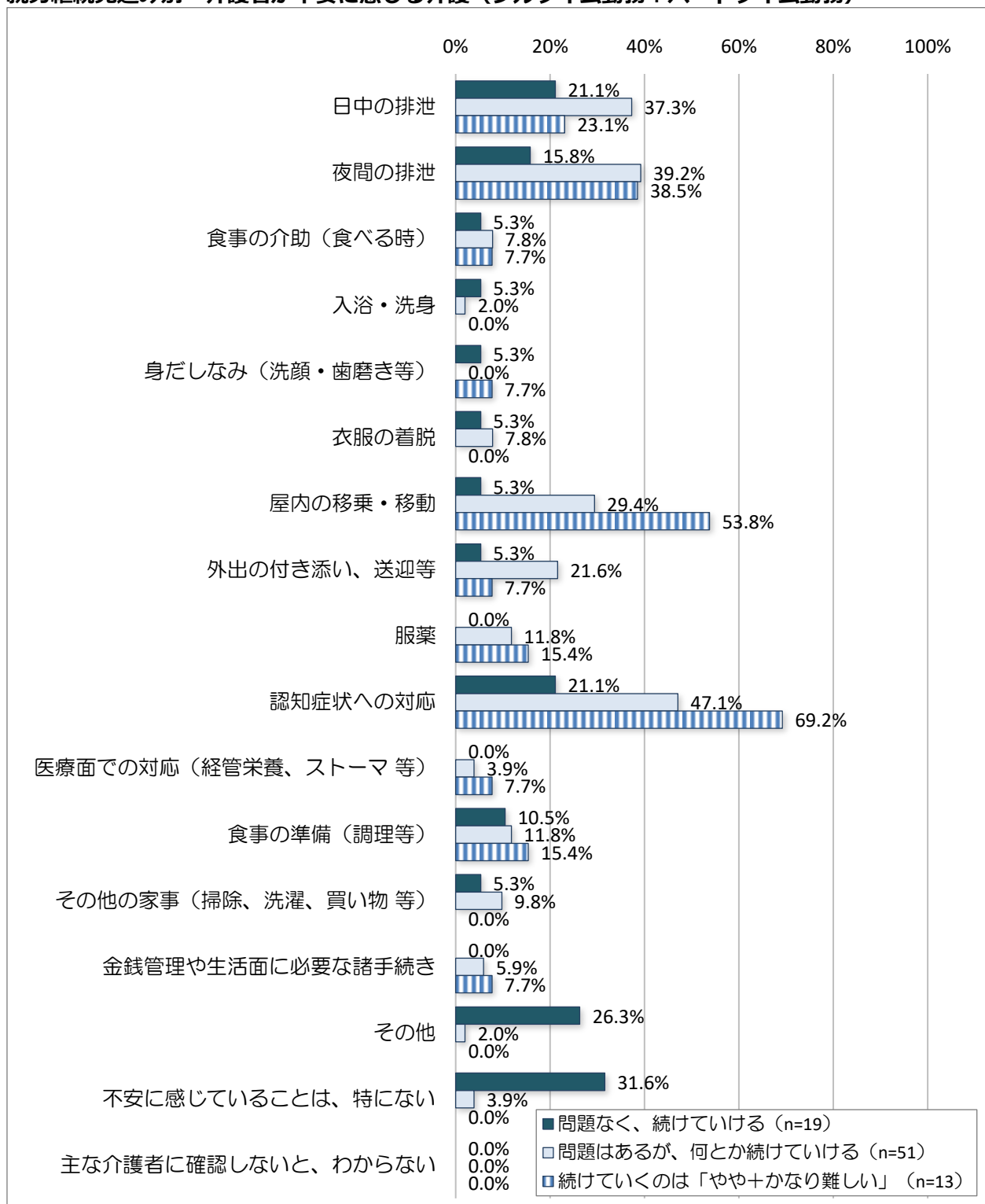
就労継続見込み別に不安を感じる介護をみると、就労の継続が困難と考えている人では「不安を感じていることは、特にない」割合は0.0%で、「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」の割合が高くなっています。一方で、問題なく、続けていけると考えている人では「不安を感じていることは、特にない」割合は31.6%で、「認知症状への対応」、「屋内の移乗・移動」、「夜間の排泄」についても割合が低くなっています。

これらのことから、在宅介護をしながら就労継続していくことの可否の判断に、要介護者の認知症状と、屋内での移動ができないほどの身体的介護度の重度化が大きく関わっている可能性が考えられます。

**就労継続見込み別・サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）**



就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

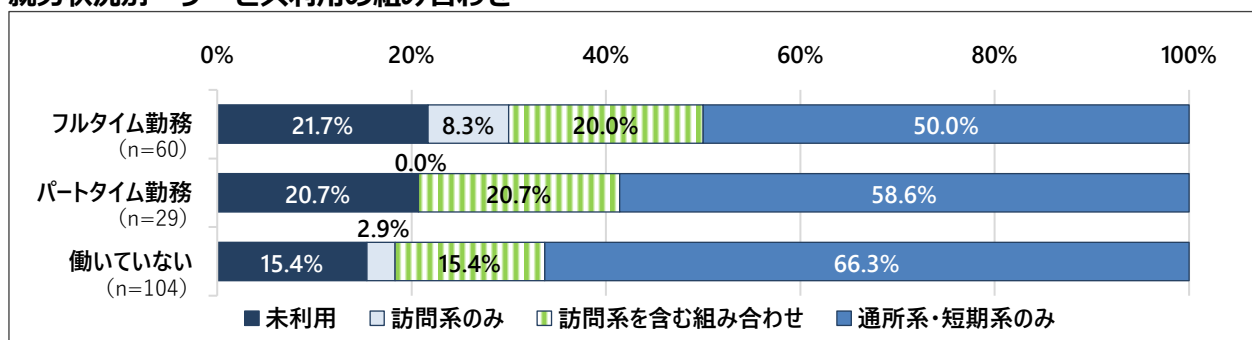


#### 4. サービス利用の組み合わせと就労継続見込みの関係

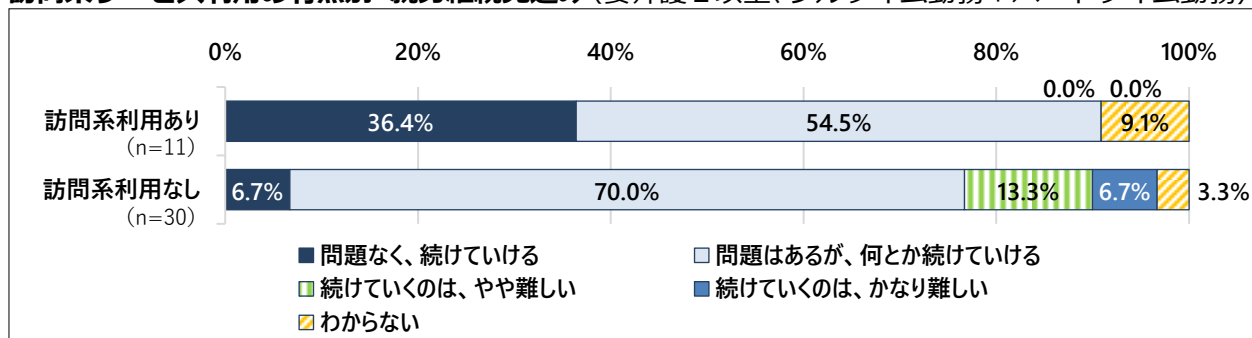
利用している介護保険サービスの組み合わせを、就労状況別に比較すると、主な介護者の就労の程度（働いていない<パートタイム勤務<フルタイム勤務）に応じて、サービス「未利用」の割合が高くなり、「通所系・短期系のみ」の割合が低くなっています。

要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上について、訪問系サービスの利用の有無別に就労継続見込みをみると、どちらも訪問系サービスの利用している方が「問題なく続けていける」割合が高くなっており、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」割合は0.0%となっています。

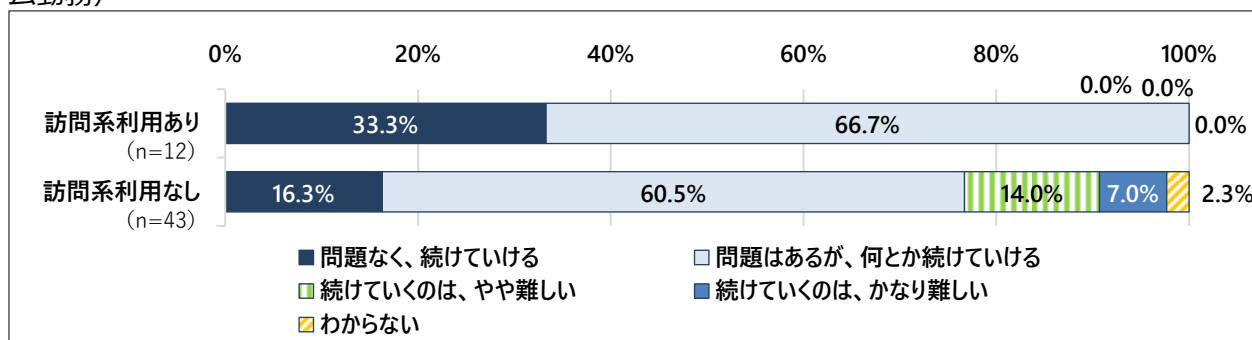
##### 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



##### 訪問系サービス利用の有無別・就労継続見込み (要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



##### 訪問系サービス利用の有無別・就労継続見込み (認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

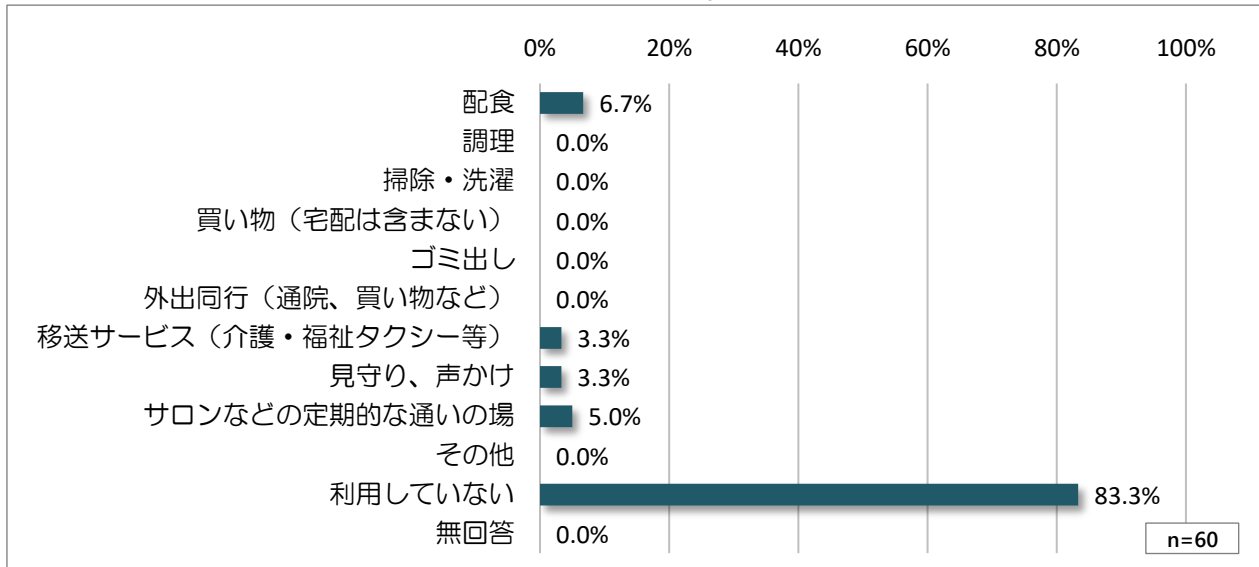


## 5. 就労状況・保険外の支援・サービスの利用状況と施設等検討の状況の関係

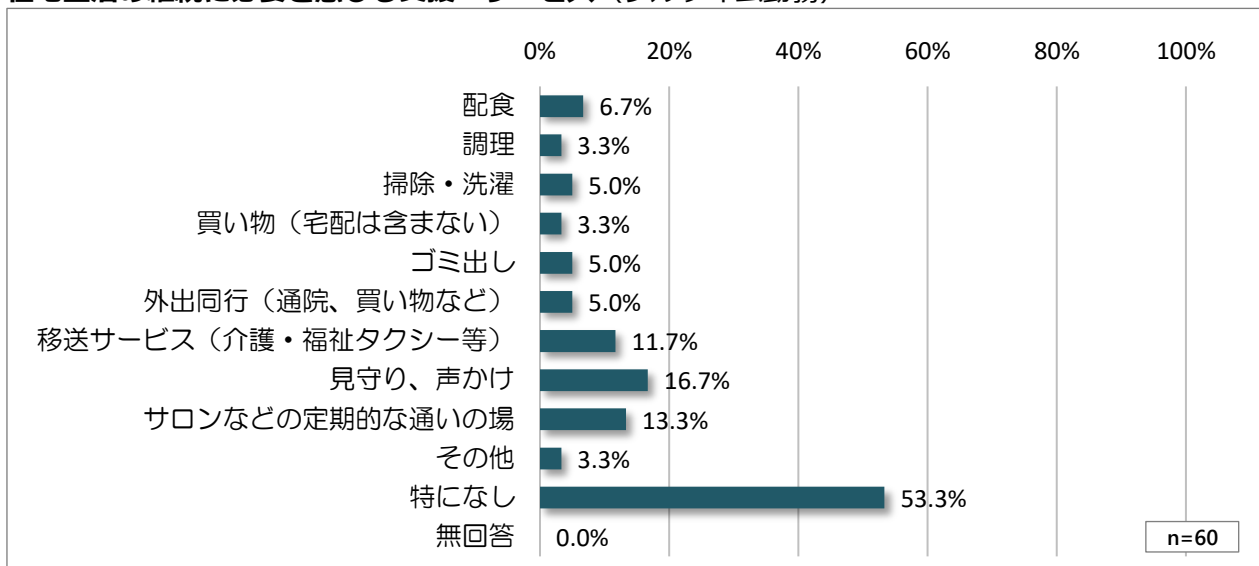
フルタイム勤務で利用している保険外の支援・サービスは、「配食」が6.7%、「サロンなどの定期的な通いの場」が5.0%となっています。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスとの差をみると、多くの生活支援サービスで、必要と感じているが、利用していない状況がみてとれます。特に「見守り、声かけ」が16.7%、「サロンなどの定期的な通いの場」が13.3%、「移送サービス」が11.7%と、ニーズが高くなっています。

利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）

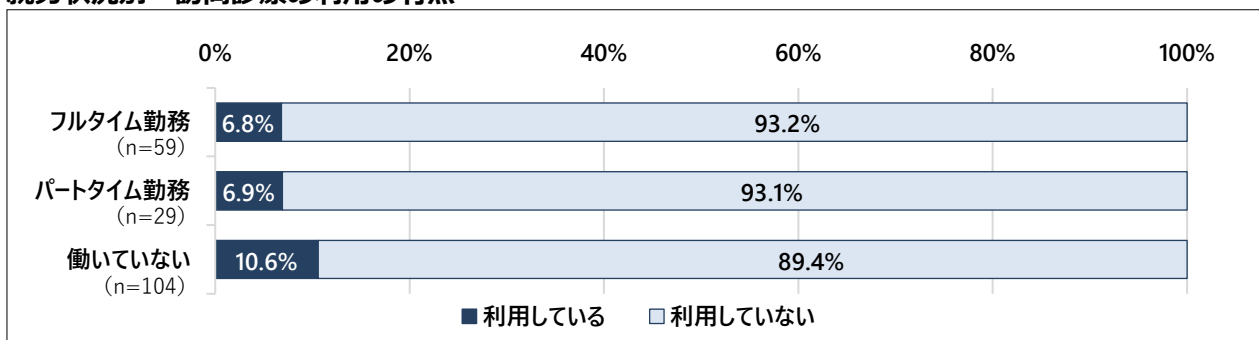


就労状況別の訪問診療の利用の有無については、介護者が就労している場合に利用している割合が低くなっています。

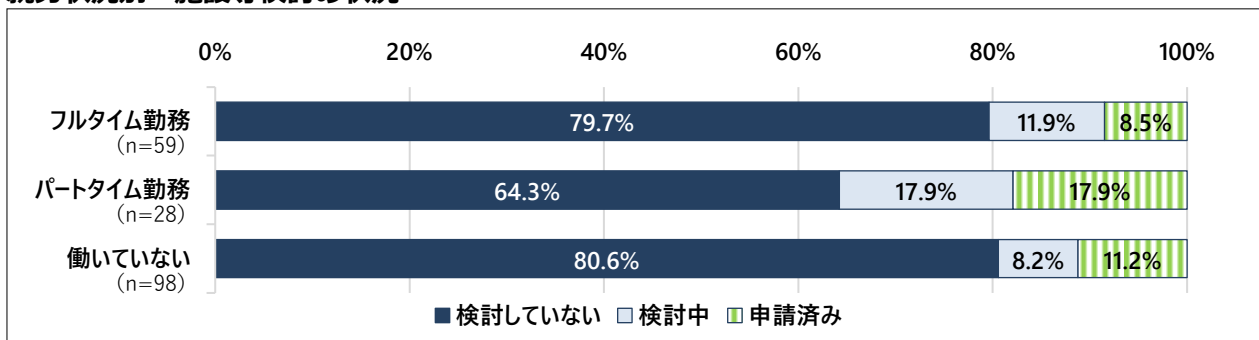
施設等の検討については、パートタイム勤務で「検討中」、「申請済み」の割合が高くなっています。

要介護2以上で就労している介護者の施設等の検討については、該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、就労の継続が困難だと感じている介護者で「検討中」の割合が高くなっています。しかし、就労の継続が困難だと感じながらも「検討していない」割合が50.0%となっている状況です。一方で、問題なく、続けていけると考えている介護者では「検討していない」が100.0%となっています。

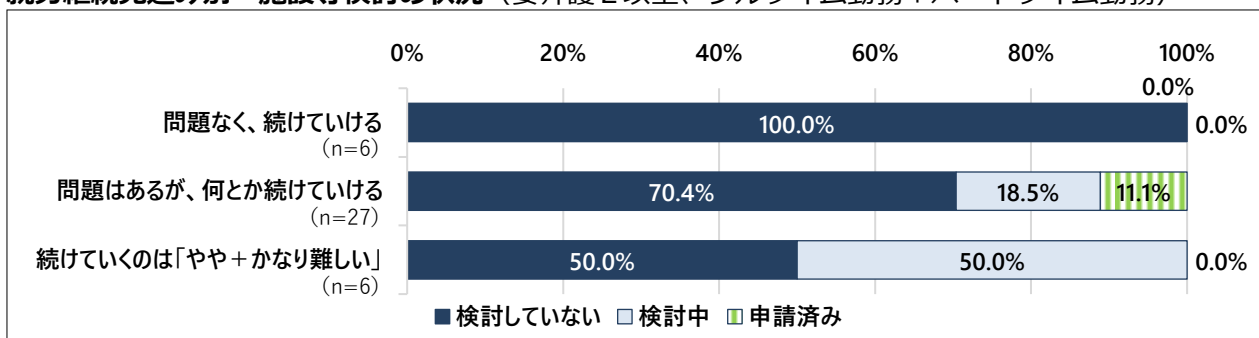
### 就労状況別・訪問診療の利用の有無



### 就労状況別・施設等検討の状況



### 就労継続見込み別・施設等検討の状況 (要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)

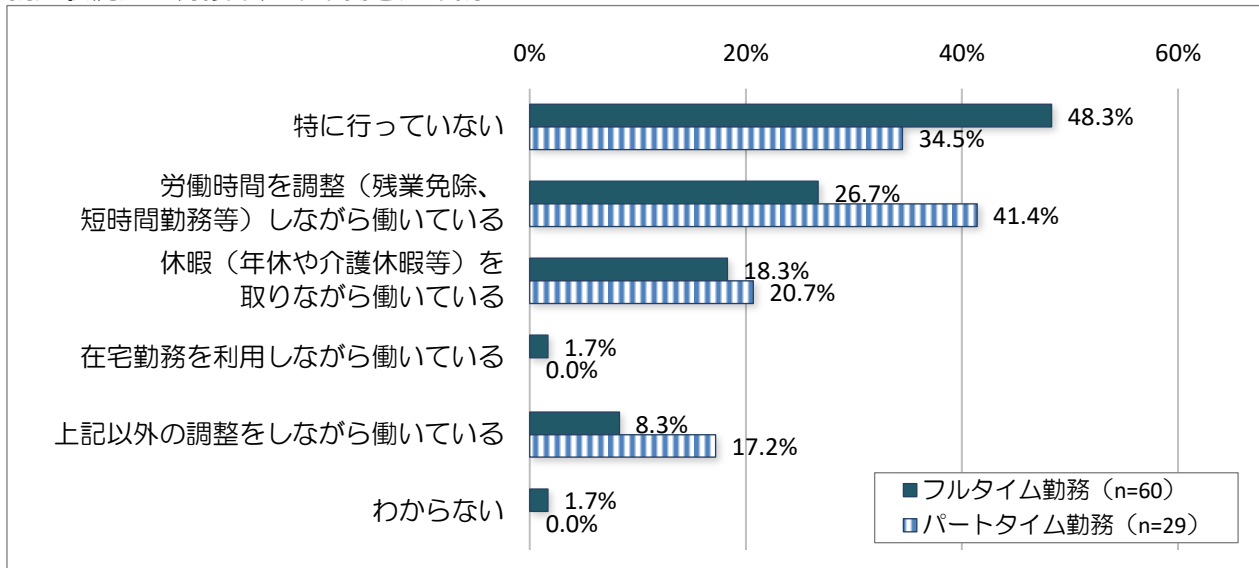


## 6. 介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援について

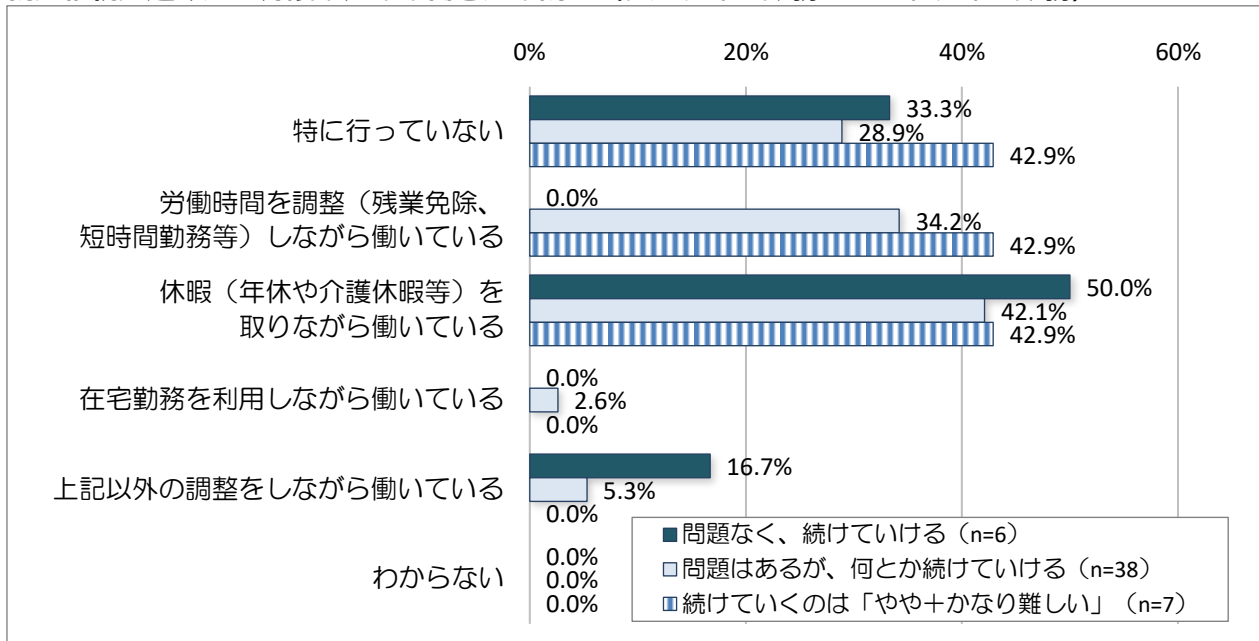
職場における働き方の調整については、フルタイム勤務では「特に行っていない」が48.3%となっていますが、パートタイム勤務では34.5%となっています。働き方の調整で最も高いのは「労働時間を調整しながら働いている」で、フルタイム勤務では26.7%、パートタイム勤務では41.4%となっています。

就労継続見込み別にみると、該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、問題なく、続けていける人では「労働時間を調整しながら働いている」は0.0%となっていますが、就労の継続が困難と感じている人では42.9%となっています。

### 就労状況別・介護のための働き方の調整



### 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）

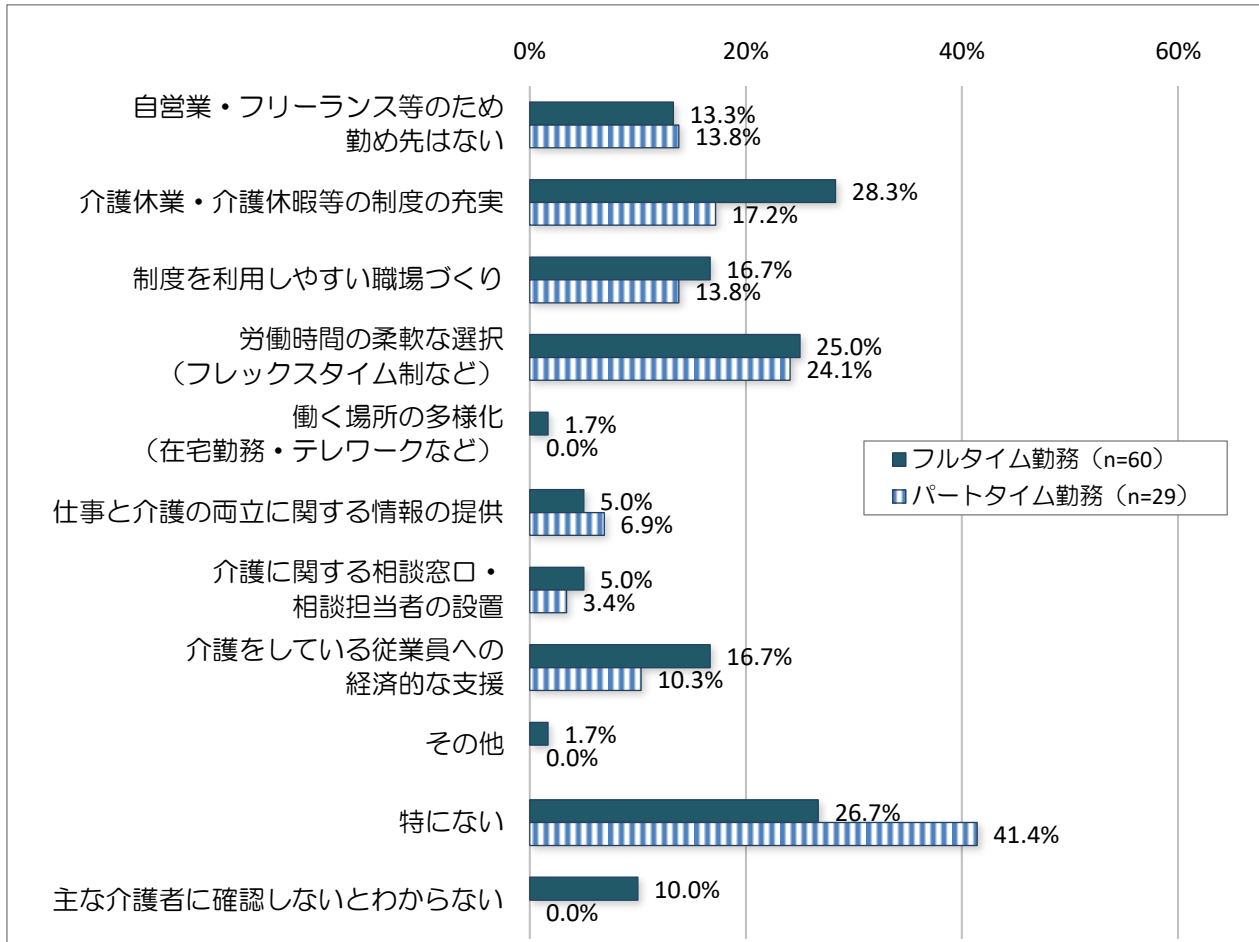




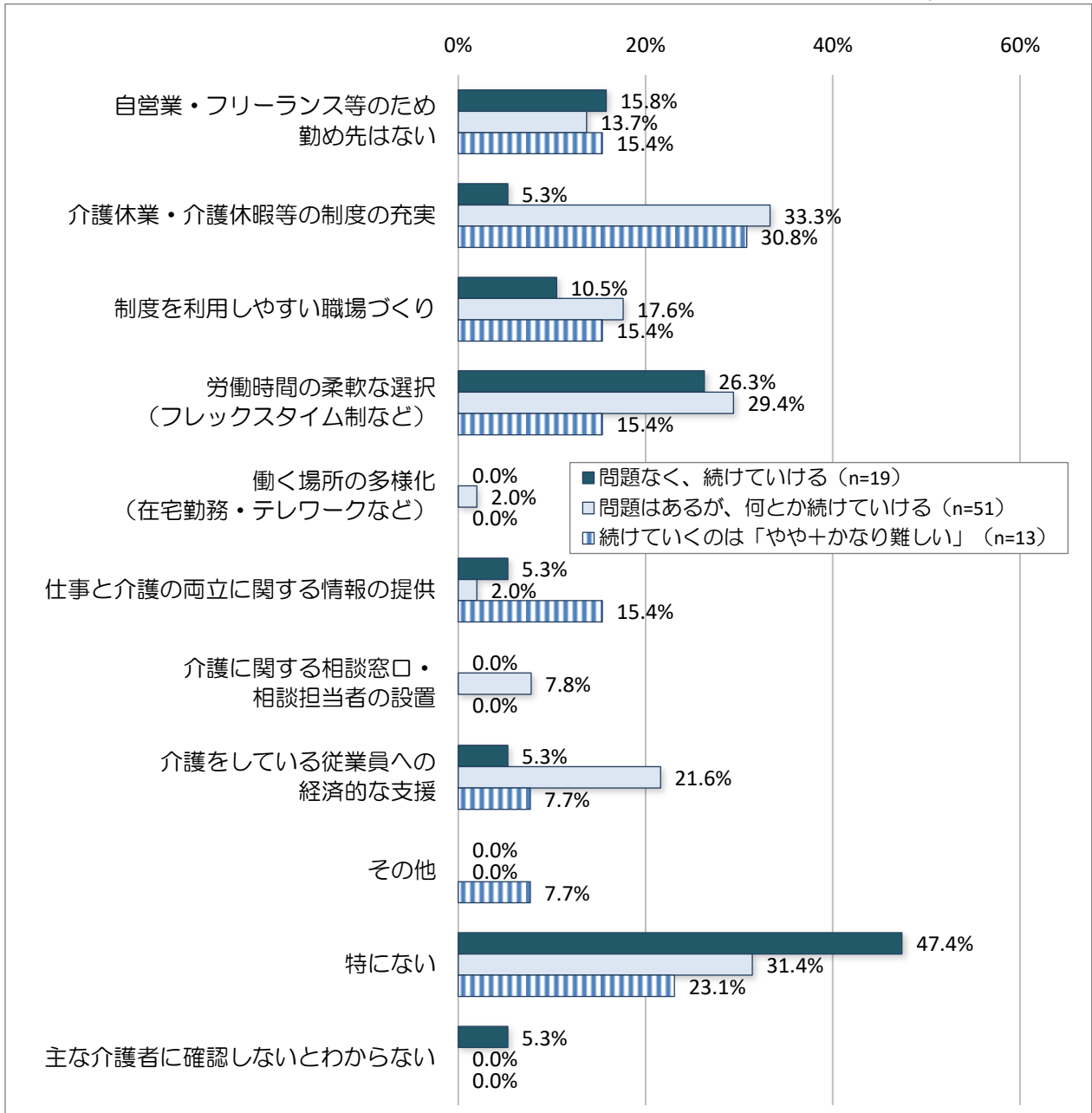
効果的な勤め先からの支援としては、フルタイム勤務では、パートタイム勤務に比べて、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が高くなっています。一方、パートタイム勤務では、「特にない」割合が高くなっています。

就労継続見込み別にみると、問題なく、続けていける介護者では「特にない」が47.4%と最も高くなっています。就労の継続が困難だと感じている介護者で割合が最も高いのは「介護休業・介護休暇等の制度の充実」ですが、就労を継続できると考えている介護者と比較して「仕事と介護の両立に関する情報の提供」の割合が高くなっています。

#### 就労状況別・効果的な勤め先からの支援



就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



### (3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

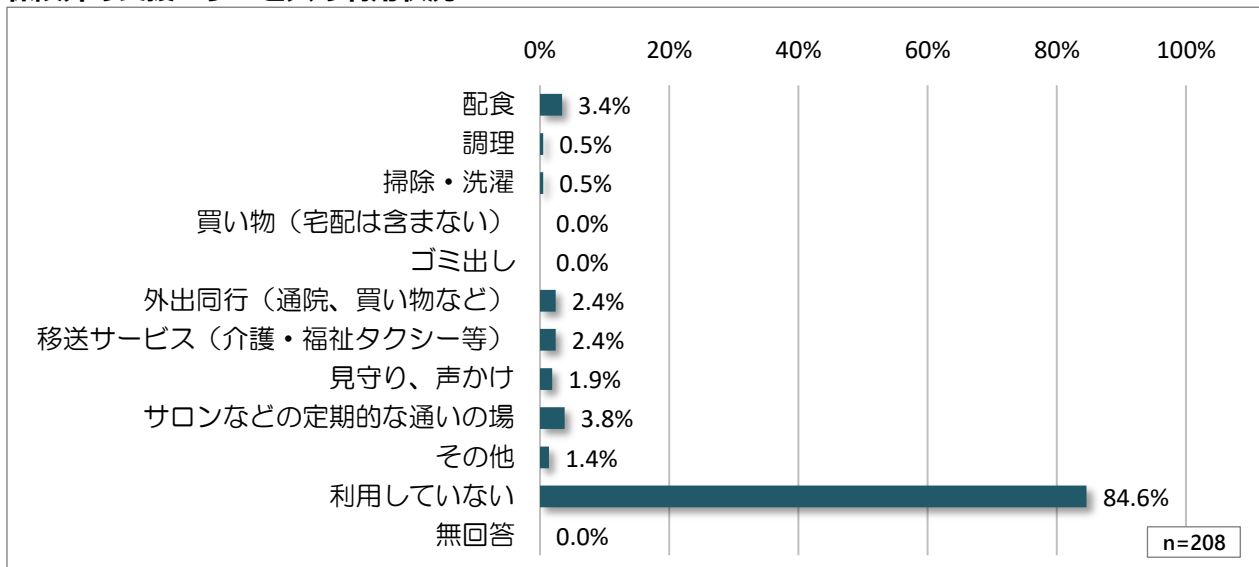
在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点をあてた集計を行いました。

#### 1. 保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

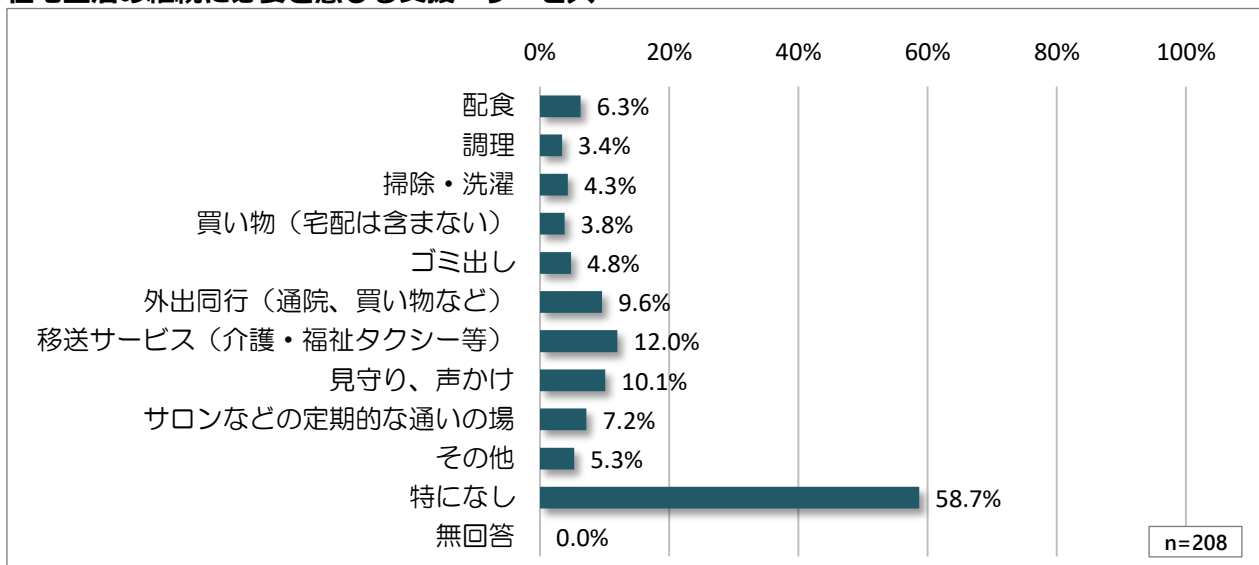
保険外の支援・サービスの利用状況をみると、「サロンなどの定期的な通いの場」が3.8%、「配食」が3.4%などとなっていますが、「利用していない」が84.6%となっています。

在宅支援の継続に必要と感じる支援・サービスでは、「移送サービス」が12.0%と最も高く、次いで「見守り、声かけ」が10.1%、「外出同行」が9.6%などとなっています。実際の利用状況と比較すると、支援・サービスが必要だと感じながらも「利用していない」ケースが多い状況です。

#### 保険外の支援・サービスの利用状況



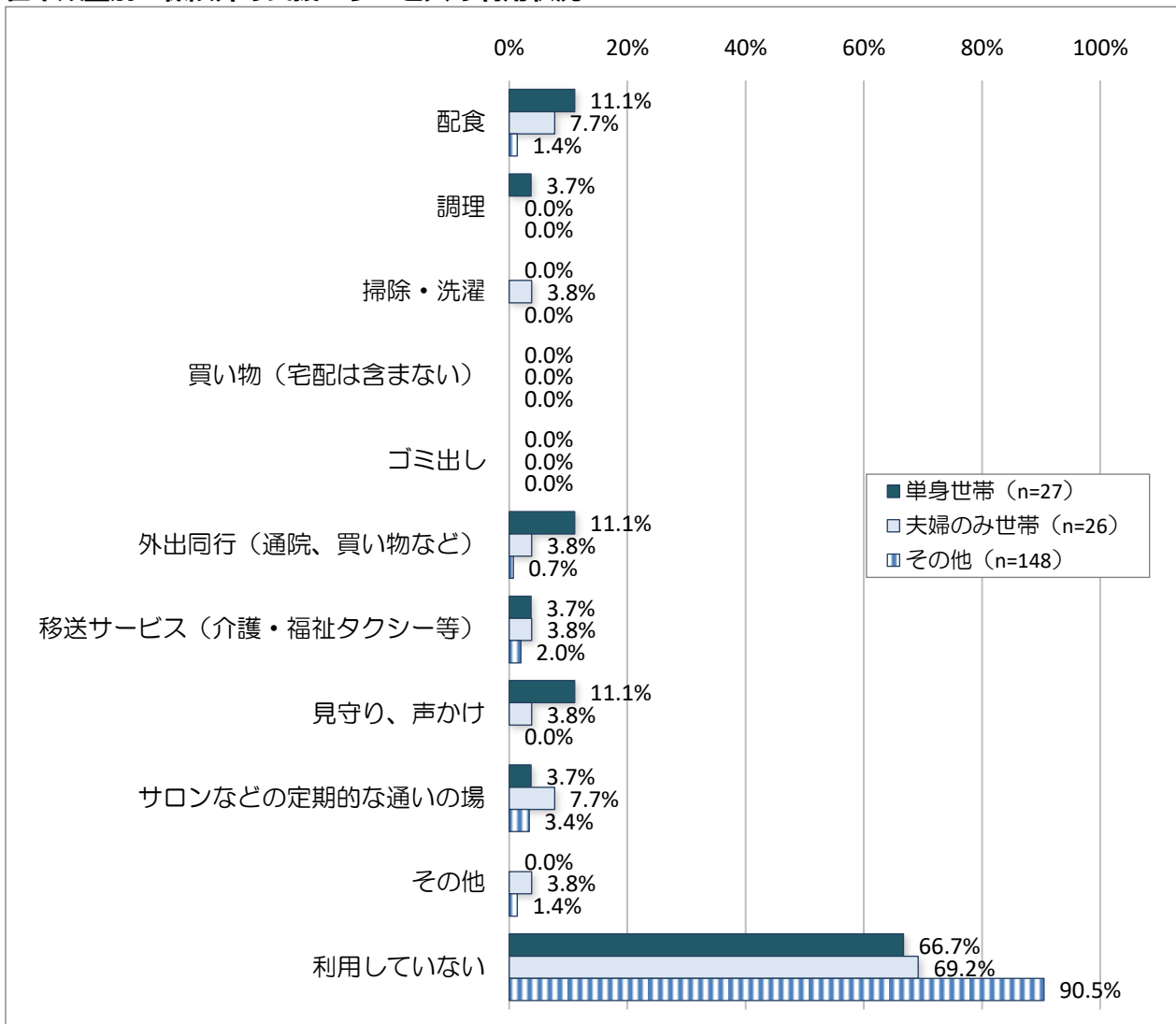
#### 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



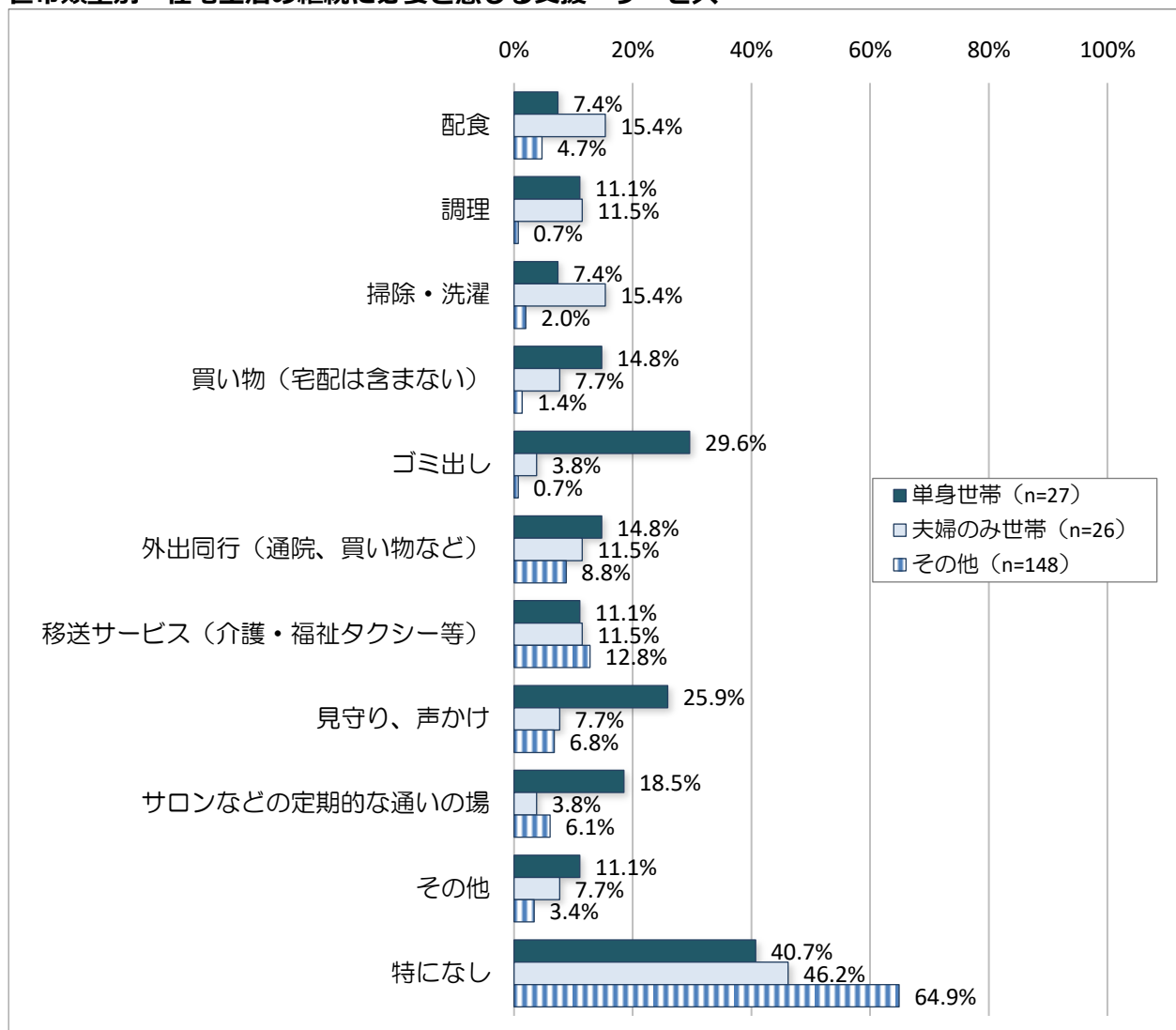
世帯類型別に、保険外の支援・サービスの利用状況をみると、その他世帯では「利用していない」が90.5%で、他の世帯より高くなっています。単身世帯で「配食」、「調理」、「外出同行」、「見守り、声かけ」サービスの利用割合が高くなっています。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについても、その他世帯では「特になし」が64.9%で、他の世帯より高くなっていますが、すべての世帯類型で「利用していない」割合より「特になし」の割合が20%以上低くなっており、現在は保険外の支援・サービスを利用していなくても、在宅生活の継続のためには各種の支援・サービスの必要性を感じている世帯が多くなっています。

### 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



### 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

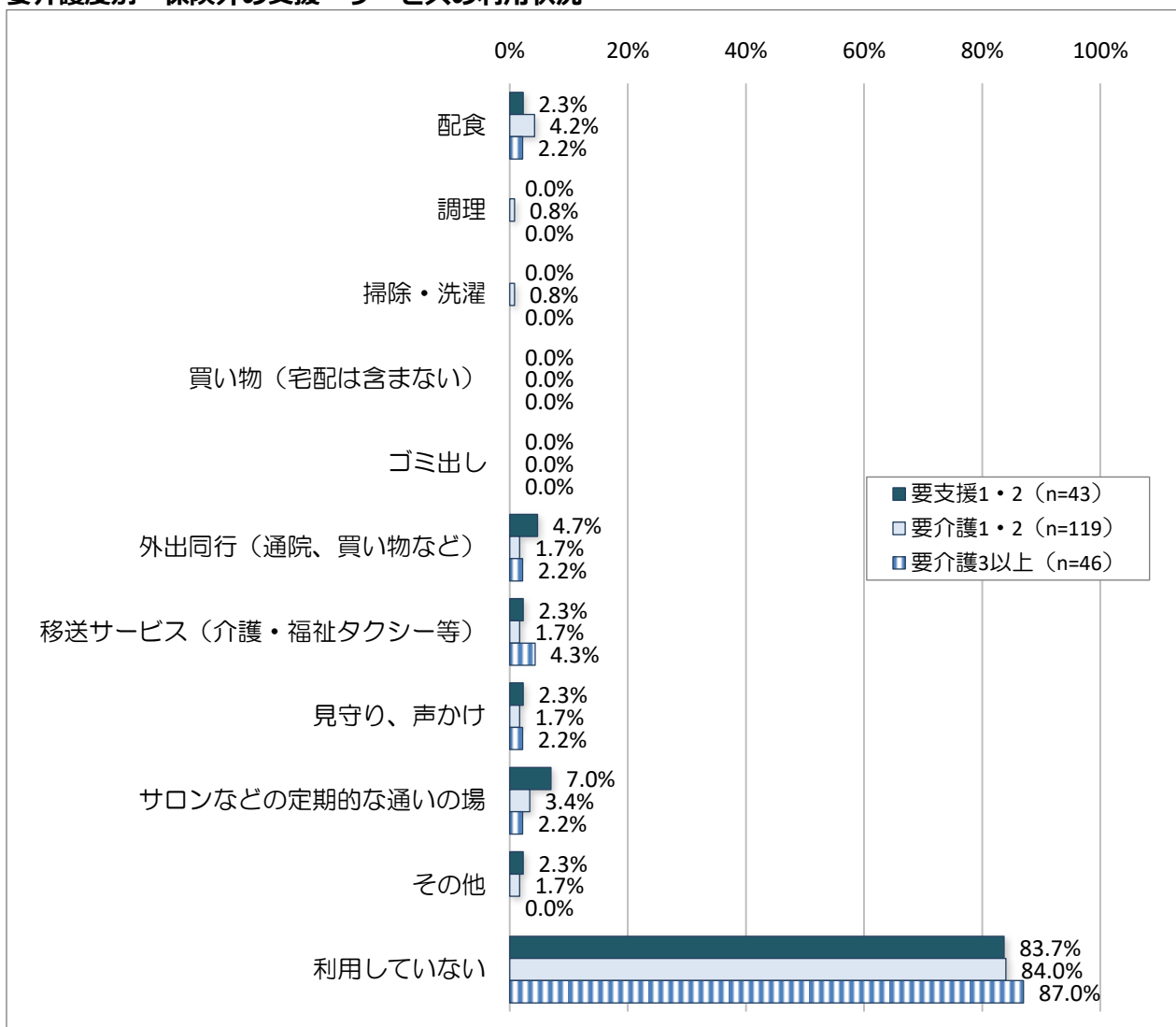


## 2. 世帯類型×要介護度別の保険外の支援・サービスの利用状況

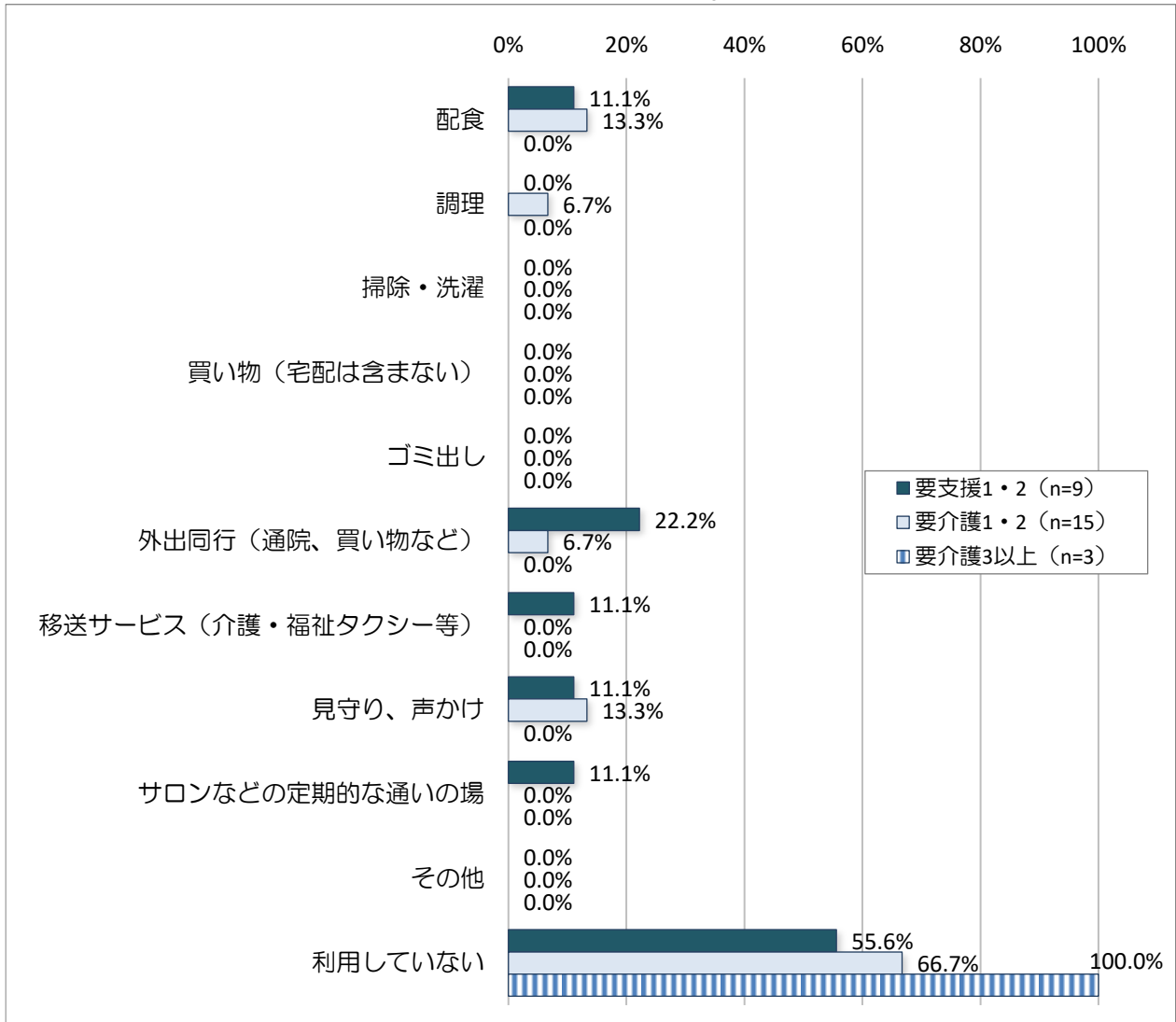
要介護度別に保険外の支援・サービスの利用状況を見ると、要介護3以上で「利用していない」割合がやや高くなっています。要支援1・2で「サロンなどの定期的な通いの場」が7.0%となっていますが、重度化に伴い割合が低くなっています。

さらに世帯類型別に、要介護度別の保険外の支援・サービスの利用状況を見ると、該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、単身世帯では重度化に伴い「利用していない」割合が高くなっており、夫婦のみ世帯では重度化に伴い「利用していない」割合が低くなっています。その他世帯では要介護度による大きな差はみられませんでした。

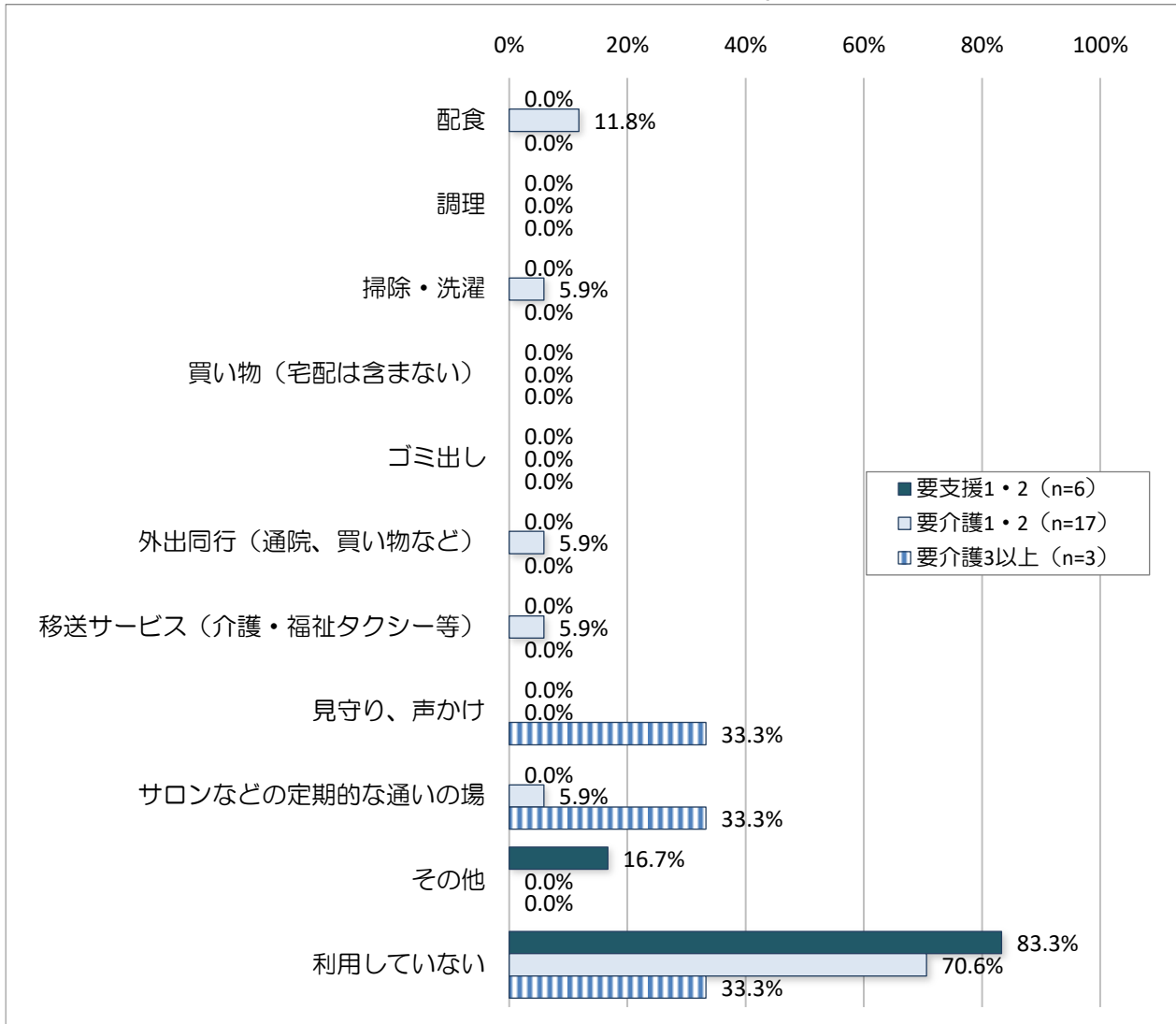
### 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）

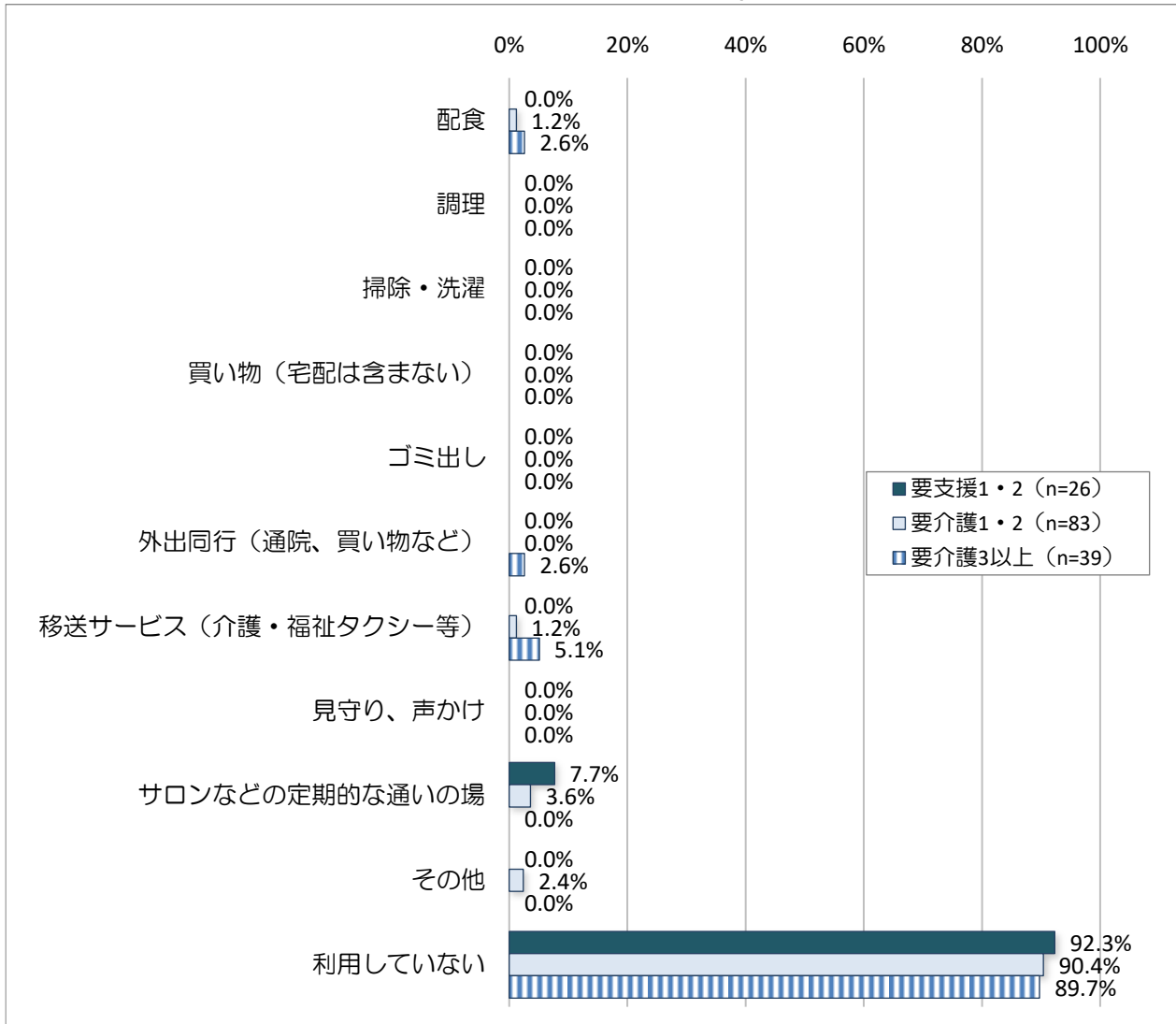


要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）





要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）

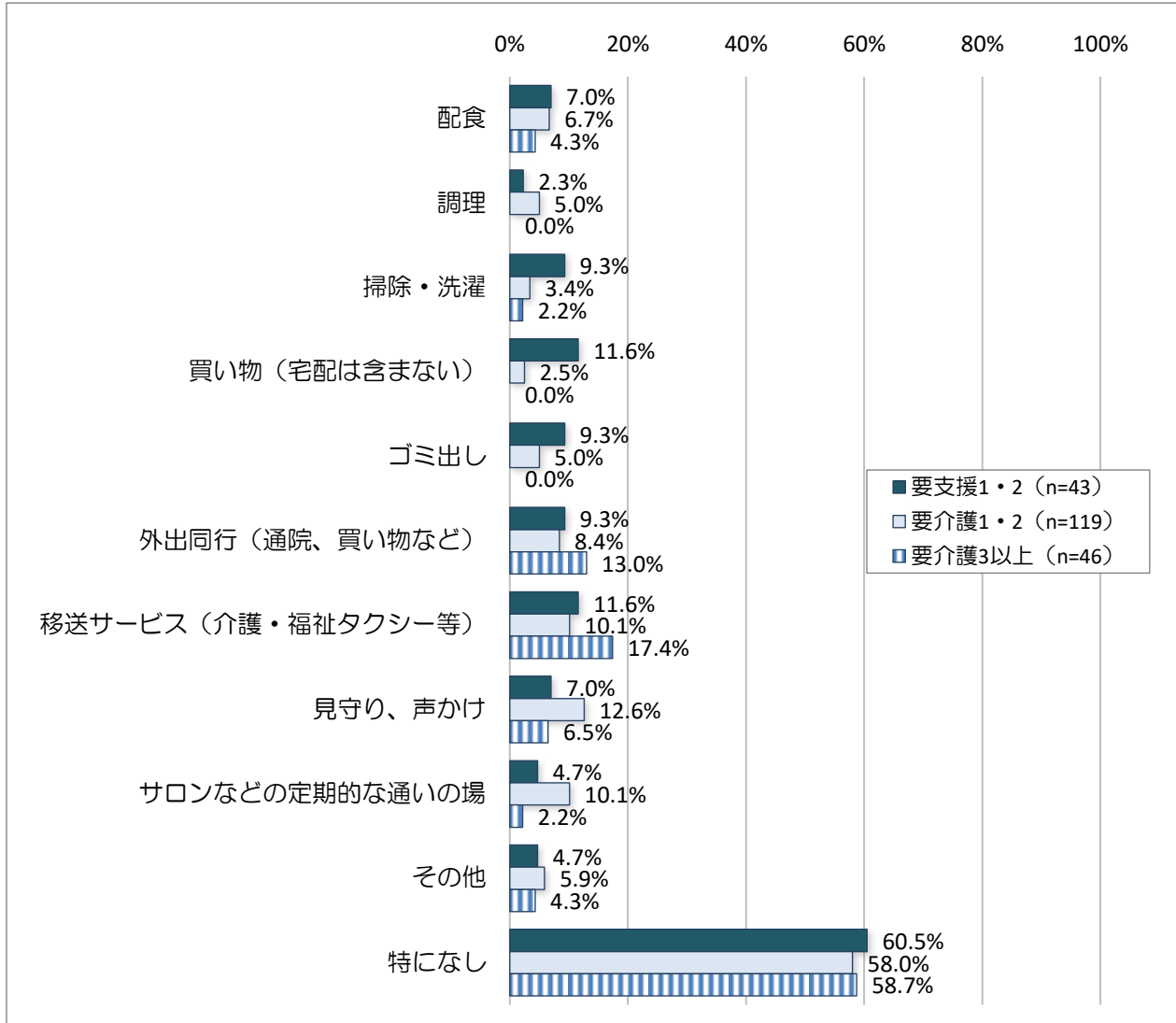


### 3. 世帯類型×要介護度別の必要と感じる支援・サービス

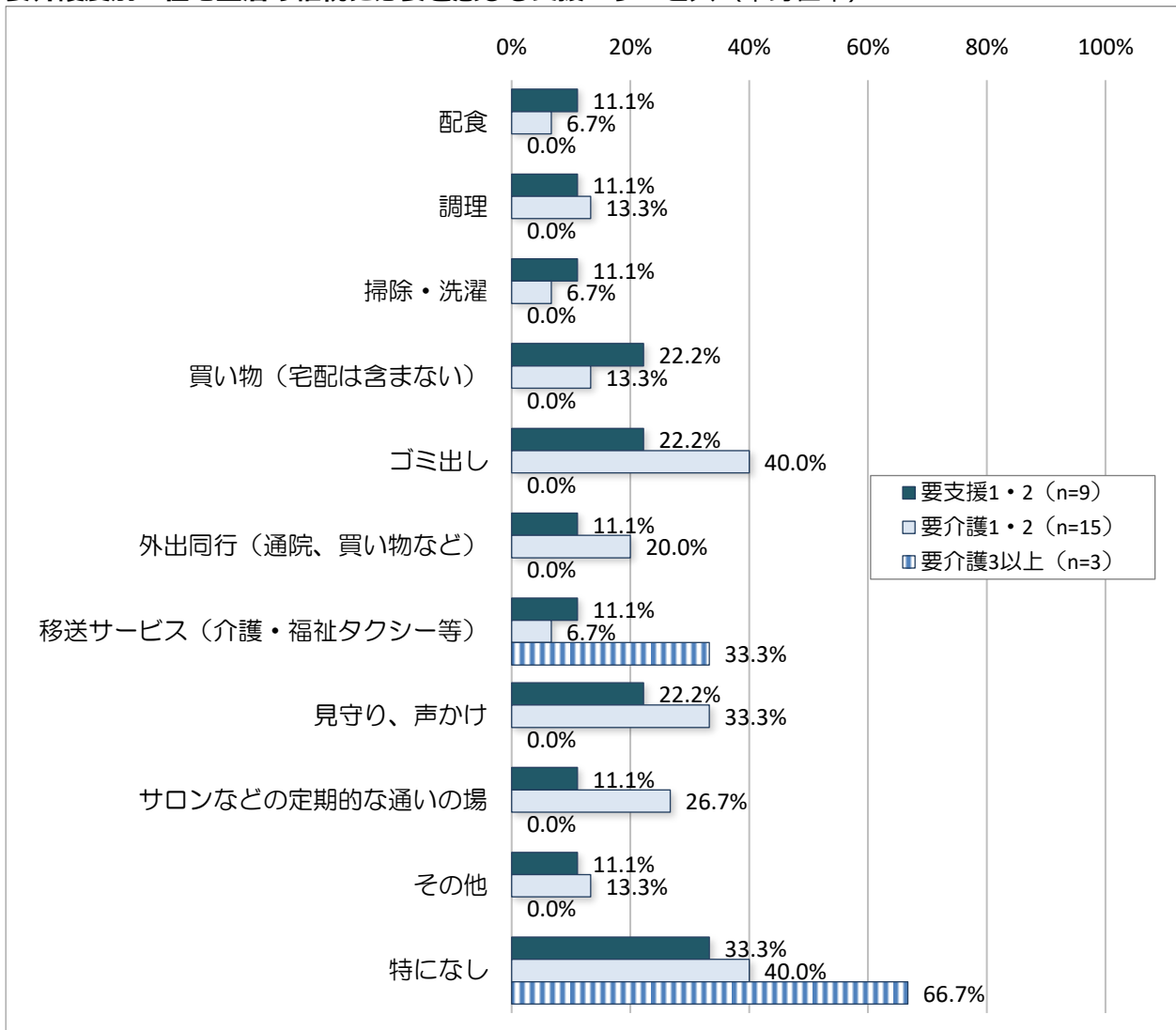
要介護度別に在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、「移送サービス」、「外出同行」の割合が高く、重度化に伴い割合が高くなる傾向にあります。

さらに世帯類型別に、要介護度別の必要と感じる支援・サービスをみると、該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、単身世帯では重度化に伴い「特になし」の割合が高くなっており、その他世帯では重度化に伴い「特になし」の割合が低くなっています。

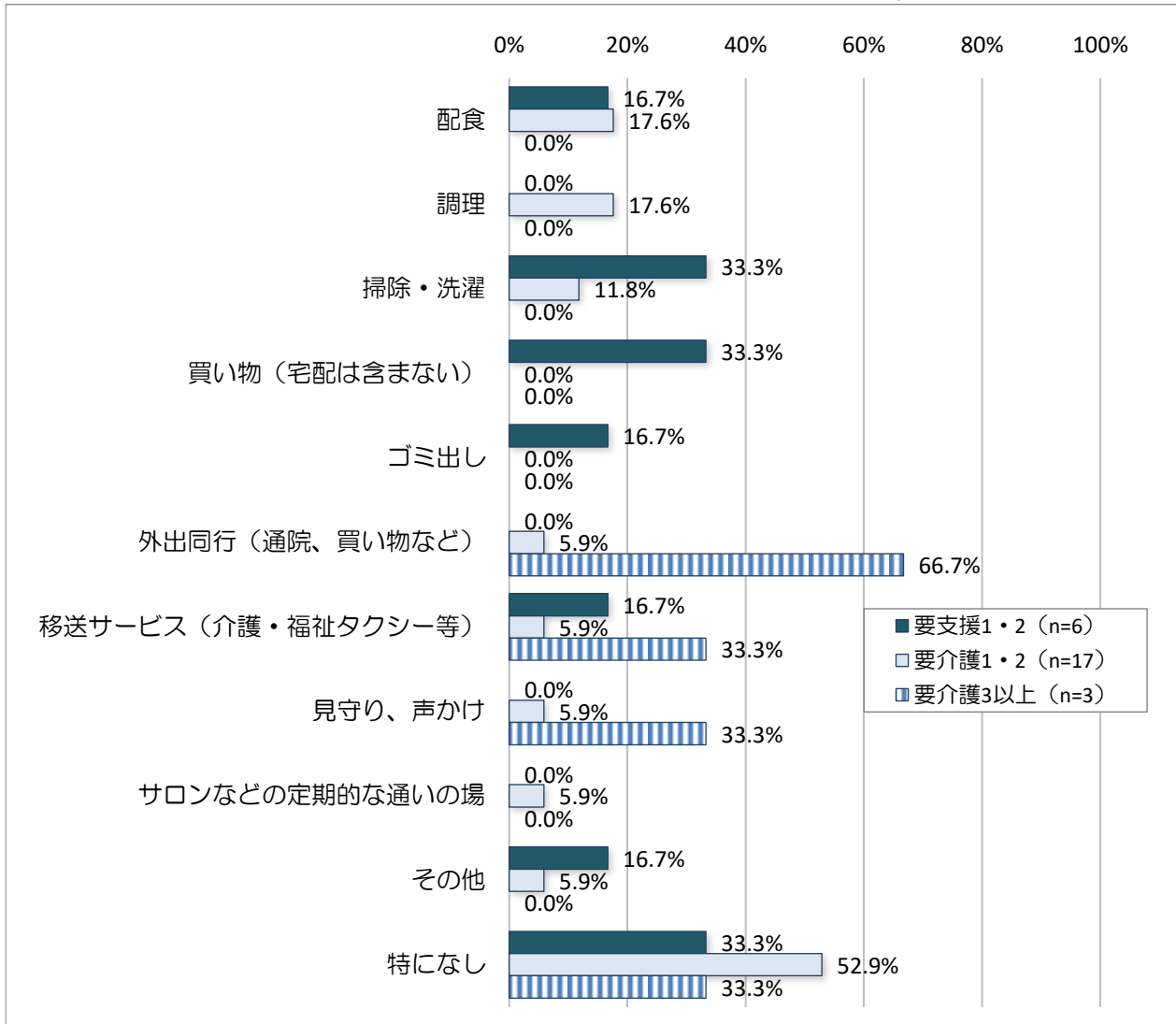
#### 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



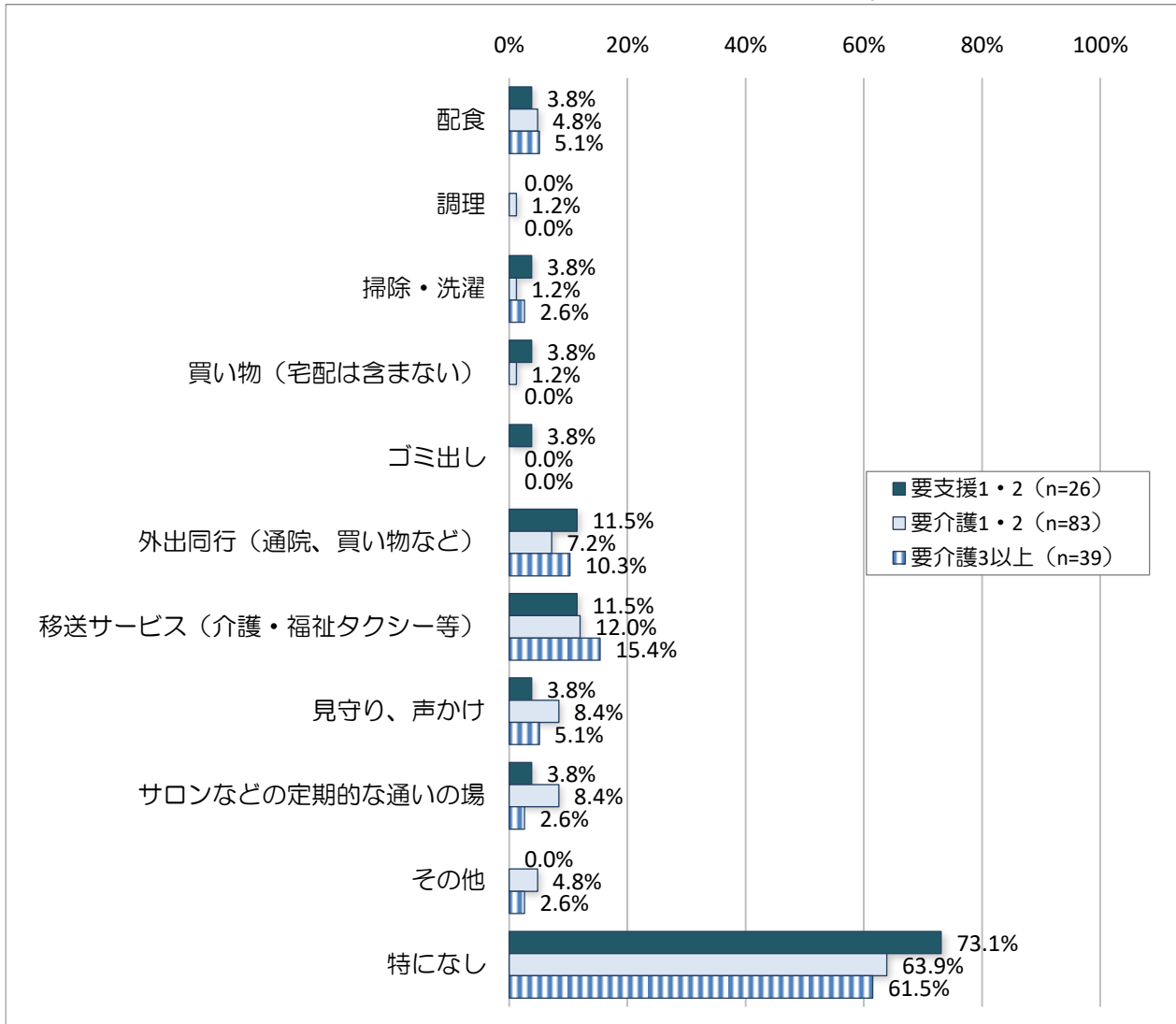
要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



## （４）将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討など、世帯類型別のサービス利用の傾向や、施設等検討の状況について集計を行いました。

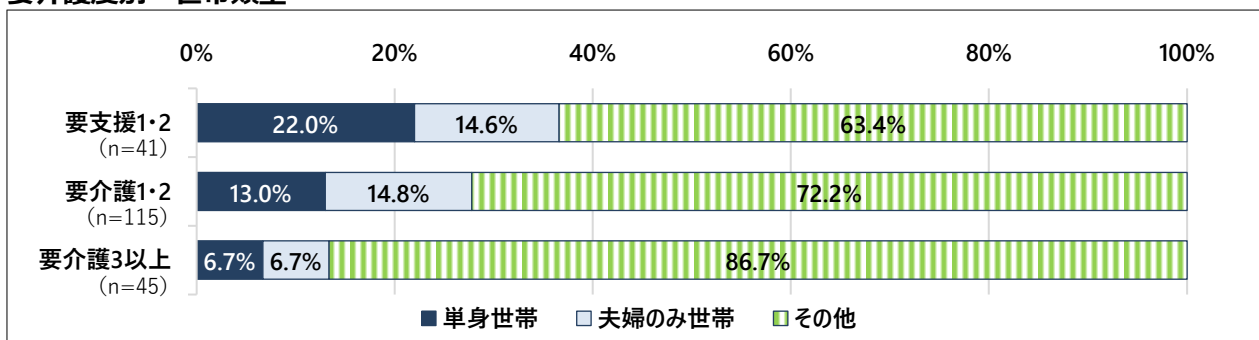
### 1. 要介護度と世帯類型

要介護度別に世帯類型をみると、重度化に伴い「単身世帯」の割合が低くなり、「その他世帯」の割合が高くなっています。

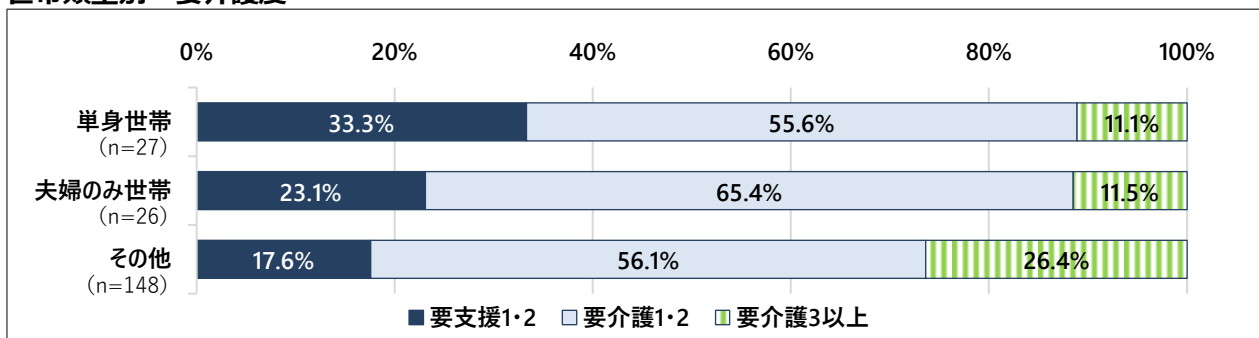
世帯類型別に要介護度をみると、単身世帯では「要支援 1・2」の割合が高く、「要介護 3 以上」の割合が低くなっています。「要介護 3 以上」の割合が最も高いのはその他世帯で 26.4%となっています。

これらのことから「単身世帯」では、重度化した場合に在宅生活の継続が困難になると考えられます。

#### 要介護度別・世帯類型



#### 世帯類型別・要介護度

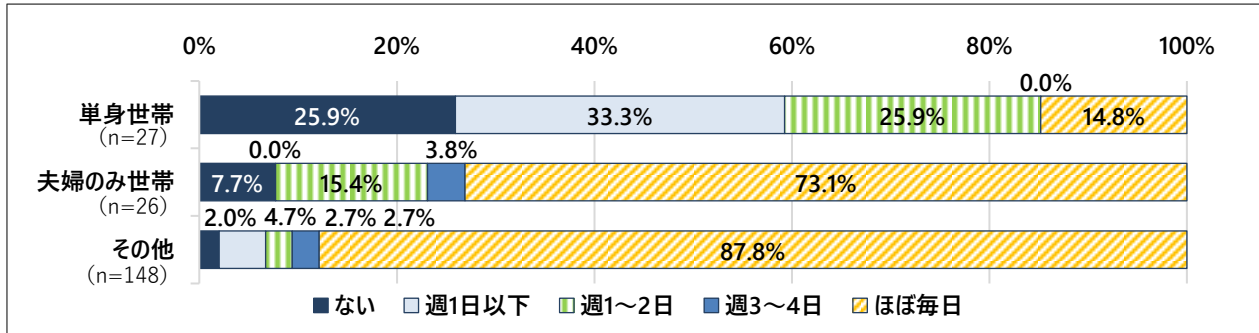


## 2. 要介護度×世帯類型別の家族等による介護の頻度

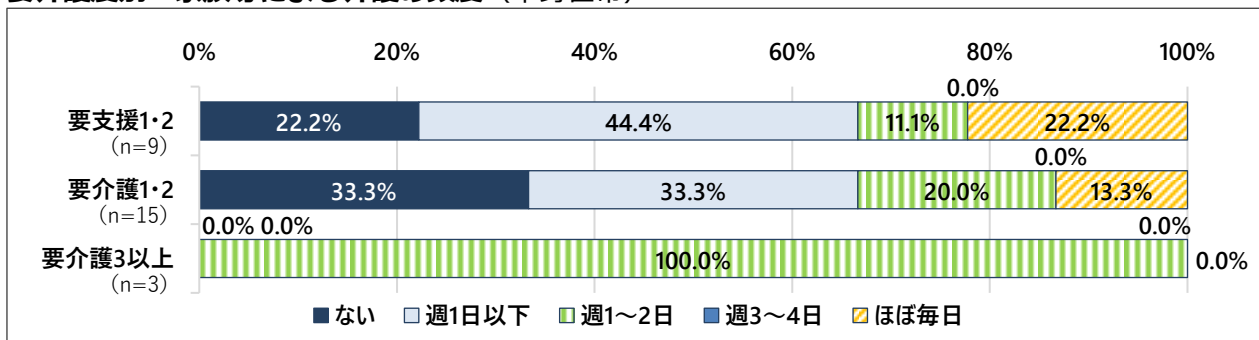
世帯類型別の家族等による介護の頻度を比較すると、「ほぼ毎日」の割合が最も高いのはその他世帯で87.8%、最も低いのは単身世帯で14.8%となっています。

さらに世帯類型別に、要介護度別の家族等による介護の頻度をみると、単身世帯と夫婦のみ世帯では該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することはできませんでしたが、その他世帯では、要介護1・2で「ほぼ毎日」の割合が最も高くなっています。

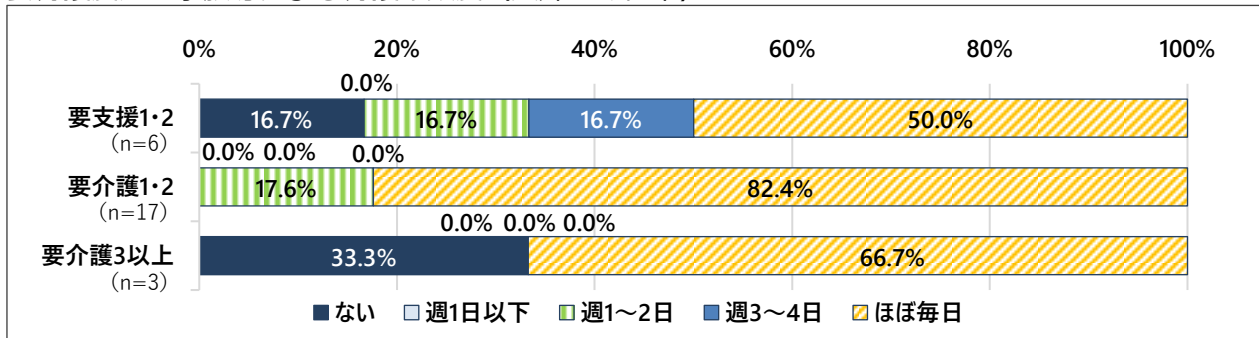
### 世帯類型別・家族等による介護の頻度



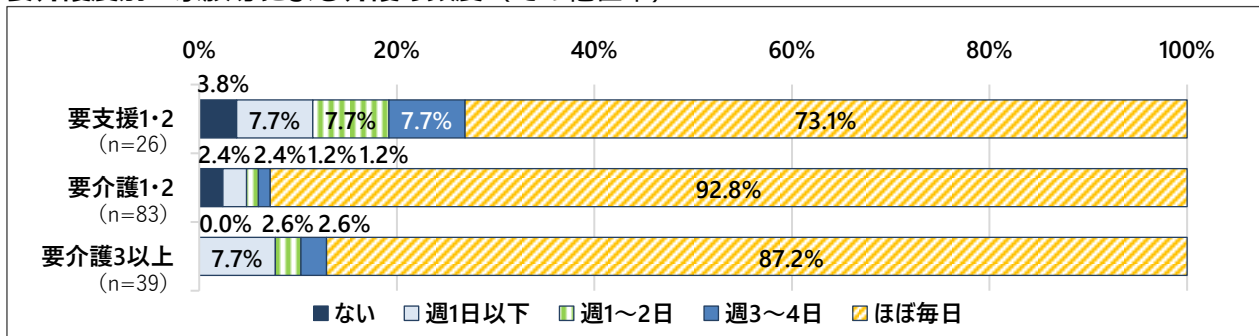
### 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



### 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



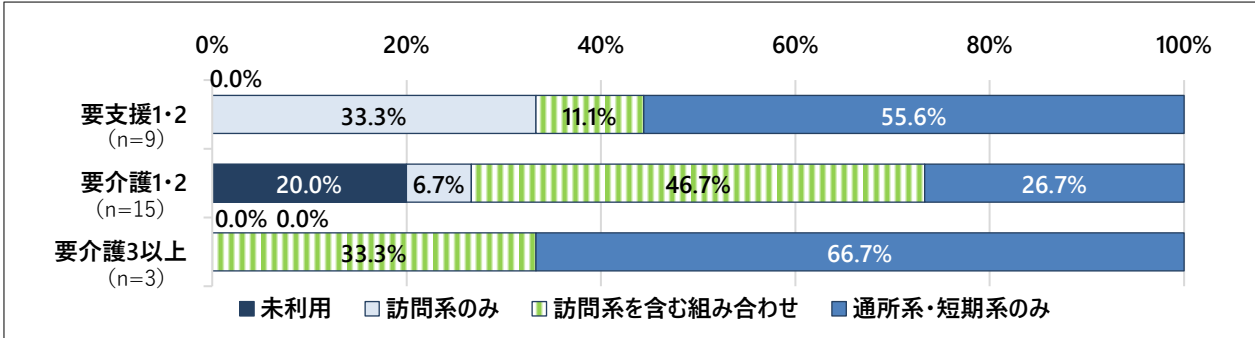
### 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



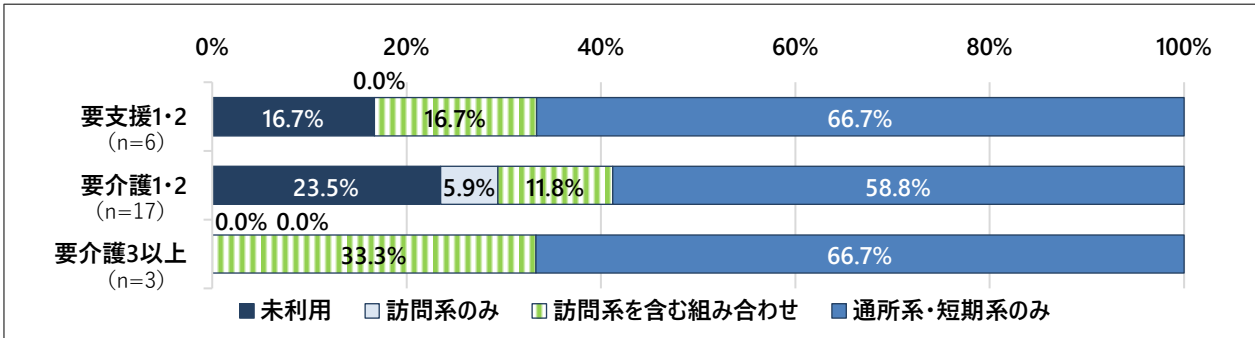
### 3. 要介護度・認知症自立度×世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

世帯類型別の要介護度別のサービス利用の組み合わせをみると、単身世帯と夫婦のみ世帯では該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することはできませんでしたが、その他世帯では重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」の割合が高くなっています。

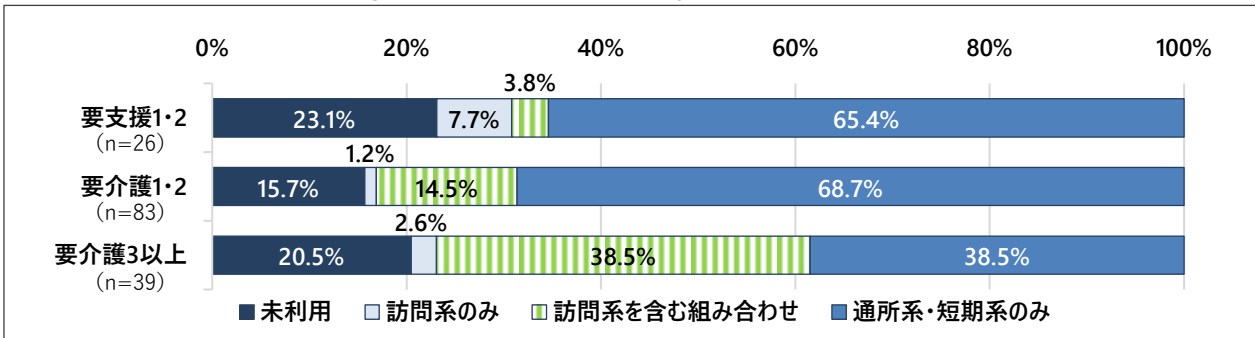
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



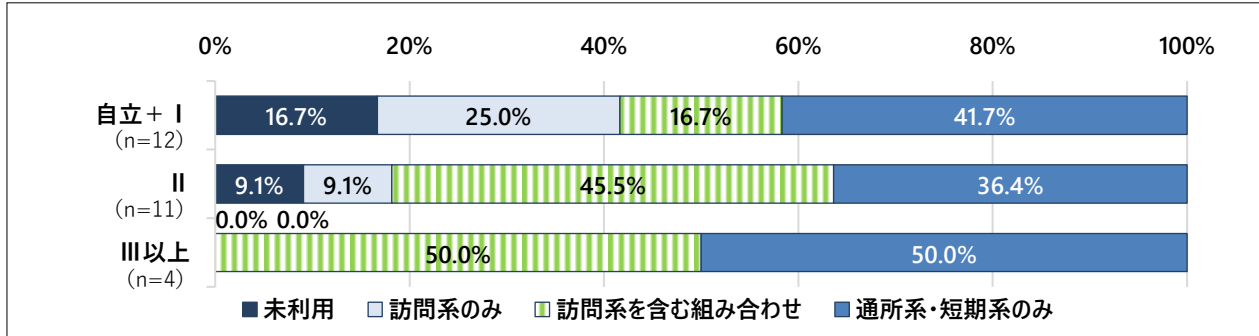
要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



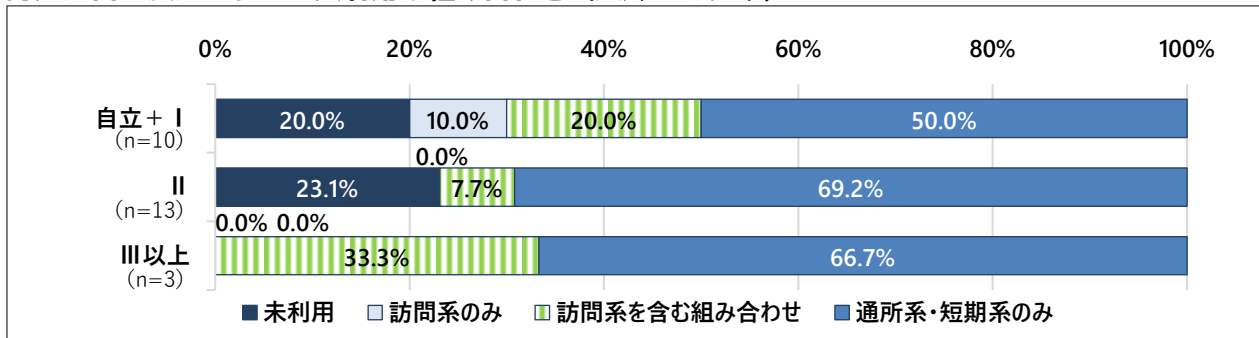


認知症自立度別のサービス利用の組み合わせでも、単身世帯と夫婦のみ世帯では該当者数（n 値）が少ないため傾向を判断することはできませんでした。その他世帯では認知症自立度Ⅱでサービス「未利用」の割合が高く、「訪問系を含む組み合わせ」の割合が低くなっています。

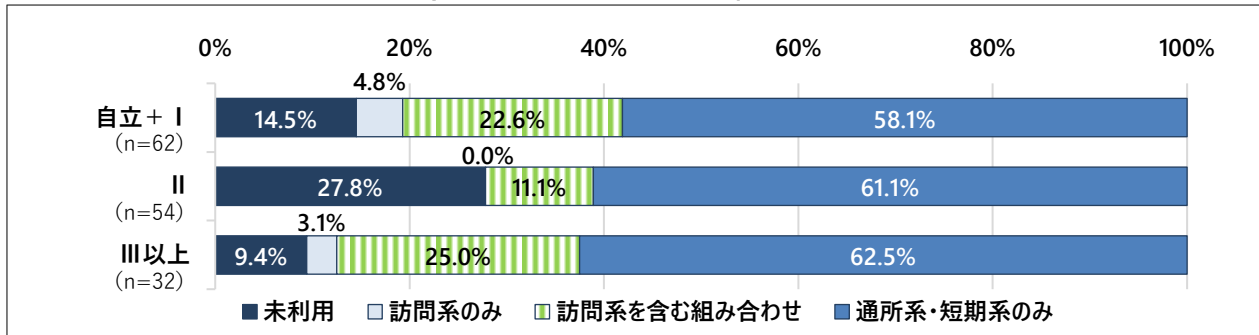
認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）

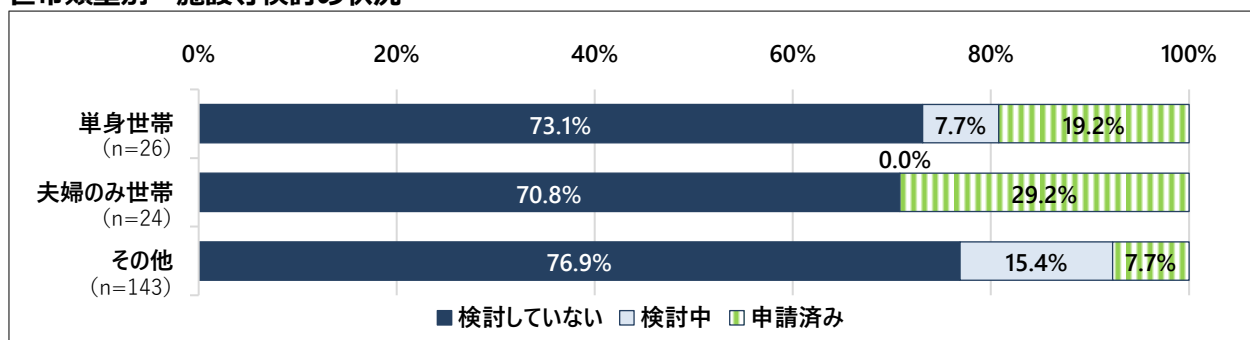


#### 4. 要介護度・認知症自立度×世帯類型別の施設等検討の状況

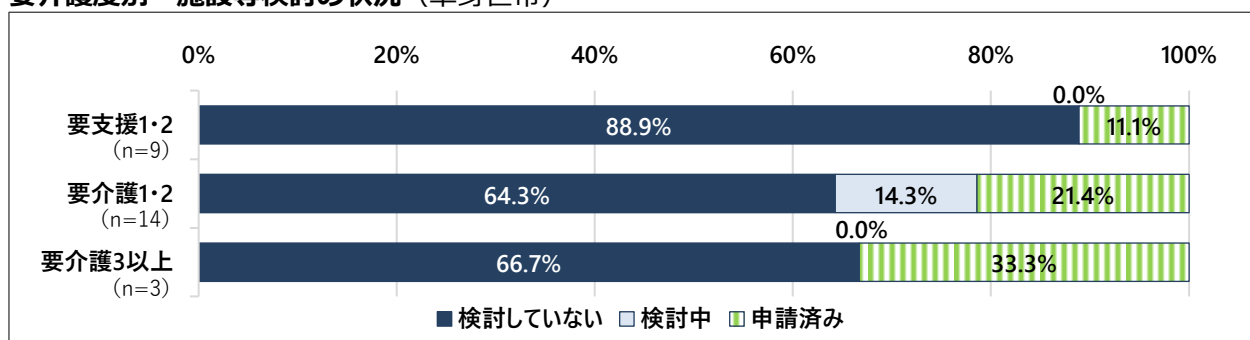
世帯類型別の施設等検討の状況をみると、その他世帯で「検討していない」割合がやや高くなっています。

さらに世帯類型別に、要介護度別の施設等検討の状況をみると、単身世帯と夫婦のみ世帯では該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することはできませんでしたが、その他世帯では要支援1・2で「検討していない」割合が高くなっています。

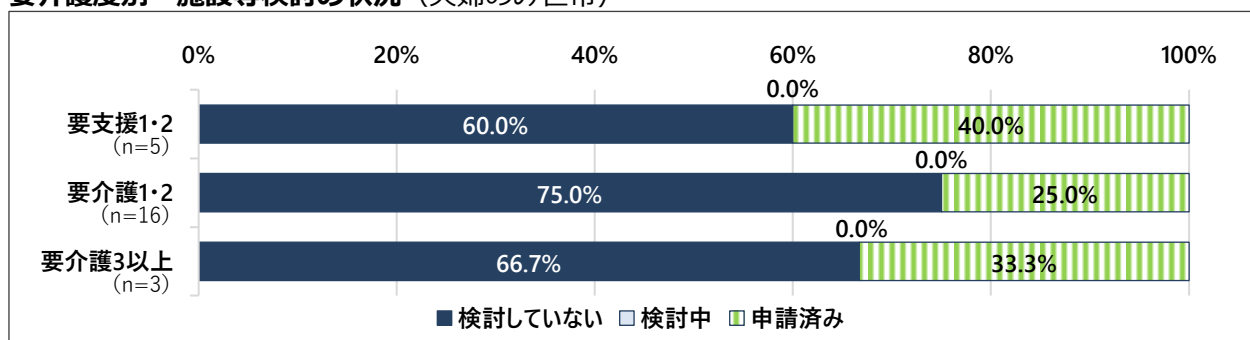
##### 世帯類型別・施設等検討の状況



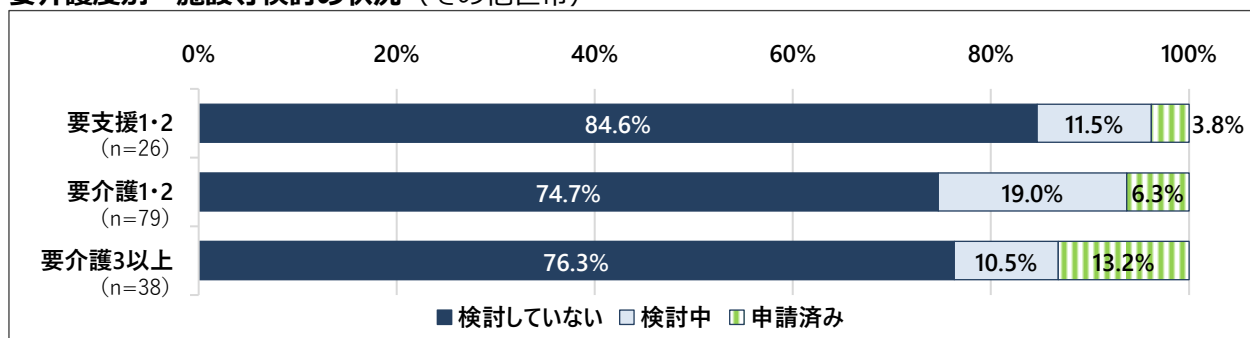
##### 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



##### 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）

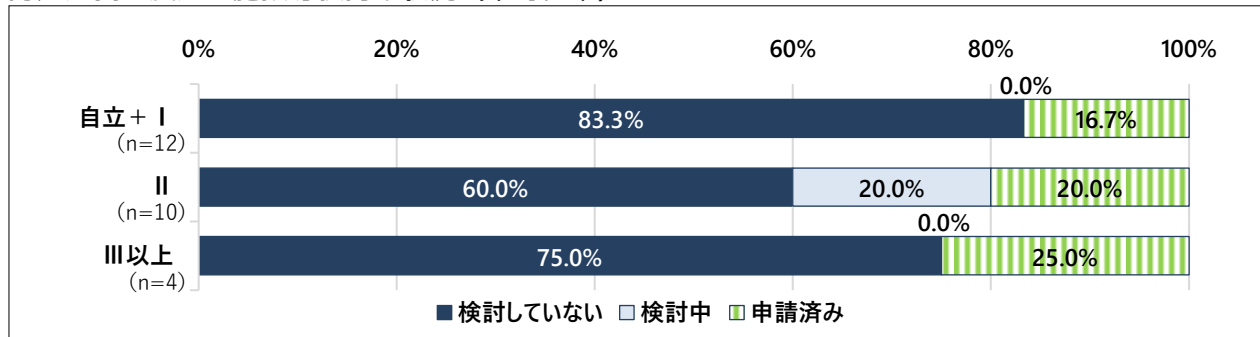


##### 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）

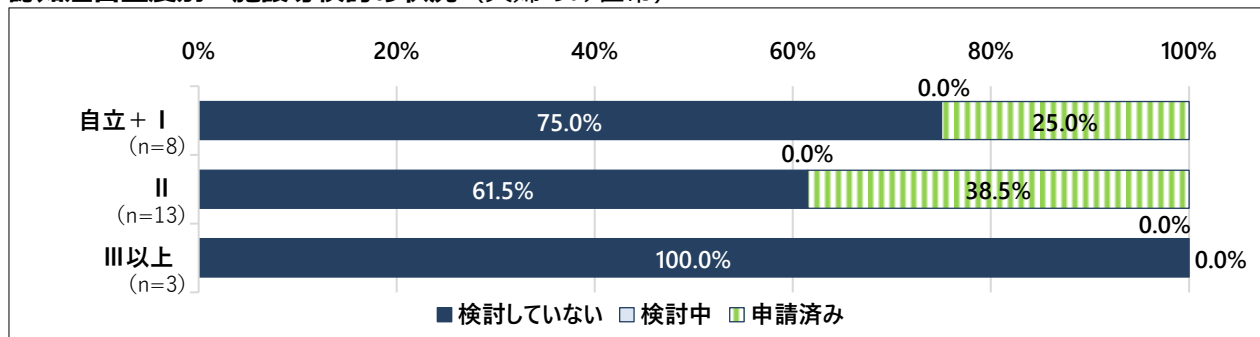


認知症自立度別の施設等検討の状況でも、単身世帯と夫婦のみ世帯では該当者数（n 値）が少ないため傾向を判断することはできませんでした。その他世帯では重度化に伴い「検討していない」割合が低くなっています。

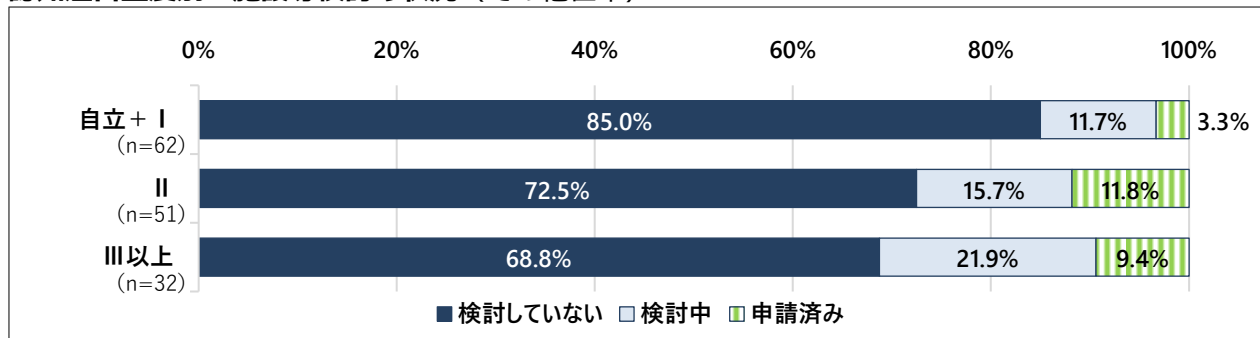
認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



認知症自立度別・施設等検討の状況（その他世帯）



## **(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討**

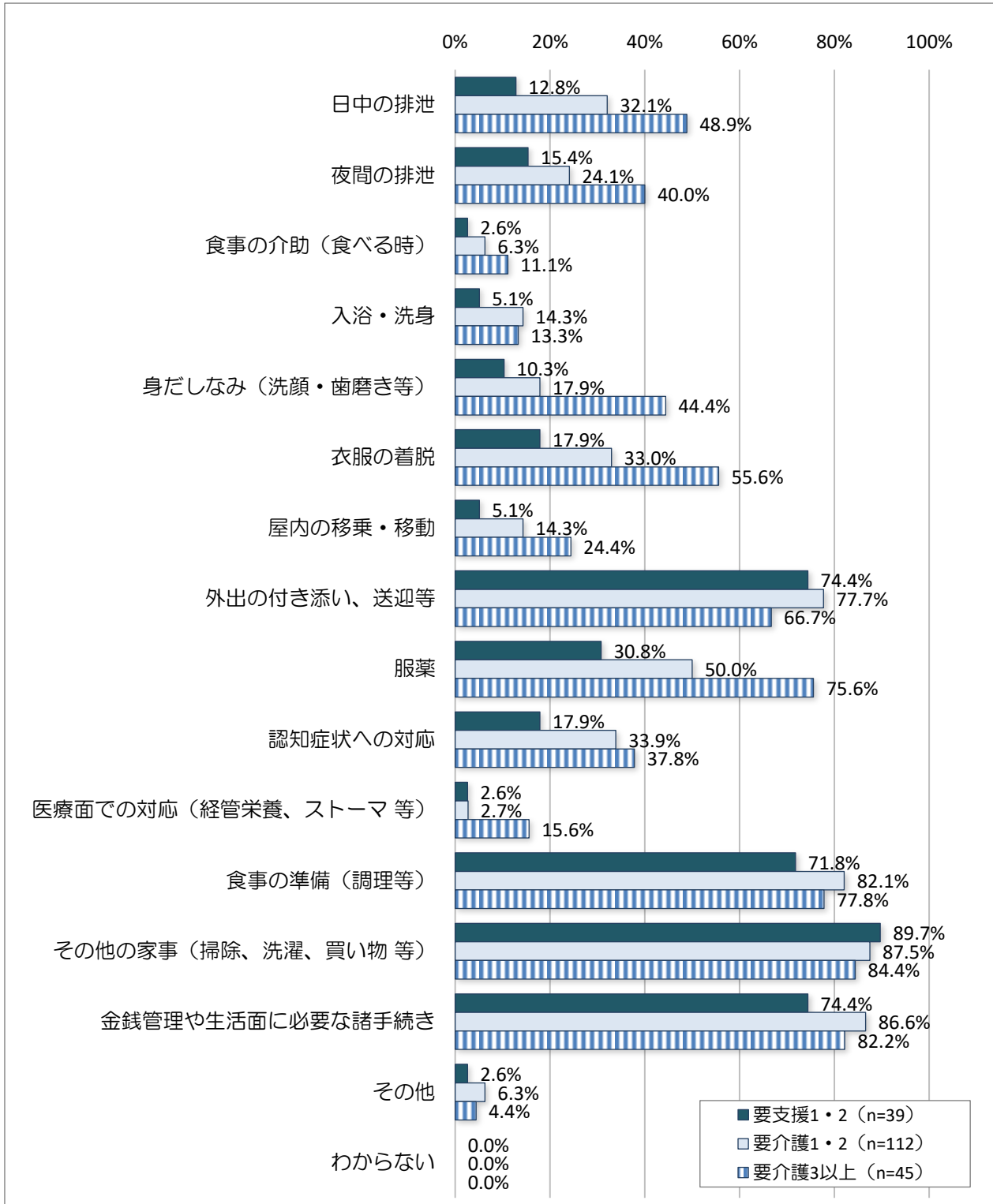
---

医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるため、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行いました。

## 1. 要介護度・世帯類型別の主な介護者が行っている介護

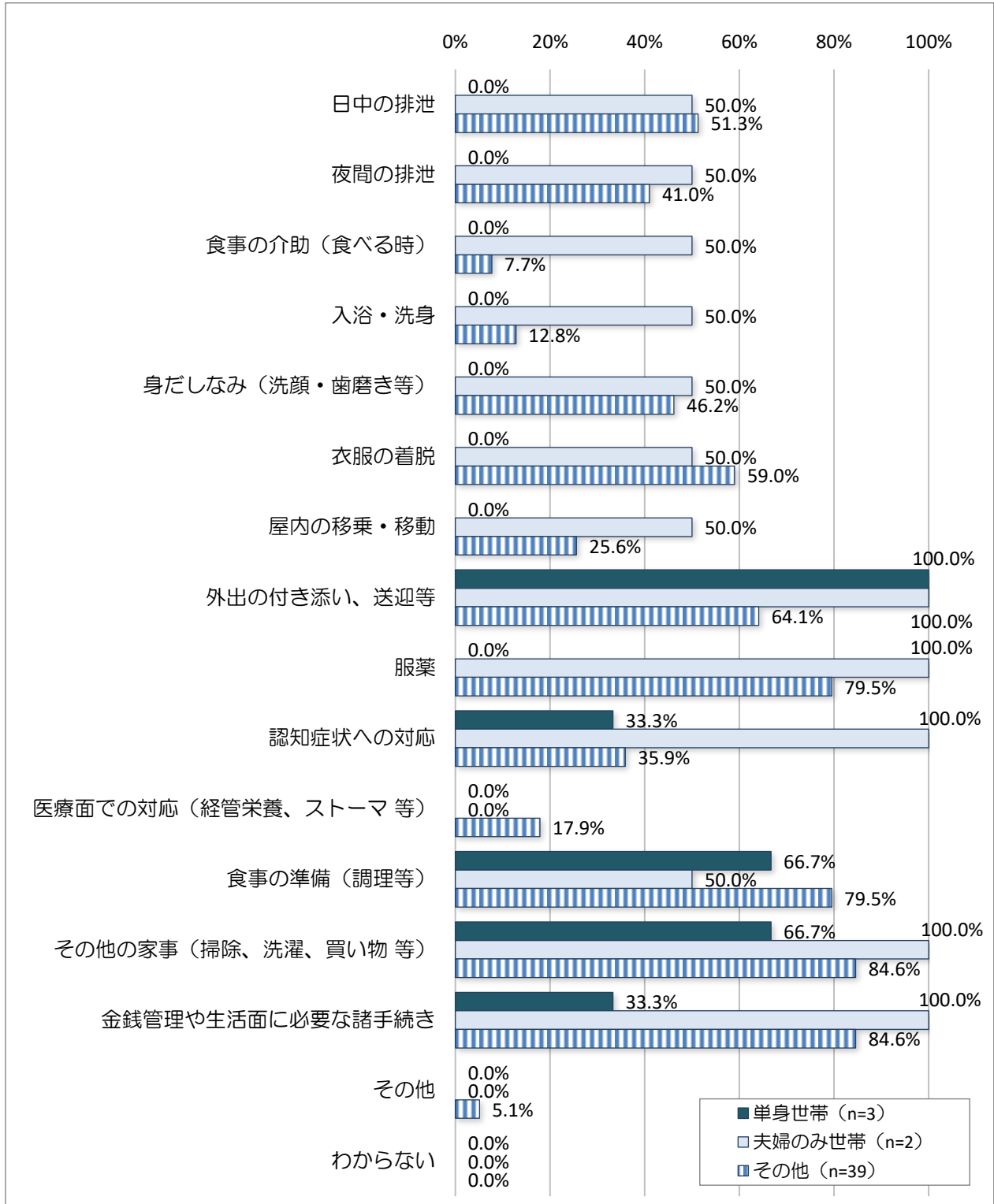
要介護度別に主な介護者が行っている介護の「医療面での対応」をみると、要介護3以上で割合が大幅に高くなっています。

### 要介護度別・主な介護者が行っている介護



さらに要介護3以上について、世帯類型別に「医療面での対応」の割合をみると、単身世帯と夫婦のみ世帯では該当者数（n値）が少なく0.0%ですが、その他世帯では17.9%となっています。

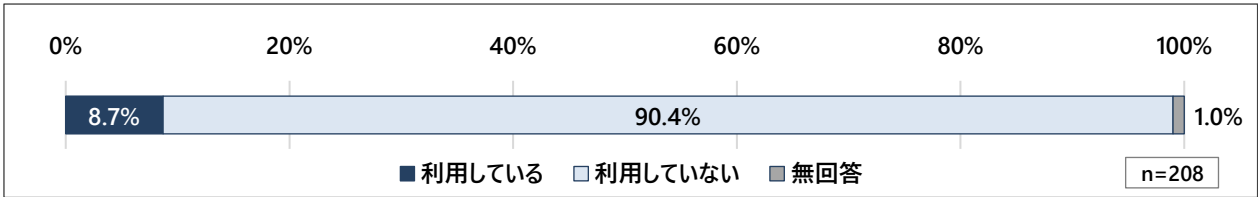
**世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）**



## 2. 訪問診療の利用割合

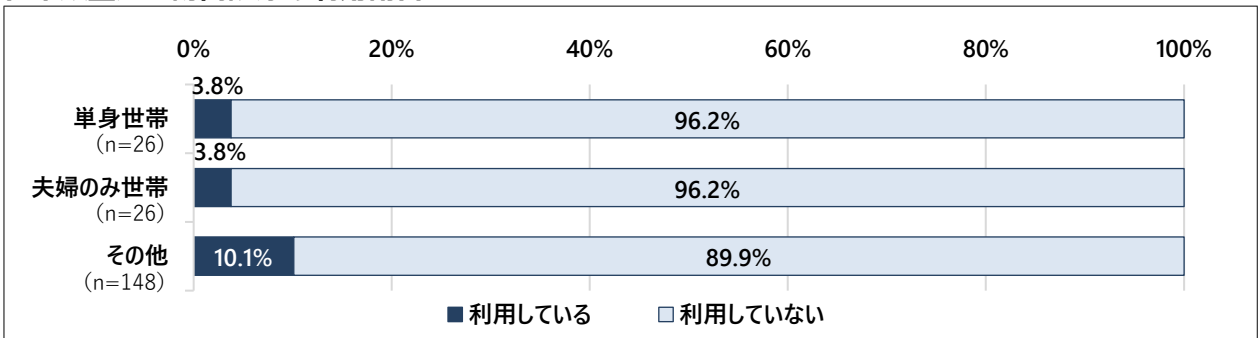
訪問診療は、「利用している」が8.7%、「利用していない」が90.4%となっています。

### 訪問診療の利用の有無



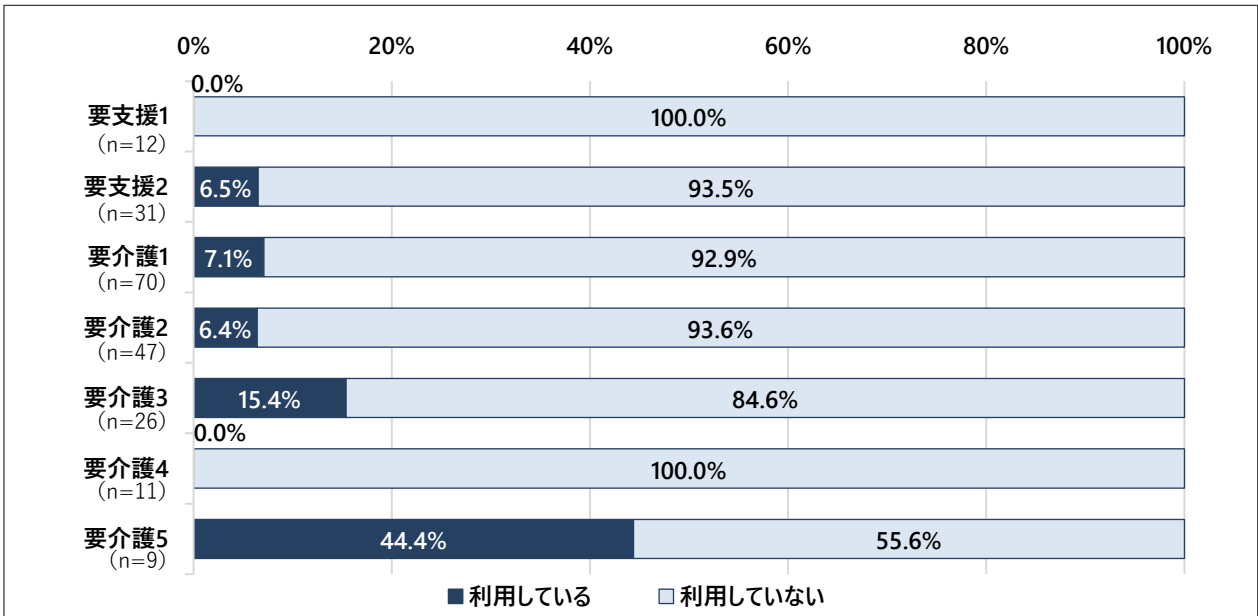
世帯類型別にみると、その他世帯で「利用している」割合が高くなっています。

### 世帯類型別・訪問診療の利用割合



要介護度別にみると、要介護4では「利用している」は0.0%となっていますが、重度化に伴い「利用している」割合が高くなる傾向にあります。

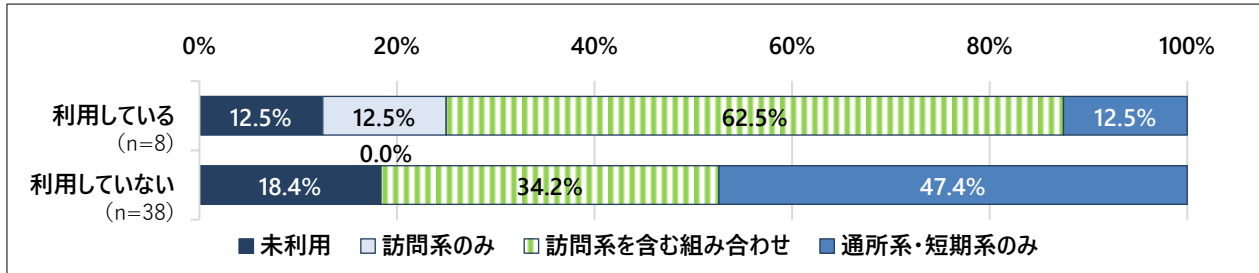
### 要介護度別・訪問診療の利用割合



### 3. 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

要介護3以上について、訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせをみると、該当者数(n値)が少ないため傾向を判断することは難しいですが、「利用している」では「未利用」と「通所系・短期系のみ」の割合が低くなっており、訪問系を含む組み合わせのサービスを利用している割合が高くなっています。訪問診療を利用しているケースでは、訪問看護等を組み合わせ利用していると考えられます。

訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ (要介護3以上)

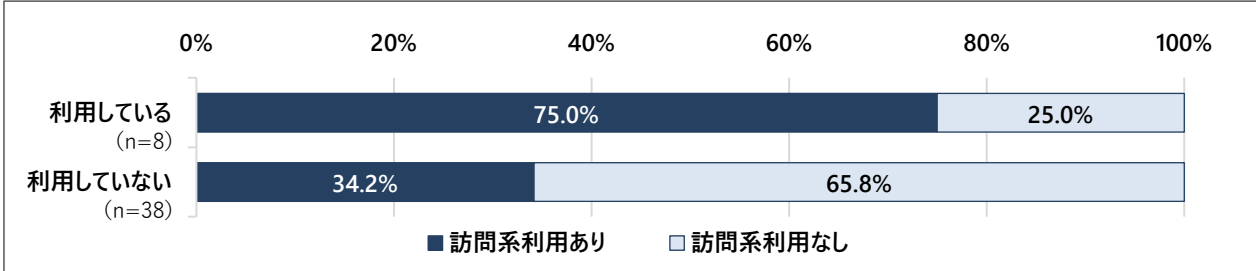




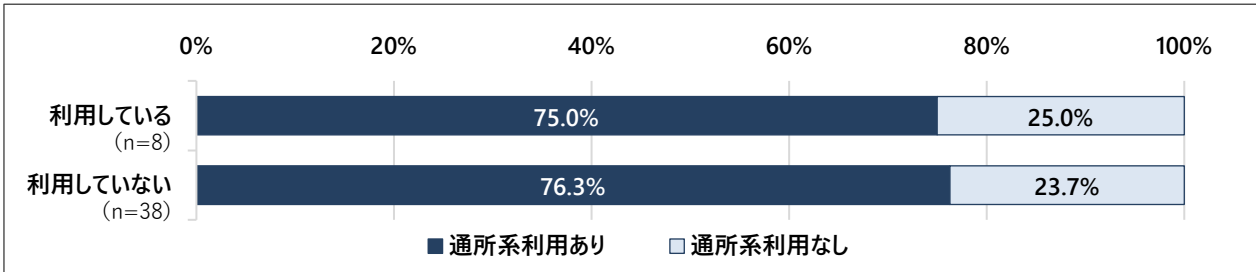
#### 4. 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

要介護3以上について、訪問診療の利用の有無別のサービス利用の状況を、訪問系・通所系・短期系それぞれについてみると、訪問系サービスは、訪問診療を利用している方が「訪問系利用あり」の割合が高くなっていますが、通所系・短期系サービスでは、訪問診療の利用の有無別に大きな差はみられませんでした。

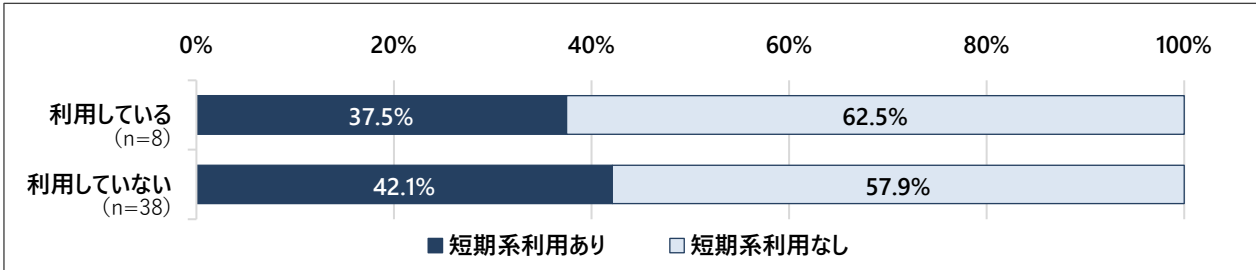
訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無：訪問系（要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無：通所系（要介護3以上）



訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無：短期系（要介護3以上）

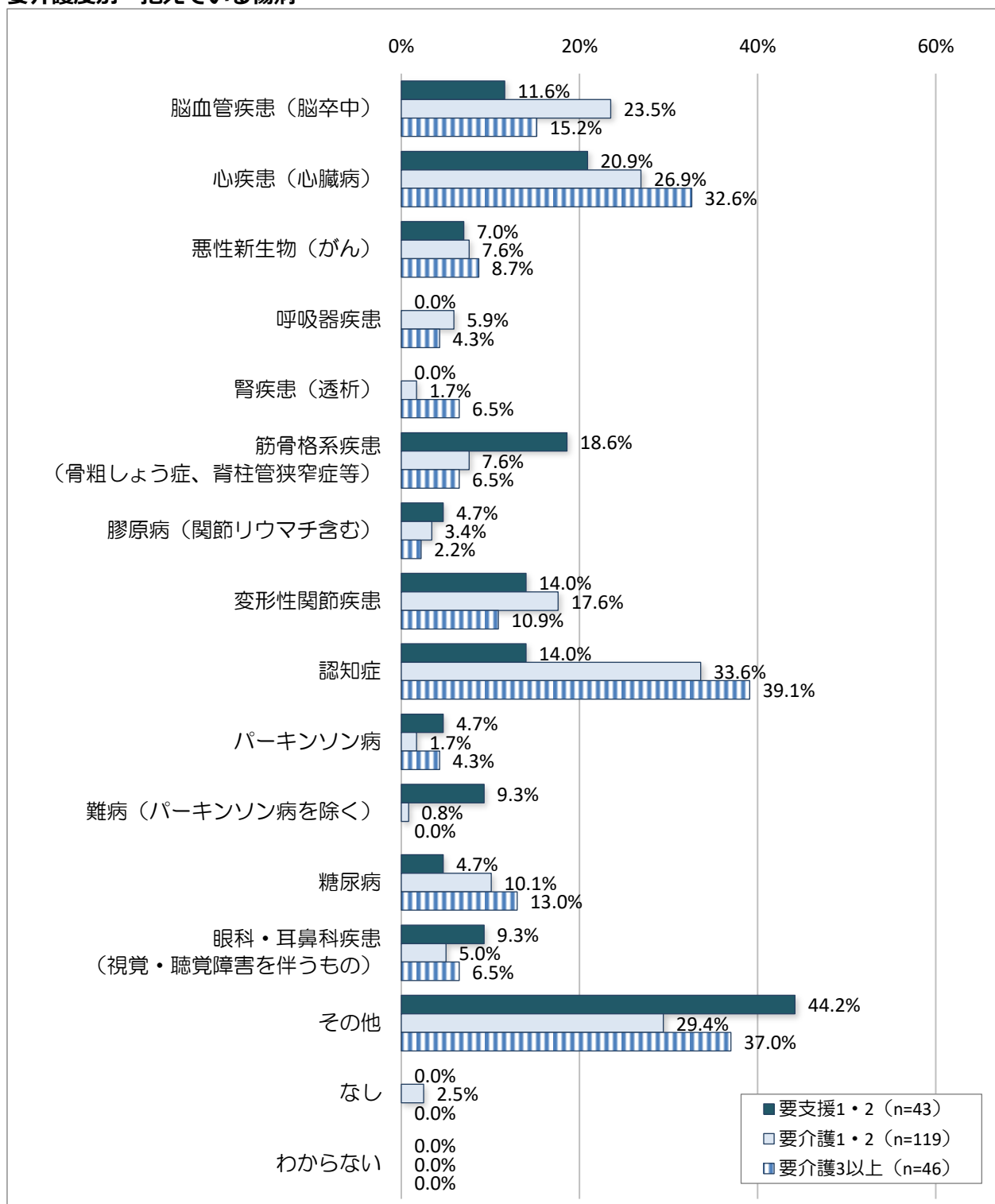


## (6) 抱えている疾病など

### 1. 要介護度・訪問診療の利用の有無別の抱えている疾病

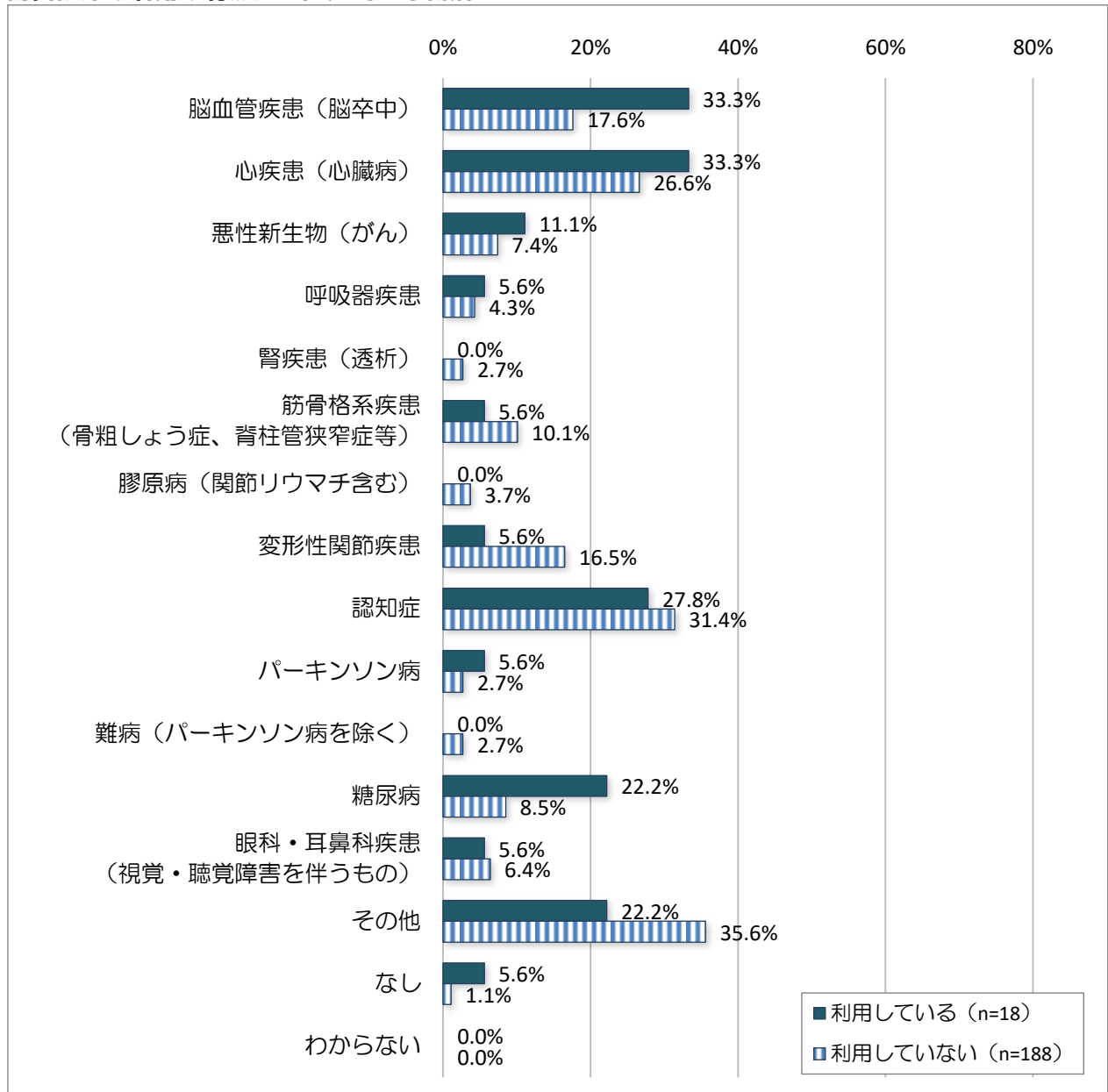
要介護度別に、抱えている疾病をみると、「認知症」、「心疾患（心臓病）」の割合が高くなっており、重度化に伴い割合が高くなっています。

#### 要介護度別・抱えている傷病



訪問診療の利用の有無別に、抱えている疾病をみると、訪問診療を利用している方が割合が高くなっている疾病は、「脳血管疾患（脳卒中）」、「心疾患（心臓病）」、「糖尿病」、「悪性新生物（がん）」などとなっています。

**訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病**

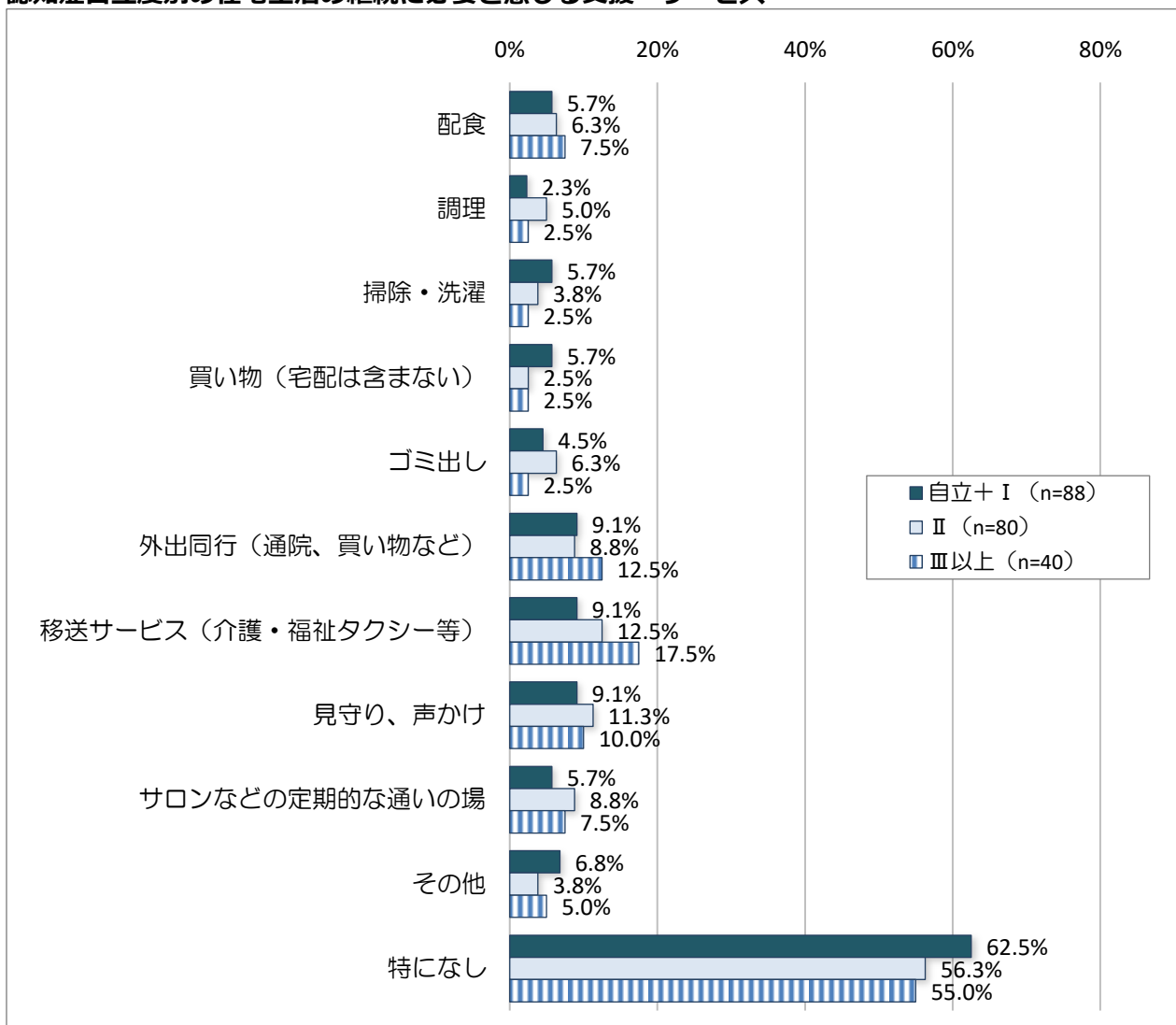


## 2. 認知症自立度・世帯類型別の必要と感じる支援・サービス

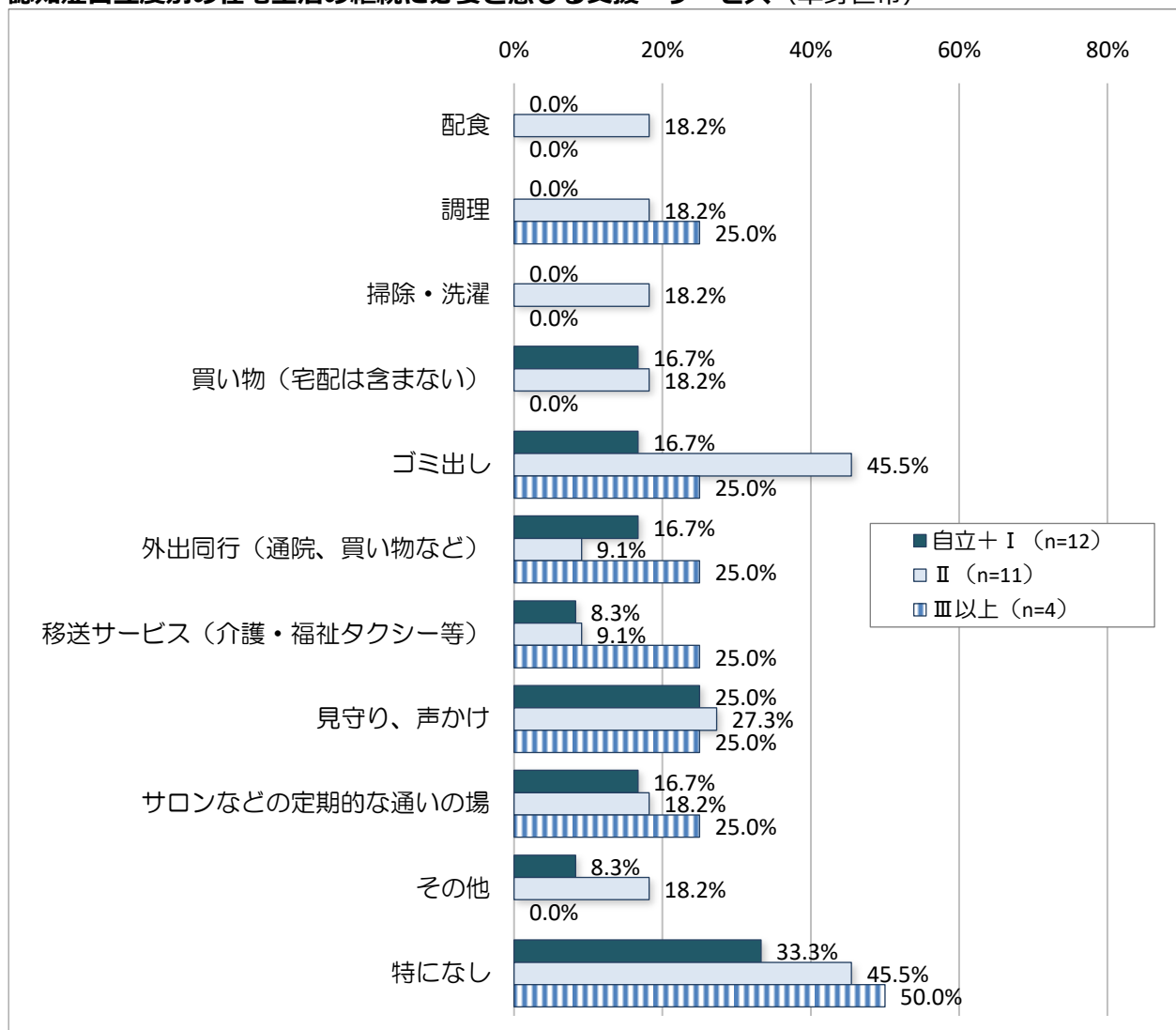
認知症自立度別に、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、重度化に伴い「特になし」の割合が低くなり、「移送サービス」、「外出同行」のニーズが高くなっています。

さらに世帯類型別に、認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをみると、単身世帯と夫婦のみ世帯では該当者数（n値）が少ないため傾向を判断することは難しいですが、単身世帯と夫婦のみ世帯では、重度化に伴い「特になし」の割合が高くなっています。一方でその他世帯では、重度化に伴い「特になし」の割合が低くなっていますが、「移送サービス」、「外出同行」などは重度化とともに割合が高くなっています。

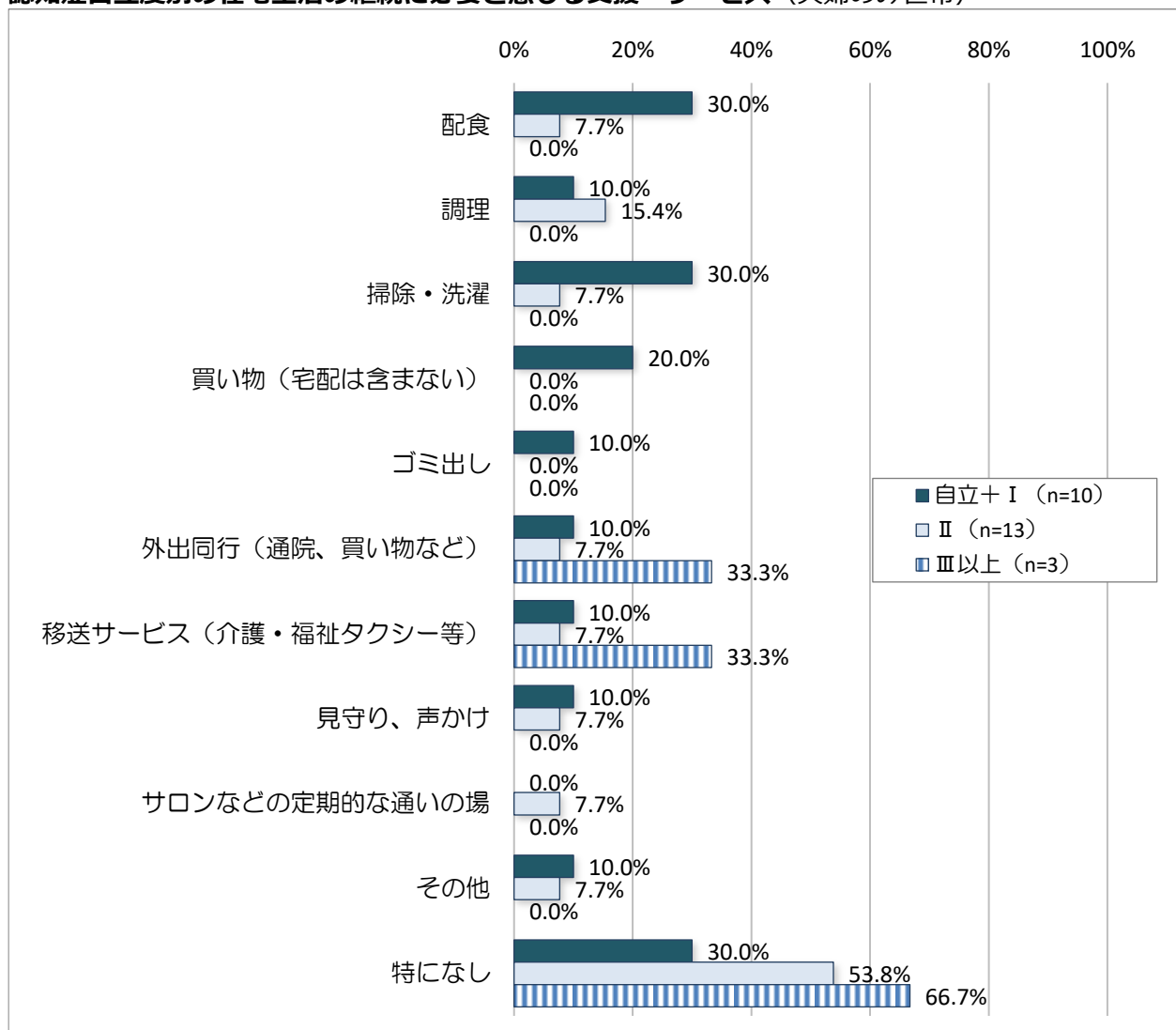
認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）

